

AV センター

TX-SA706X

取扱説明書

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書、オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内とともに大切に保管してください。

主な特長

- 各種サラウンド方式に対応した 7.1 チャンネルアンプ
- THX Ultra 2 Plus＊1 規格に準拠
- HDMI 1.3a 規格 Repeater System（Deep Color、x.v. Color＊2、Lip Sync）、DTS＊3-HD Master Audio、DTS-HD High Resolution Audio、ドルビーデジタルプラス、ドルビー TrueHD＊4、SA-CD(Supper Audio-CD)、Multi-CH PCM 再生可能
- 2 つまたは 3 つのスピーカーでもバーチャル 5.1 サラウンドが楽しめる T-D（Theater-Dimensional＊5）モード搭載
- MPEG-2 AAC＊6 サラウンド再生可能
- HDMI 出力 1080p 互換対応機能とファロージャ DCDi シネマエンハンサー機能搭載
- もともとの音源のままピュアな音を楽しむ「Direct」リスニングモードと、ノイズを最小限におさえ、本来の音を楽しむことのできる「Pure Audio」リスニングモード搭載
- 高音域が強調された劇場用サウンドをご家庭で適切なバランスに補正する「Re-EQ＊7」機能搭載
- 小音量でもサラウンドを楽しめる LATE NIGHT 機能搭載（ドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラス、ドルビー TrueHD 時のみ）
- 24bit/192kHz D / Aコンバーター搭載
- 極めて高い演算能力を持つ TI 社製 32bit DSP（Digital Signal Processor）「Aureus ™」を搭載
- 飛躍的な音質向上、デジタル信号からピュアなアナログ信号を生成する VLSC＊8（Vector Linear Shaping Circuitry）を全チャンネルに搭載
- 再生周波数の広帯域化を図る WRAT（Wide Range Amplifier Technology）搭載
- システムを制御するオンキヨー RIHD（Remote Interactive over HDMI）搭載
- ダウンミックスによるフロント L/R チャンネルのダイナミックレンジの減少や、S/N 劣化を防ぐ技術「ノン・スケーリング・コンフィグレーション」採用の回路
- 信号とノイズ領域との近接を回避して聴感上の S/N を向上させるリニア・オプティマム・ゲイン・ボリューム回路
- デジタル音声 / 映像信号を 1 本のケーブルで伝送可能な HDMI＊9 入力 5 系統、出力 1 系統装備
- ビデオコンバーター搭載＊10 ビデオ（コンポジット）、S ビデオ、D4/ コンポーネント信号を HDMI 出力端子に出力
- D4/ コンポーネント映像入力端子各 2 系統、出力端子各 1 系統装備
- S 映像入力端子 5 系統 / 出力端子 2 系統装備
- 7.1 マルチチャンネル入力端子／プリアウト出力端子装備、DVD-Audio プレーヤーやスーパーオーディオ CD プレーヤーへの拡張性を実現
- デジタル入力端子として光 3 系統 / 同軸 3 系統、デジタル出力端子として光 1 系統装備
- 圧縮された音楽ファイルをより良い音で楽しむ Music Optimizer ™＊11 機能搭載
- 精度の高い高音域、低音域を実現するバイアンプ接続が可能
- 音声と映像のズレを補正する AV シンクコントロール機能搭載
- 付属の測定用マイクで精密な自動スピーカー（Audyssey MultEQ＊12）設定可能
- モニターを見ながら、簡単設定ができる OSD（On Screen Display）機能搭載
- 小音量でもサラウンドを楽しめる Audyssey Dynamic EQ＊12 Loudness Correction 機能搭載
- 他機の操作を可能にするマクロ機能搭載のリモコン付属

＊1 THX および Ultra2 Plus は、THX 社の商標または登録商標です。Surround EX はドルビーラボラトリーズの登録商標です。

＊2 x.v.Color は、ソニー株式会社の商標です。

＊3 以下の米国の特許権に基づき製造されています。US パテント Nos、5,451,942; 5,956,674; 5,974,380; 5,978,762; 6,226,616; 6,487,535、また米国以外および世界的な登録または未定の特許。
"DTS" は DTS 社の登録商標です。そして DTS ロゴ、シンボル、DTS-HD および DTS-HD マスターオーディオは DTS 社の商標です。©1996 ～ 2007 DTS 社（保有されるすべての権利を含む）

＊4 ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
"Dolby"、"ドルビー"、"Pro Logic"、"TrueHD" およびダブル D 記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

＊5 Theater-Dimensional は、オンキヨー株式会社の商標です。

＊6 AAC ロゴは、ドルビーラボラトリーズの商標です。

＊7 Re-Equalization、Re-EQ のロゴは THX 社の商標です。

＊8 VLSC は、オンキヨー株式会社の登録商標です。

＊9 HDMI、HDMI ロゴおよび High-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing LLC の商標または登録商標です。

＊10 本機は、合衆国特許権と知的所有権上保障されたマクロビジョンコーポレーションの許可が必要な著作権保護技術を搭載しており、改造または分解は禁止されています。
U.S. パテント Nos. 4, 631, 603; 4, 577, 216; 4, 819, 098; 4, 907, 093; 5, 315, 448; 6, 516, 132

＊11 Music Optimizer は、オンキヨー株式会社の商標です。

＊12 Audyssey Laboratories からの実施権に基づき製造されています。Audyssey MultEQ® および Dynamic EQ は Audyssey Laboratories の商標です。

iPod は、米国およびその他の国々で登録された Apple Inc. の商標または登録商標です。

THX Ultra2 Plus

THX Ultra2 Plusの認定を取得したホーム·シアター·コンポーネントは、いずれも一連の厳しい品質 / 性能試験に合格しています。このような製品にのみ付与されているTHX Ultra2 Plusのロゴは、ご購入いただいたホーム・シアター製品が、長期間にわたって卓越した性能を発揮することを保証するものです。THX Ultra2 Plusの要件には、パワーアンプ性能、プリアンプ性能、デジタル / アナログ空間での動作などをはじめとする、何百ものパラメータが定義されています。またTHX Ultra2 Plusレシーバーは、劇場用映画のサウンドトラックを正確にホーム·シアターで再現するための特許技術である、THX技術(THXモード)を備えています。

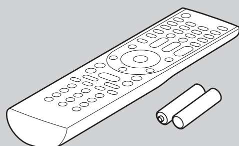
AAC パテントマーキング

Pat.5,848,391 5,291,557 5,451,954 5 400 433 5,222,189 5,357,594 5 752 225 5,394,473 5,583,962 5,274,740 5,633,981 5 297 236 4,914,701 5,235,671 07/640,550 5,579,430 08/678,666 98/03037 97/02875 97/02874 98/03036 5,227,788 5,285,498 5,481,614 5,592,584 5,781,888 08/039,478 08/211,547 5,703,999 08/557,046 08/894,844 5,299,238 5,299,239 5,299,240 5,197,087 5,490,170 5,264,846 5,268,685 5,375,189 5,581,654 5,548,574 5,717,821

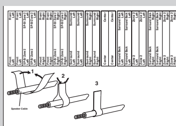
箱の中身を確認する

■付属品

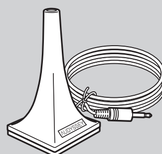
ご使用の前に次の付属品がそろっていることをお確かめください。
(　) 内の数字は数量を表しています。



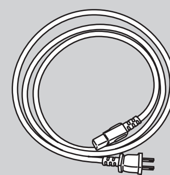
リモコン (RC-719M) … (1)
乾電池 (単三形、R6) … (2)



スピーカーコード用ラベル… (1)



簡単スピーカー設定用マイク… (1)



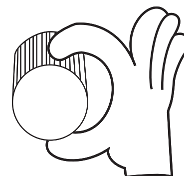
電源コード (2m) … (1)

取扱説明書 (本書) … (1)
保証書… (1)
簡単スタートガイド… (1)
オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内… (1)
ユーザー登録カード… (1)

カタログおよび包装箱などに表示されている型名の最後にあるアルファベットは、製品の色を表す記号です。色は異なっても操作方法は同じです。

音のエチケット

楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。
隣り近所への配慮を十分にしましょう。特に静かな夜間には窓を閉めたり、
ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。



安全上のご注意
安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください。

電気製品は、誤った使いかたをすると大変危険です。
あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、「安全上のご注意」を必ずお守りください。

「警告」と「注意」の見かた	
間違った使いかたをしたときに生じることが想定される危険度や損害の程度によって、「警告」と「注意」に区分して説明しています。	
 警告	誤った使いかたをすると、火災・感電などにより死亡、または重傷を負う可能性が想定される内容です。
 注意	誤った使いかたをすると、けがをしたり周辺の家財に損害を与える可能性が想定される内容です。

絵表示の見かた		
△ 記号は「ご注意ください」という内容を表しています。	 高温注意	 感電注意
⦸ 記号は「～してはいけない」という禁止の内容を表しています。	 分解禁止	 ぬれ手禁止
● 記号は「必ずしてください」という強制内容を表しています。	 電源プラグをコンセントから抜く	 必ずする


警告

故障したまま使用しない、異常が起きたらすぐに電源プラグを抜く


電源プラグをコンセントから抜く

- 煙が出ている、変なにおいや音がする
- 本機を落としてしまった
- 本機内部に水や金属が入ってしまった

このような異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐにアンプの電源プラグをコンセントから抜いて販売店に修理・点検を依頼してください。

カバーははずさない、分解、改造しない


分解禁止

火災・感電の原因となります。
内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。

接続、設置に関するご注意

■ 通風孔をふさがない、放熱を妨げない


禁止

本機には内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災ややけどの原因となることがあります。

- 押し入れや本箱など通気性の悪い狭い所に設置して使用しない
  （本機の天面、横から 20cm 以上、背面から 10cm 以上のスペースをあける）
- 逆さまや横倒しにして使用しない
- 布やテーブルクロスをかけない
- じゅうたんやふとんの上に置いて使用しない

■ 水蒸気や水のかかる所に置かない、本機の上に液体の入った容器を置かない


水場での使用禁止


水濡れ禁止

本機に水滴や液体が入った場合、火災感電の原因となります。

- 風呂場など湿度の高い場所では使用しない
- 調理台や加湿器のそばには置かない
- 雨や雪などがかかるところで使用しない
- 本機の上に花びん、コップ、化粧品、ろうそくなどを置かない

電源コード・電源プラグに関するご注意

■ 電源コードを傷つけない


禁止

- 電源コードの上に重い物をのせたり、電源コードが本機の下敷にならないようにする
- 傷つけたり、加工したりしない
- 無理にねじったり、引っ張ったりしない
- 熱器具などに近づけない、加熱しない

電源コードが傷んだら（芯線の露出･断線など）販売店に交換をご依頼ください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

■ 電源プラグは定期的に掃除する


必ずする

電源プラグにほこりなどがたまっていると、火災の原因となります。
電源プラグを抜いて、乾いた布でほこりを取り除いてください。



警告

使用上のご注意

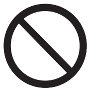
■ 本機内部に金属、燃えやすいものなど異物を入れない


禁止

火災・感電の原因となります。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。

- 本機の通風孔から異物を入れない
- 本機の上に通風孔に入りそうな小さな金属物を置かない

■ 長時間音がひずんだ状態で使わない


禁止

アンプ、スピーカーなどが発熱し、火災の原因となることがあります。

■ 雷が鳴りだしたら本機、接続機器、接続コード、電源プラグに触れない


接触禁止

感電の原因となります。

電池に関するご注意

■ 乾電池を充電しない、加熱・分解しない、火や水の中に入れない


禁止

電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

- 指定以外の電池は使用しない
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない
- 電池を使い切ったときや長時間リモコンを使用しないときは電池を取り出す
- コインやネックレスなどの金属物と一緒に保管しない
- 極性表示（プラス+とマイナス−の向き）に注意し、表示通りに入れる

■ 電池から漏れ出た液にはさわらない


接触禁止

万一、液が目や口に入ったり皮膚に付いた場合は、すぐにきれいな水で充分洗い流し、医師にご相談ください。



注意

接続、設置に関するご注意

■ 不安定な場所や振動する場所には設置しない


禁止

強度の足りないぐらついた台や振動する場所に置かないでください。
本機が落下したり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

■ 配線コードに気をつける


注意

配線された位置によっては、つまずいたり引っかかったりして、落下や転倒など事故の原因となることがあります。

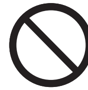
電源コード・電源プラグに関するご注意

■ 表示された電源電圧（交流100ボルト）で使用する


必ずする

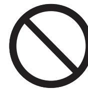
本機を使用できるのは日本国内のみです。
表示された電源電圧以外で使用すると、火災・感電の原因となります。

■ 電源コードを束ねた状態で使用しない


禁止

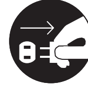
発熱し、火災の原因となることがあります。

■ 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない


禁止

コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。
プラグを持って抜いてください。

■ 長期間使用しないときは電源プラグをコンセントから抜く


電源プラグをコンセントから抜く

絶縁劣化やろう電などにより、火災の原因となることがあります。

 注意

■ 電源プラグは、コンセントに根元まで確実に差し込む


禁止

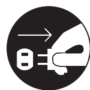
差し込みが不完全のまま使用すると、感電、発熱による火災の原因となります。
プラグが簡単に抜けてしまうようなコンセントは使用しないでください。

■ ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない


ぬれ手禁止

感電の原因となることがあります。

■ お手入れの際は電源プラグを抜く


電源プラグをコンセントから抜く

お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてから行なってください。

使用上のご注意

■ 通風孔の温度上昇に注意


注意

本機通風孔付近は放熱のため高温になることがあります。
電源が入っているときや、電源を切った後しばらくは通風孔付近にご注意ください。

■ 音量に注意する


必ずする

突然大きな音が出てスピーカーやヘッドホンを破損したり、聴力障害などの原因となることがあります。

■ 長時間大きな音でヘッドホンを使用しない


禁止

聴力に悪い影響を与えることがあります。

移動時のご注意

■ 移動時は電源プラグや接続コードをはずす


電源プラグをコンセントから抜く

コードが傷つき火災や感電の原因になります。

■ 本機の上にものを乗せたまま移動しない


禁止

本機の上に他の機器を乗せたまま移動しないでください。
落下や転倒してけがの原因になります。

■ 機器内部の点検について

お客様のご使用状況によって、定期的に機器内部の掃除をおすすめします。
本機の内部にほこりのたまったまま使用していると火災や故障の原因となることがあります。
特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。内部清掃については、販売店にご相談ください。

■ 本機のお手入れについて

- 表面の汚れは、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、固く絞って拭き取ったあと乾いた布で拭いてください。化学ぞうきんなどお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどに従ってください。
- シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装が落ちたり変形することがあります。

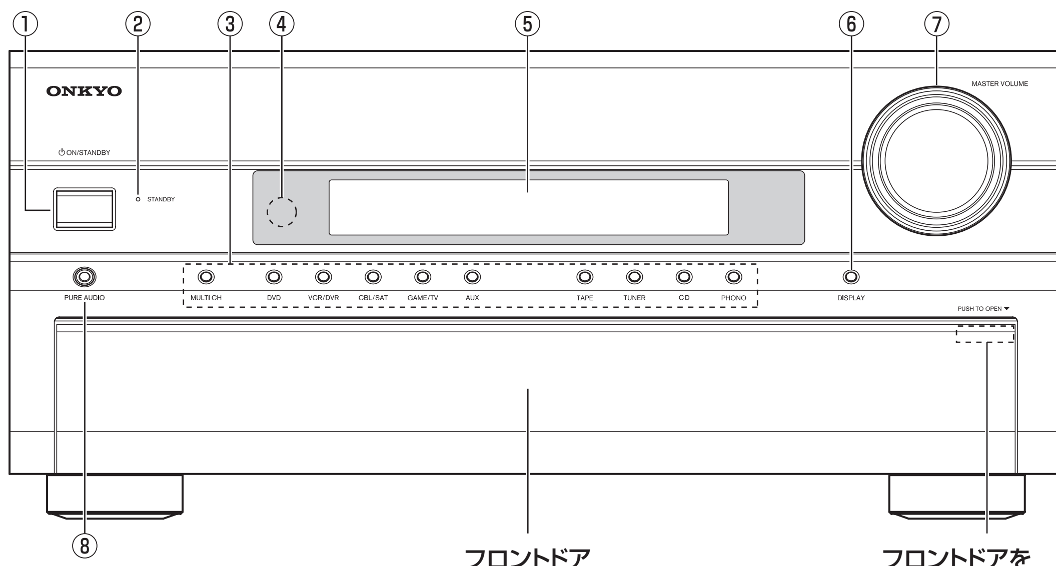
目次

本機をリセットしてお買い上げ時の状態に戻すには、電源を入れた状態で本体の VCR/DVR ボタンを押したまま、ON/STANDBY ボタンを押します(☞109ページ)。

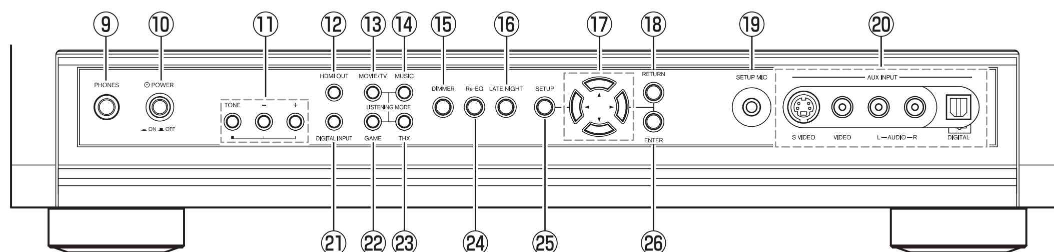
本体、リモコンボタンの名前と働き

前面パネル

〔　　〕内のページに主な説明があります。



■ 前面パネルフロントドア内ボタンおよび端子



① **ON/STANDBY ボタン〔39〕**
主電源が入っているときに、電源のオン / スタンバイを切り換えます。

② **STANDBY インジケーター〔39〕**
スタンバイ状態のときに点灯します。リモコンからの信号を受信すると点滅します。

③ **入力切換ボタン(MULTI CH、DVD、VCR/DVR、CBL/SAT、GAME/TV、AUX、TAPE、TUNER、CD、PHONO)〔53〕**
再生する機器を選びます。[MULTI CH] ボタンはDVD アナログマルチチャンネル入力を選択します。

④ **リモコン受光部〔14〕**
リモコンからの信号を受信します。

⑤ **表示部**
10 ページをご覧ください。

⑥ **DISPLAY ボタン〔55〕**
表示部の情報を切り換えます。

⑦ **MASTER VOLUME つまみ／インジケーター〔53〕**
音量を調整します。
音量は基本的に−∞ dB・− 81.5dB…+ 18.0dB の範囲で調整できます(「ボリューム表示」を「相対値」に設定時)。
絶対値として音量表示するには、ボリューム表示の設定(☞ 88 ページ)をご覧ください。

⑧ **PURE AUDIO ボタン／インジケーター〔57〕**
リスニングモードを「Pure Audio」にします。
リスニングモードが 「Pure Audio」 のとき、インジケーターが点灯します。
もう 1 度押すと、1 つ前に選んでいたリスニングモードに戻ります。

⑨ **PHONES 端子〔54〕**
標準プラグのステレオヘッドホンを接続する端子です。

⑩ **POWER スイッチ〔39〕**
本機の主電源を入／切します。
主電源が入ると、STANDBY インジケーターが点灯します。

⑪ **TONE、＋ / －ボタン〔55〕**
高音、低音を調整するときに使用します。

⑫ **HDMI OUT ボタン〔40〕**
「Monitor Out」設定を切り換えます。

⑬ **MOVIE/TV ボタン〔57〕**
映画やテレビを楽しむのに適したリスニングモードに切り換えます。

⑭ **MUSIC ボタン〔57〕**
音楽を楽しむのに適したリスニングモードに切り換えます。

⑮ **DIMMER ボタン〔54〕**
表示部の明るさを切り換えます。

⑯ **LATE NIGHT ボタン〔80〕**
レイトナイト機能をオン／オフします。

⑰ **カーソル ▲/▼/◄/► ボタン**
設定項目を選択します。

⑱ **RETURN ボタン**
設定中に 1 つ前の表示に戻します。

⑲ **SETUP MIC 端子〔48〕**
付属の簡単スピーカー設定用マイクを接続して、スピーカーの数や位置などを検知します。

⑳ **AUX INPUT 端子**
ビデオカメラやゲーム機などを接続します。

㉑ **DIGITAL INPUT ボタン〔94〕**
自動音声選択の項目を設定します。また、デジタル入力信号の種類を選ぶときに使用します。

㉒ **GAME ボタン〔57〕**
ゲームを楽しむのに適したリスニングモードに切り換えます。

㉓ **THX ボタン〔57〕**
THX のリスニングモードを選びます。

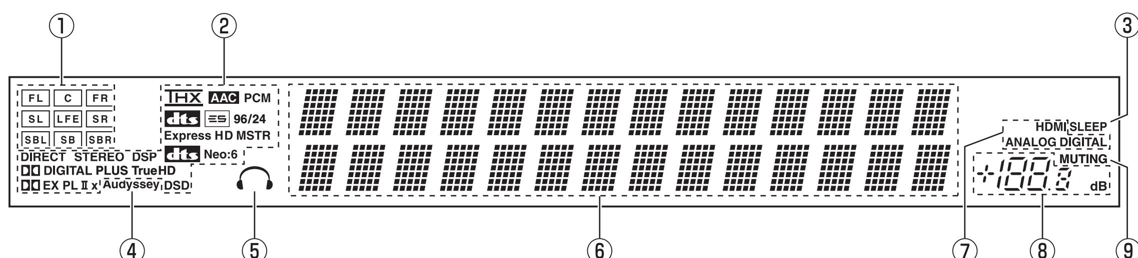
㉔ **Re-EQ ボタン〔81〕**
Re-EQ 機能をオン／オフします。

㉕ **SETUP ボタン**
本機の設定を行います。

㉖ **ENTER ボタン**
選択している設定項目を確定するときに押します。

本体、リモコンボタンの名前と働き

表示部



① **スピーカー／チャンネルインジケーター〔69〕**
本機のスピーカー環境設定と入力信号のチャンネルを表示します。

- □ はスピーカー環境設定で選択しているスピーカーを示します。
- 下記は入力信号に含まれているチャンネルを示します。
  - FL ：左フロントスピーカー
  - C ：センタースピーカー
  - FR ：右フロントスピーカー
  - SL ：左サラウンドスピーカー
  - LFE ：サブウーファー
  - SR ：右サラウンドスピーカー
  - SBL ：左サラウンドバックスピーカー
  - SB ：サラウンドバックスピーカー
  - SBR ：右サラウンドバックスピーカー

② **リスニングモード／入力信号フォーマット表示〔57〕**
入力されているデジタル信号の種類およびリスニングモードを表示します。

③ **SLEEP（スリープ）表示〔54〕**
スリープタイマーが設定されているときに点灯します。

④ **Audyssey（オデッセイ）表示〔74〕**
簡単スピーカー測定中に点滅します。また、スピーカーの音場補正の設定で、Audyssey に設定していると点灯します。

⑤ **ヘッドホン表示〔54〕**
ステレオヘッドホンを PHONES（フォンズ）端子に接続すると点灯します。

⑥ **多目的表示部**
入力ソース、リスニングモード、Monitor（モニター） Out（アウト）設定など各種の情報を表示します。

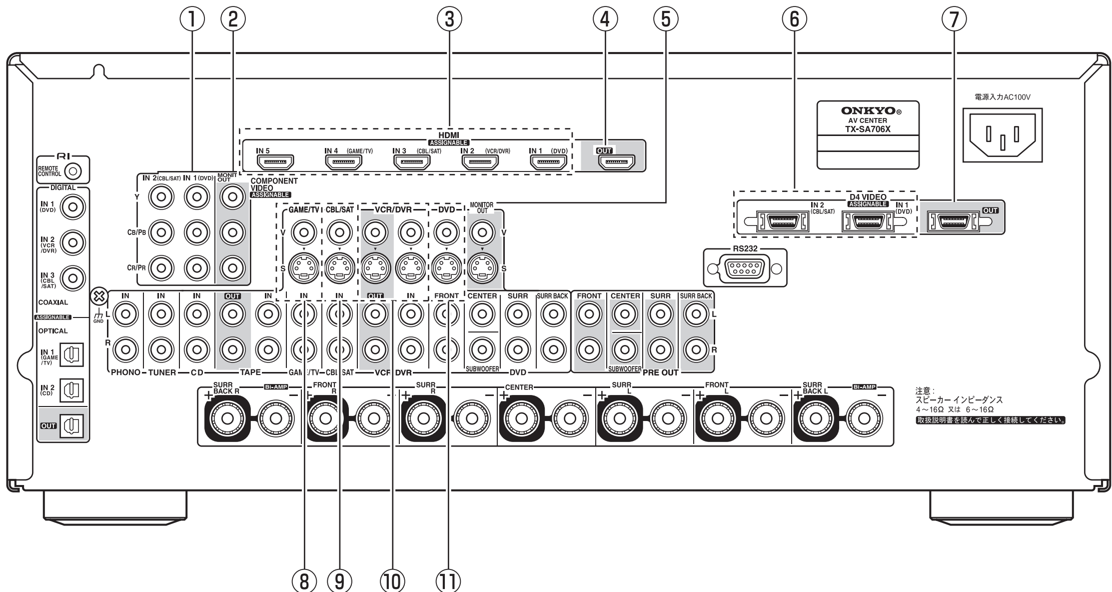
⑦ **音声入力信号表示**
選択している音声入力信号の種類（HDMI/ANALOG（アナログ）/DIGITAL（デジタル））を表示します。

⑧ **ボリュームレベル〔53〕**
音量を表示します。

⑨ **MUTING（ミューティング）表示〔54〕**
ミューティングが働いているときに点滅します。

後面パネル

■ 映像端子



① COMPONENT VIDEO IN 1/2 端子
接続した機器からコンポーネント映像を入力する端子です。
S 映像より良い画質が得られます。

② COMPONENT VIDEO MONITOR OUT 端子
本機からコンポーネント映像を出力する端子です。
S 映像より良い画質が得られます。

③ HDMI IN 1/2/3/4/5 端子
接続した機器からデジタル映像信号とデジタル音声信号を入力します。IN1 ～ IN5 の各端子は接続機器に合わせて入力切換ボタンに割り当てることができます。

④ HDMI OUT 端子
本機からデジタル映像信号をテレビに出力する端子です。設定によって音声信号は TV に出力できます。

⑤ MONITOR OUT 端子
接続しているモニターやテレビにビデオ映像（V 端子）、S 映像（S 端子）を出力する端子です。

⑥ D4 VIDEO IN 1/2 端子
接続した機器から D 映像を入力する端子です。
S 映像より良い画質が得られます。

⑦ D4 VIDEO OUT 端子
本機から D 映像を出力する端子です。
S 映像より良い画質が得られます。

⑧ GAME/TV IN 端子
ビデオ映像（V 端子）、S 映像（S 端子）を入出力する端子です。

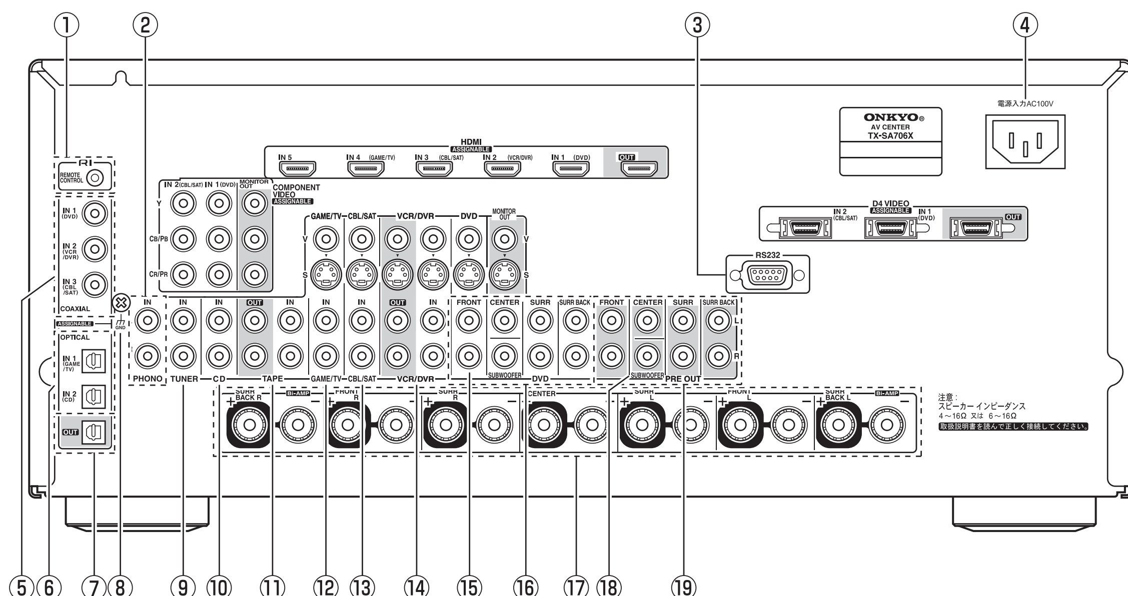
⑨ CBL/SAT IN 端子
ビデオ映像（V 端子）、S 映像（S 端子）を 入力する端子です。

⑩ VCR/DVR IN/OUT 端子
ビデオ映像（V 端子）、S 映像（S 端子）を入出力する端子です。

⑪ DVD V、S 端子
接続した DVD プレーヤーからビデオ映像（V 端子）、S 映像（S 端子）を入力する端子です。

本体、リモコンボタンの名前と働き

■ 音声端子とその他の端子



① RI REMOTE CONTROL 端子

RI 端子付きオンキヨー製品と接続し、連動させる端子です。

RI ケーブルの接続だけでは連動しません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。

② PHONO IN 端子

レコードプレーヤーと接続します。本機はムービングマグネット（MM）カートリッジを使用するレコードプレーヤー用に設計されています。

③ RS232 コネクター

④ AC INLET

付属の電源コードを接続します。

⑤ DIGITAL COAXIAL IN 1/2/3 端子

同軸デジタルケーブルを使用して、デジタル再生機器と音声接続する入力端子。

⑥ DIGITAL OPTICAL IN1/2 端子

光デジタルケーブルを使用して、デジタル再生機器と音声接続する入力端子。

⑦ DIGITAL OPTICAL OUT 端子

光デジタルケーブルを使用して、デジタル録音機器と音声接続する出力端子。

⑧ GND 端子

レコードプレーヤーのアース線を接続します。

⑨ TUNER IN 端子

チューナーを接続します。

⑩ CD IN 端子

CD プレーヤーを接続します。

⑪ TAPE IN/OUT 端子

テープデッキ、MD レコーダーなどの録音機器や iPod 用オンキヨー RI ドックを接続します。

⑫ GAME/TV IN 端子

ゲーム機や iPod 用オンキヨー RI ドックなどの音声出力端子と接続します。

⑬ CBL/SAT IN 端子

ケーブルテレビチューナーや衛星放送チューナーなどの音声出力端子と接続します。

⑭ VCR/DVR IN/OUT 端子

ビデオデッキなどの音声入出力端子と接続します。

⑮ DVD FRONT L/R 端子

DVD プレーヤーを接続します。

⑯ DVD マルチチャンネル入力端子

マルチチャンネル出力に対応した DVD プレーヤーを接続します。

⑰ スピーカー端子

スピーカーを接続します。

⑱ SUBWOOFER PRE OUT 端子

アンプ内蔵サブウーファーと接続します。

⑲ PRE OUT 端子

本機をプリアンプとして使用する場合、パワーアンプと接続します。

接続については、15 ～ 39 ページをご覧ください。

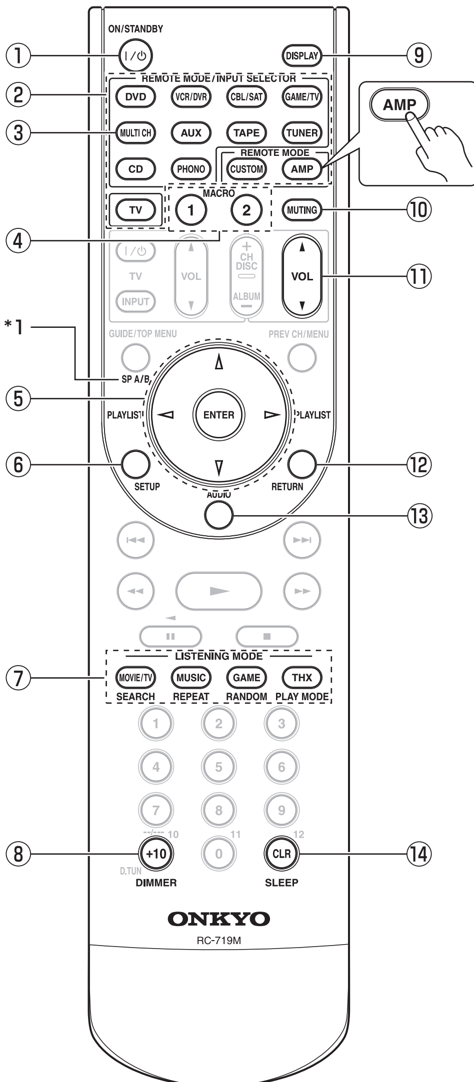
リモコン（RC-719M）

AMP モード

本機を操作するとき

本機を操作するときは、初めに AMP ボタンを押して、AMP モードにしてください。

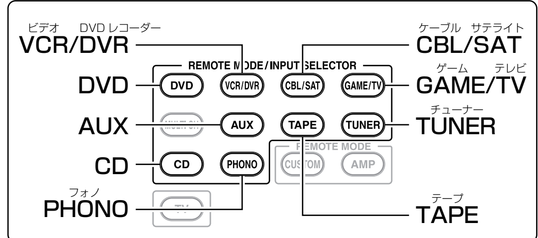
また、リモコンでお手持ちの DVD プレーヤーや CD プレーヤーなどの AV 機器も操作することができます。詳しくは 95 ページをご覧ください。



〔　〕内のページに主な説明があります。
詳しくはそちらをご覧ください。

① ON/STANDBY ボタン〔39〕
本機の電源を入れたり、スタンバイ状態にします。

② REMOTE MODE/INPUT SELECTOR ボタン〔53, 100 ～ 106〕
モードを切り換えて、再生する機器を選びます。



③ MULTI CH ボタン〔55〕
DVD の音声をマルチチャンネル入力に切り換えます。

④ MACRO ボタン〔108〕
マクロ機能を利用できます。

⑤ ▲/▼/◄/►/ ENTER ボタン
設定中に、▲/▼/◄/►（上下左右）ボタンを押して項目を選択します。中央の ENTER ボタンを押すと、選択した項目を確定します。

⑥ SETUP ボタン
表示部に設定画面を表示させます。

⑦ LISTENING MODE ボタン〔57〕
リスニングモードを切り換えます。

⑧ DIMMER ボタン〔54〕
表示部の明るさを切り換えます。

⑨ DISPLAY ボタン〔55〕
表示部の表示内容を切り換えます。

⑩ MUTING ボタン *2〔54〕
音を一時的に小さくします。

⑪ VOL ▲/▼ ボタン *2〔53〕
音量を調節します。

⑫ RETURN ボタン
設定中に、表示を 1 つ前に戻します。

⑬ AUDIO ボタン〔80〕
音声の設定に使用します。
「TV オーディオ出力」を「オン」に設定しているときは、このボタンは使用できません（☞ 91 ページ）。

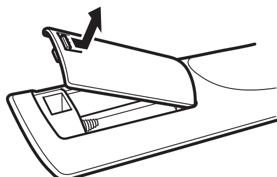
⑭ SLEEP ボタン〔54〕
スリープタイマーを設定します。

*1 本機では使用しません。
*2 ⑩⑪は、AMP モード以外の REMOTE MODE ボタンを選択しているときも使用できます。（TV モード時は除く）

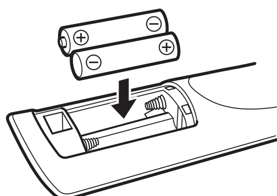
本体、リモコンボタンの名前と働き

乾電池を入れる

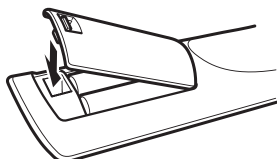
1. カバーを矢印の方向にずらして開ける



2. 中の極性表示にしたがって、付属の乾電池 2 個をプラス⊕とマイナス⊖を間違えないように入れる



3. カバーを戻す

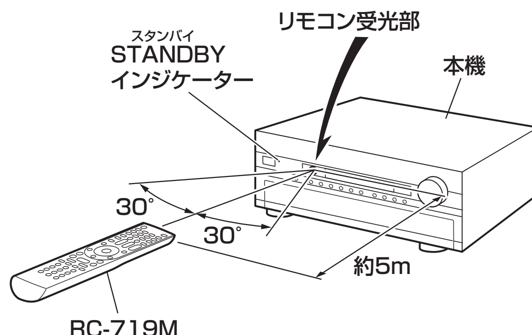


ご注意

- 種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混用しないでください。
- 長期間リモコンを使用しないときは、電池の液漏れを防ぐために電池を取り出しておいてください。
- 消耗した電池を入れたままにしておきますと腐食によりリモコンをいためることがあります。リモコン操作の反応が悪くなったときは、古い電池を取り出して 2 本とも新しい電池と交換してください。
- 電池の交換時には、単 3 形をご使用ください。

リモコンの使いかた

リモコンを本機のリモコン受光部に向けて使用してください。リモコンからの信号を受信すると、本機の STANDBY（スタンバイ）インジケーターが点滅します。



ご注意

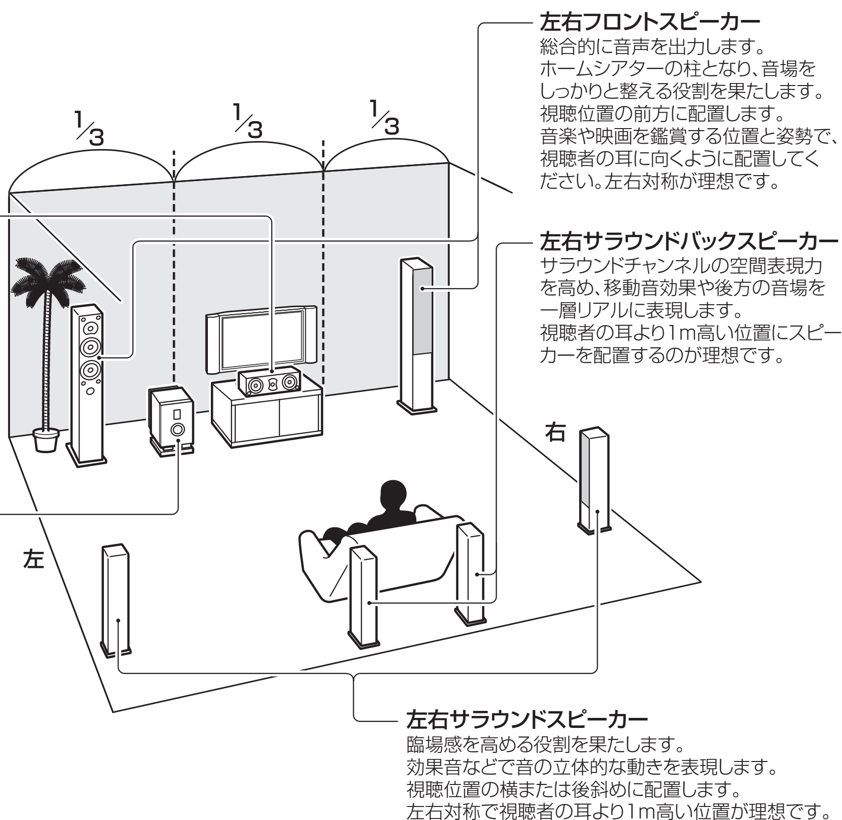
- リモコン受光部に日光やインバーター蛍光灯などの強い光を直接当てると正しく動作しないことがあります。
- 赤外線を使った機器の近くで使用したり、他のリモコンを併用すると誤動作の原因となります。
- リモコンの上に本など、ものを置かないでください。ボタンが押し続けられた状態になり、電池が消耗してしまうことがあります。
- オーディオラックのドアに色付きガラスを使っていたり、装飾フィルムを貼っていると、リモコンが正常に機能しないことがあります。
- リモコンとリモコン受光部の間に障害物があると操作できません。
- リモコンコードを登録して、他社の製品を操作するとき（☞95ページ）や、RI 接続せずに他のオンキヨー製品を操作するときは、リモコンを本機ではなく操作する機器に向けて使用します。
- RI 接続したオンキヨー製品や HDMI で接続された RIHD 対応機器を操作するとき（☞100ページ）は、リモコンを本機に向けて使用します。

ホームシアター

ホームシアターを楽しもう

本機は優れた機能を使って音の立体感、移動感を実現し、ご家庭で簡単に劇場やコンサートホールさながらの臨場感あふれる音響効果をお楽しみいただけます。
再生する信号によって、DTS やドルビーデジタル、ドルビープロロジック IIx、DTS Neo:6 の再生やオンキヨー独自のリスニングモードをお楽しみいただけます。
THX のリスニングモードを聴くときは、THX 社認定スピーカーのご使用をおすすめします。

スピーカーの使いかた
2 つお持ちの場合、左右フロントスピーカーとして使用します。(2 チャンネル再生)
3 つお持ちの場合、左右フロントスピーカー、センタースピーカーとして使用します。(3 チャンネルサラウンド)
4 つお持ちの場合、左右フロントスピーカー、左右サラウンドスピーカーとして使用します。(4 チャンネルサラウンド)
5 つお持ちの場合、左右フロントスピーカー、センタースピーカー、左右サラウンドスピーカーとして使用します。(5 チャンネルサラウンド)
6 つお持ちの場合、左右フロントスピーカー、センタースピーカー、左右サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカーとして使用します。(6 チャンネルサラウンド)
7 つお持ちの場合、左右フロントスピーカー、センタースピーカー、左右サラウンドスピーカー、左右サラウンドバックスピーカーとして使用します。(7 チャンネルサラウンド)
サブウーファーをお持ちの場合、スピーカーの数に関係なく、重低音効果を発揮するために使用します。(○ .1 チャンネル再生)



センタースピーカー
左右フロントスピーカーの音響効果や音の動きを明確にして、より豊かなサウンドイメージを作ります。映画ではとくにセリフが出力されます。
できるだけ画面の近くで、視聴者の耳に向くように配置してください。左右フロントスピーカーとなるべく同じ高さになるように配置してください。

サブウーファー
低音のみを出力し、迫力ある重低音効果を最大限に発揮します。
部屋の隅、または部屋の1/3の位置が効果的です。

左右フロントスピーカー
総合的に音声を出力します。
ホームシアターの柱となり、音場をしっかりと整える役割を果たします。
視聴位置の前方に配置します。
音楽や映画を鑑賞する位置と姿勢で、視聴者の耳に向くように配置してください。左右対称が理想です。

左右サラウンドバックスピーカー
サラウンドチャンネルの空間表現力を高め、移動音効果や後方の音場を一層リアルに表現します。
視聴者の耳より1m高い位置にスピーカーを配置するのが理想です。

左右サラウンドスピーカー
臨場感を高める役割を果たします。
効果音などで音の立体的な動きを表現します。
視聴位置の横または後斜めに配置します。
左右対称で視聴者の耳より1m高い位置が理想です。

- 最適なサラウンド再生をお楽しみいただくには、付属の簡単スピーカー設定用マイクを使って簡単スピーカー設定を行ってください(☞ 48 ページ)。

接続する

スピーカーを接続する

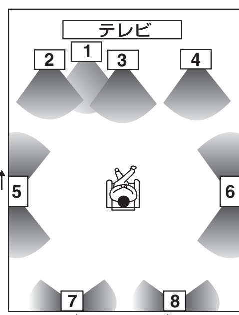
サラウンドバックスピーカーの配置について

サラウンドバックスピーカーは、7.1ch サラウンド再生を楽しむときに必要です。

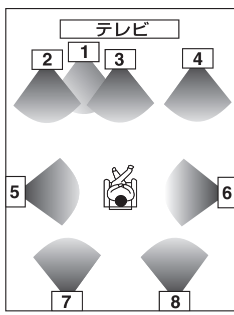
設置例 1 は、ダイポール型スピーカーを設置した場合です。ダイポール型スピーカーとは、前と後ろなど、二つの方向に同じ音を出す、双指向性スピーカーのことです。
ダイポール型スピーカーでは位相*を合わせるため、多くはスピーカーに矢印表示が書いてあります。サラウンドスピーカーは矢印（↑）がテレビへ向かうように配置し、サラウンドバックスピーカーは、お互いの矢印（→）が向き合うように配置してください。

*位相：正弦波の 1 周期（0 ～ 360 度）における波形の位置を示す言葉。各スピーカー間の距離や取り付け角度、プラス⊕、マイナス⊖の配線間違いなどで位相が合っていないと、音像や音場が不明瞭になったり、聴きづらさがあったりします。

設置例 1



設置例 2

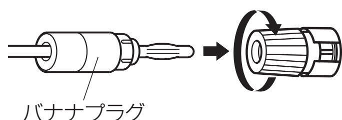


1 サブウーファー
2 左フロントスピーカー
3 センタースピーカー
4 右フロントスピーカー
5 左サラウンドスピーカー
6 右サラウンドスピーカー
7 左サラウンドバックスピーカー
8 右サラウンドバックスピーカー

左右サラウンドバックスピーカーは、できるだけ間隔をあけずに配置してください。（THX 社推奨）

バナナプラグの使用について

バナナプラグを使用する場合、スピーカー端子を締めてからバナナプラグを挿入してください。

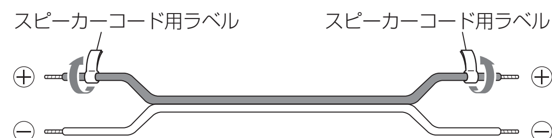


ご注意

- スピーカーコードの芯(しん)線をスピーカー端子のバナナプラグ用の穴にそのまま挿入しないでください。

スピーカーコード用ラベルの使いかた

付属のスピーカーコード用ラベルをお持ちのスピーカーコード両端のプラス⊕に貼ると識別が簡単になります。

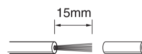


左フロント	：白	左フロントスピーカーのコード両端（⊕側）に白いラベルを貼る
右フロント	：赤	右フロントスピーカーのコード両端（⊕側）に赤いラベルを貼る
センター	：緑	センタースピーカーのコード両端（⊕側）に緑のラベルを貼る
左サラウンド	：青	左サラウンドスピーカーのコード両端（⊕側）に青いラベルを貼る
右サラウンド	：灰	右サラウンドスピーカーのコード両端（⊕側）に灰色のラベルを貼る
左サラウンドバック	：茶	左サラウンドバックスピーカーのコード両端（⊕側）に茶色のラベルを貼る
右サラウンドバック	：ベージュ	右サラウンドバックスピーカーのコード両端（⊕側）にベージュのラベルを貼る

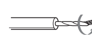
スピーカーコードの接続

本機のスピーカー端子のプラス⊕とスピーカーのプラス⊕端子にラベルを貼った側のスピーカーコードを接続します。
本機のスピーカー端子のマイナス⊖とスピーカーのマイナス⊖端子とをラベルの貼っていない側のスピーカーコードで接続します。

① スピーカーコードの被覆を 15mm カットする



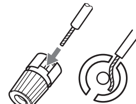
② 芯(しん)線の先端をしっかりとよじる



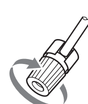
③ ねじをゆるめる



④ 芯(しん)線を差し込む



⑤ ねじを締め付ける



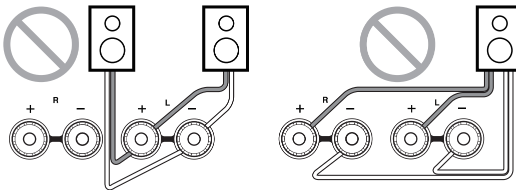
ご注意

- 芯(しん)線はしっかりとよじり、後面パネルなどの金属に接触しないようにしてください。

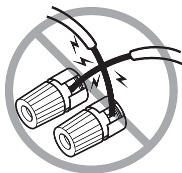
スピーカーの配置については「ホームシアターを楽しもう」(☞15 ページ)および「サラウンドバックスピーカーの配置について」(☞16 ページ)をご覧ください。
本機にはインピーダンスが 4 Ω～ 16 Ωのスピーカーを接続してください。ただし、インピーダンスが 4 Ω以上 6 Ω未満のスピーカーを 1 台でも接続するときは、46 ページで「スピーカーインピーダンス」を「4 オーム」に設定してください。

ご注意

- プラス⊕とマイナス⊖を間違って接続したり、左右のスピーカーを間違えて接続すると音声が不自然になりますのでご注意ください。
- スピーカー端子に複数のスピーカーコードは接続しないでください。故障の原因になります。
- 1 台のスピーカーだけを使用する場合やモノラル音声を再生する場合、1台のスピーカーを左右スピーカー端子に並列接続しないでください。



危険
回路の故障を防ぐため、スピーカーコードの芯(しん)線のプラスとマイナスを絶対に接触させないでください。

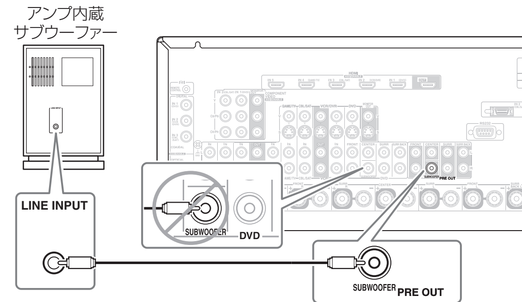


サブウーファーを接続する

パワーアンプ内蔵のサブウーファーを SUBWOOFER(サブウーファー) PRE(プリ) OUT(アウト) 端子に接続します。

ご注意

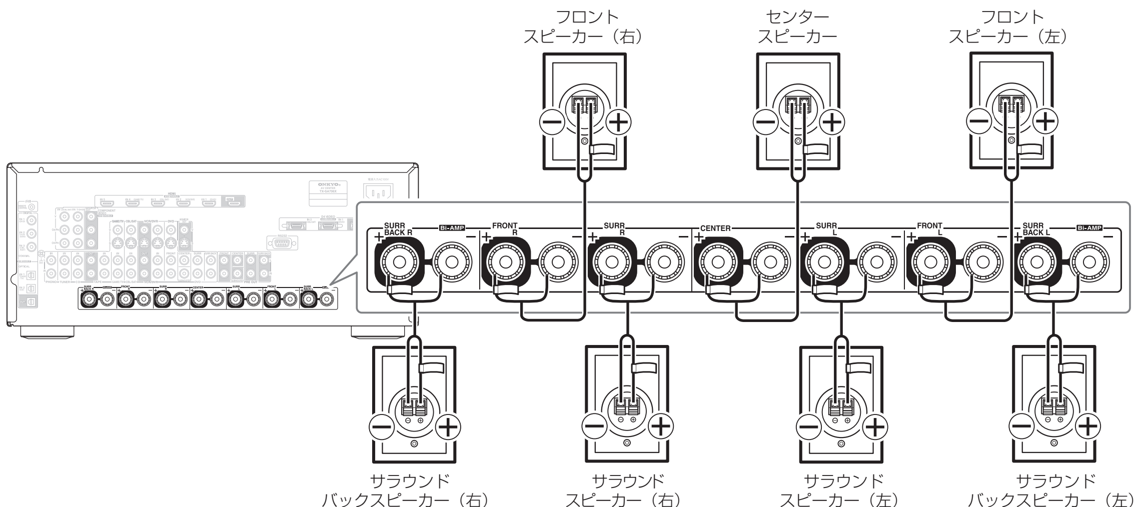
- 誤った箇所に接続した場合は、音声が出力されません。



!ヒント

- 再生される低音の質や量は、置き場所や部屋の形状、視聴位置によって変わります。一般的に部屋の隅、または 1/3 の場所に置いたときに良い結果が得られますが、色々な場所に置いて質の良い低音が入った音楽を再生し、もっともしっかりした低音が再生できる場所に設置してください。

- サラウンドバックスピーカーを1つだけ使用する場合は、SURR(サラウンド) BACK(バック) L 端子に接続してください。
- 5.1ch(チャンネル) の場合は、FRONT(フロント) L/R、CENTER(センター)、SURR(サラウンド) L/R 端子に接続してください。SURR BACK L/R 端子に接続すると音声が出力されません。



フロントスピーカーをバイアンプ接続する

本機のスピーカー端子 FRONT（L/R）とSURR BACK（L/R）を下図のようにフロントスピーカーにバイアンプ接続すると高域と低域を分けてスピーカーに送るため、高音質の高域／低域再生が可能になります。

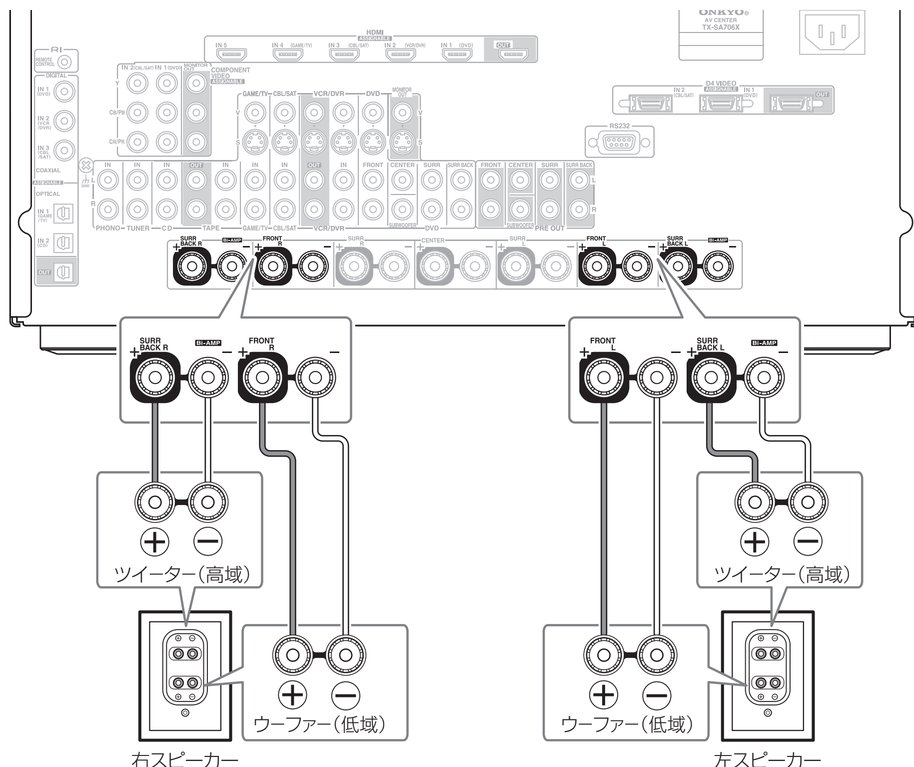
- バイアンプ接続を使用時、本機は最大 5.1 チャンネルのサラウンド再生となります。
- バイアンプ接続では必ず FRONT L/R 端子はスピーカーのウーファー端子に、SURR BACK L/R 端子はスピーカーのツイーター端子にそれぞれ接続してください。
- 以下の手順でバイアンプ接続をしたあとに、本機の電源を入れて OSD メニュー「スピーカータイプ」を「バイアンプ」に設定します（☞46 ページ）。

ご注意

- バイアンプ接続ではスピーカーのウーファー端子とツイーター端子をつないでいるショート金具を必ず外してください。
- バイアンプ接続に対応したスピーカー以外ではバイアンプ接続はできません。
- バイアンプ接続をするときには、お手持ちのスピーカー用取扱説明書も必ずご覧ください。

バイアンプ接続する

1	本機の FRONT R のプラス (+) 端子を右スピーカーのウーファー端子のプラス (+) 側に接続してください。 本機の FRONT R のマイナス (－) 端子を右スピーカーのウーファー端子のマイナス (–) 側に接続してください。
2	本機の SURR BACK R のプラス (+) 端子を右スピーカーのツイーター端子のプラス (+) 側に接続してください。 本機の SURR BACK R のマイナス (－) 端子を右スピーカーのツイーター端子のマイナス (–) 側に接続してください。
3	本機の FRONT L のプラス (+) 端子を左スピーカーのウーファー端子のプラス (+) 側に接続してください。 本機の FRONT L のマイナス (－) 端子を左スピーカーのウーファー端子のマイナス (–) 側に接続してください。
4	本機の SURR BACK L のプラス (+) 端子を左スピーカーのツイーター端子のプラス (+) 側に接続してください。 本機の SURR BACK L のマイナス (－) 端子を左スピーカーのツイーター端子のマイナス (–) 側に接続してください。

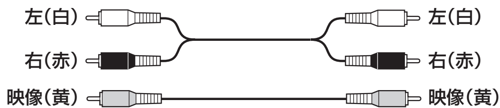


接続の前に

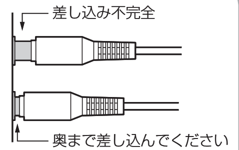
- 接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- 電源コードは全ての接続が終わるまでつなげないでください。

ビデオ用、オーディオ用ピンコードは以下のように接続してください。

- 入力端子は赤いコネクターを右チャンネル（R の表示）、白いコネクターを左チャンネル（L の表示）、黄色のコネクターをビデオチャンネル（V の表示）に接続してください。



- コードのプラグはしっかりと奥まで差し込んでください。接続が不完全ですと、雑音や動作不良の原因になります。



- ビデオコード、オーディオ用ピンコードは電源コードやスピーカーコードと束ねないでください。音質や画質が悪くなることがあります。

光デジタル入力端子 / 出力端子について

本機の光デジタル端子はすべてシャッタータイプですので、シャッターをそのまま奥へ倒すようにして光デジタルケーブルを差し込んでください。

ご注意

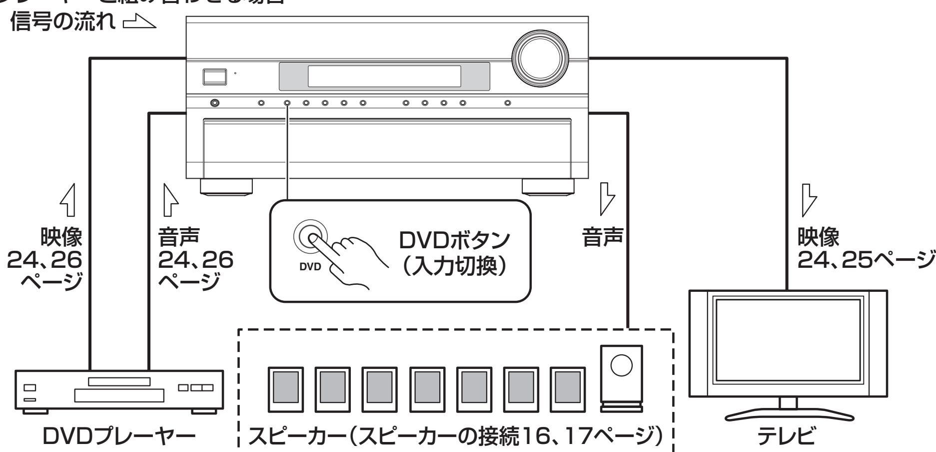
- 光デジタルケーブルはまっすぐ抜き差ししてください。ななめに抜き差しすると、シャッターが破損する場合があります。

	ケーブルの名称	使用するケーブル	使用する端子	ケーブルや端子の役割
映像	コンポーネント ビデオコード	Y CB/PB CR/PR	Y CB/PB CR/PR	画質は S ビデオより良く、D 端子と同レベルです。映像機器の制御信号（アスペクト比など）を送ることはできません。
映像	D 端子用 接続コード		D4	画質は S ビデオより良く、コンポーネントと同レベルです。映像機器の制御信号（アスペクト比など）を送ることができます。
映像	S ビデオコード		S	コンポジットの映像より良い画質が得られます。 本機では映像機器の制御信号（アスペクト比など）を送ることはできません。
映像	ビデオコード （コンポジット）		V	標準的な映像信号で、多くのテレビやビデオなどの映像機器に装備されています。
音声	光デジタルケーブル （OPTICAL（オプティカル））		OPTICAL	ドルビーデジタルなどのデジタル音声が得られます。 音質は COAXIAL と同レベルです。
音声	同軸デジタルケーブル （COAXIAL（コアキシャル））		COAXIAL	ドルビーデジタルなどのデジタル音声が得られます。 音質は OPTICAL と同レベルです。
音声	オーディオ用 ピンコード		L R	アナログ音声を伝送します。
音声	オーディオ用 ピンコード		FRONT CENTER SURR SURR BACK SUBWOOFER DVD	DVD オーディオ対応の DVD プレーヤーなどとの接続に使用します。 アナログマルチチャンネル音声を伝送します。
映像と音声	HDMI ケーブル			映像と音声をデジタル伝送します。 本機は HDMI Version 1.3a に対応しています。

AV センターを使う

DVD プレーヤーなど、映像機器は映像接続と音声接続を行ってください。本機の入力を切り換えるだけでその機器の映像と音声を選ぶことができます。

例：DVD プレーヤーと組み合わせる場合



映像接続のしくみ

本機には 5 種類（ビデオ、S ビデオ、D 端子 *、コンポーネント *、HDMI）の映像入出力端子があります。接続する機器に合わせて使います。

本機では映像信号を使用機器に合わせてアップコンバート／ダウンコンバートすることができます。「Monitor Out」設定により映像信号をアップコンバートして HDMI OUT 端子から出力するか、COMPONENT VIDEO MONITOR OUT 端子から出力するか選びます（☞ 40 ページ）。

THX は、より良い映像をお楽しみいただくために、アップコンバートせず同じ入出力の信号をご使用いただくことを推奨します。（例えば、ビデオ入力はビデオ出力から、S ビデオ入力は S ビデオ出力からの信号をお楽しみください。）

「イミディエイト表示」の設定を「オフ」（☞88 ページ）に、「画質調整」の設定を初期値（☞86ページ）に、出力解像度の設定を「スルー」（☞90ページ）にすることも推奨しています。

* D4 VIDEO IN 端子と COMPONENT VIDEO IN 端子は内部で並列になるように設計されています。1 つの系統に両方を接続しないでください。たとえば、D4 VIDEO IN 1 端子に映像機器を接続した場合は、COMPONENT VIDEO IN 1 端子には何も接続しないでください。

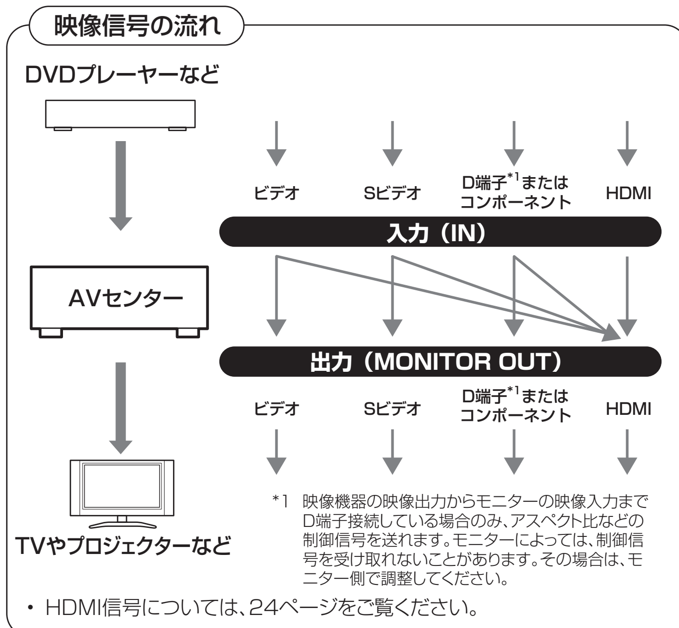
「Monitor Out」設定を「HDMI」にした場合

「Monitor Out」設定で「HDMI」を選んだ場合（☞ 40 ページ）、入力した映像信号の流れは右図のように、ビデオ、S ビデオ、D 端子（またはコンポーネント）に入力した各映像信号はアップコンバートされて HDMI OUT 端子から出力されます。**本機の HDMI OUT 端子をテレビの HDMI IN 端子に接続している場合は「HDMI」に設定してください。**

ビデオ、S ビデオ、D 端子（またはコンポーネント）に入力された各映像信号は、そのままそれぞれの出力端子から出力されます。

!ヒント

- ビデオ、S ビデオ端子に入力された各映像信号をアップコンバートして HDMI OUT 端子から出力するには、HDMI 入力端子の設定（☞ 42 ページ）とコンポーネントビデオ端子の設定（☞43ページ）を両方とも「- - - - -」にする必要があります。



*1 映像機器の映像出力からモニターの映像入力までD端子接続している場合のみ、アスペクト比などの制御信号を送れます。モニターによっては、制御信号を受け取れないことがあります。その場合は、モニター側で調整してください。

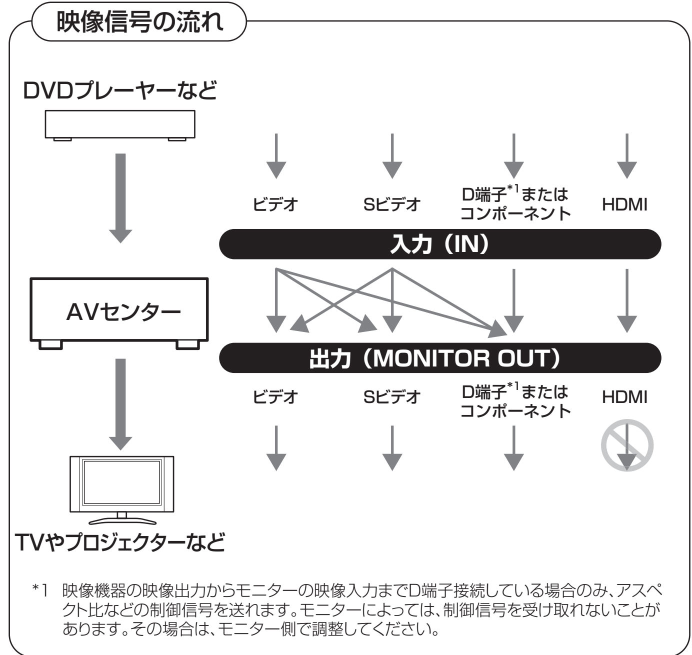
• HDMI信号については、24ページをご覧ください。

「Monitor Out」設定を「Analog」にした場合

「Monitor Out」設定で「Analog」を選んだ場合、入力した映像信号の流れは右図のようになり、ビデオ、S ビデオの各端子に入力した映像信号はアップコンバートされて COMPONENT VIDEO MONITOR OUT 端子または D4 VIDEO OUT 端子から出力されます。**本機の HDMI OUT 端子をテレビの HDMI IN 端子に接続していない場合は「Analog」に設定してください。**

ビデオ信号は S ビデオ信号にアップコンバートされます。逆に S ビデオ信号はビデオ信号にダウンコンバートされます。コンバートされた信号は MONITOR OUT V/S の各映像端子からのみ出力されます。VCR/DVR OUT V/S の各映像端子からは出力されませんのでご注意ください。

D 端子(またはコンポーネント)に入力した各映像信号は、そのままそれぞれの出力端子から出力されます。



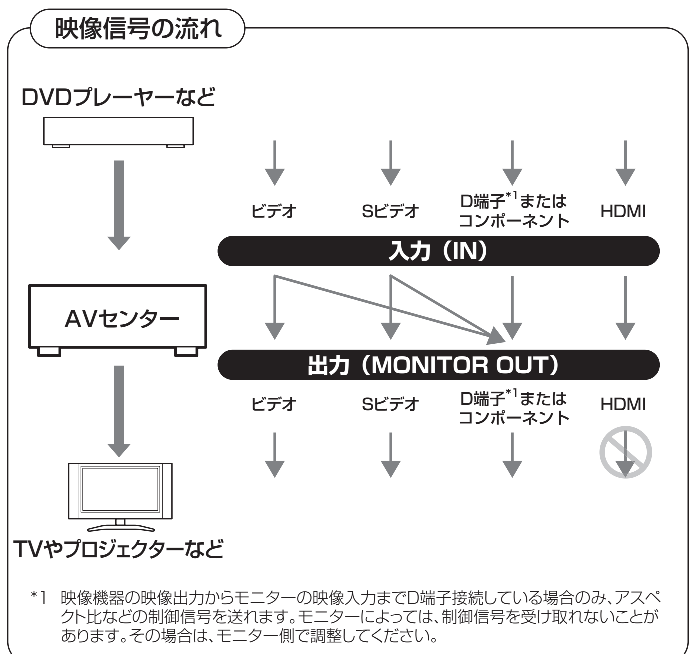
*1 映像機器の映像出力からモニターの映像入力までD端子接続している場合のみ、アスペクト比などの制御信号を送れます。モニターによっては、制御信号を受け取れないことがあります。その場合は、モニター側で調整してください。

- 映像機器とビデオ端子または S ビデオ端子を使って接続するときは、コンポーネントビデオ端子の設定（☞ 43 ページ）をすると、D 端子接続やコンポーネント端子接続したモニターからも映像を出力することができます。
- 出力解像度（☞ 90 ページ）を「スルー」に設定しているときにこの図のように信号が流れます。

映像信号の流れと解像度設定

出力解像度を「スルー」以外に設定していると（☞ 90 ページ）ビデオ・S ビデオ信号はアップコンバートされて D 端子またはコンポーネントビデオ出力の流れになります。
ビデオ・S ビデオおよび D 端子またはコンポーネントビデオ出力の信号はそれぞれ出力されますが、HDMI 入力信号は出力されません。

D 端子(またはコンポーネント)に入力した各映像信号は、そのままそれぞれの出力端子から出力されます。

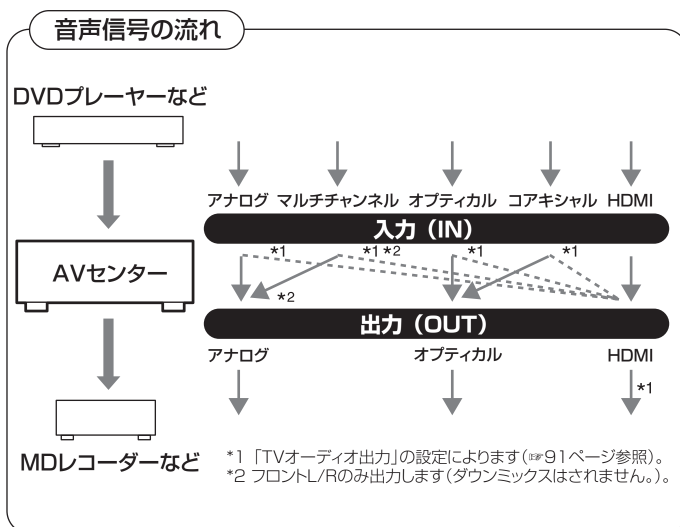


*1 映像機器の映像出力からモニターの映像入力までD端子接続している場合のみ、アスペクト比などの制御信号を送れます。モニターによっては、制御信号を受け取れないことがあります。その場合は、モニター側で調整してください。

接続する

音声接続のしくみ

本機はアナログ、デジタル（光／同軸）、アナログマルチチャンネル、そして HDMI のいずれの音声信号入力にも対応しています。
本機はデジタル入力信号を変換してアナログ出力することはできません。また逆にアナログ入力信号を変換してデジタル出力することもできません。たとえば OPTICAL 端子や COAXIAL 端子に入力した音声信号を TAPE OUT 端子から出力することはできません。



もし、1 つ以上の信号が入力されているなら、入力信号は HDMI、デジタル、アナログ（マルチチャンネルを含む）の順に優先的に自動選択されます（☞ 94 ページ）。

HDMI 端子を使って接続する

HDMI（High-Definition Multimedia Interface）とは

放送のデジタル化などの変化に対応して、家庭内でテレビ / プロジェクター間をデジタル接続することを目的として策定されたインターフェース規格です。
従来の DVI（Digital Visual Interface）*1 規格をさらに発展させて、オーディオ信号およびコントロール信号を伝送する機能を追加しています。従来は機器間の接続に、ビデオ、オーディオ、コントロールの各信号用に複数のケーブルを使用していましたが、HDMI ケーブルを 1 本接続するだけで、HDMI 端子対応の機器間で映像や音声をデジタルで伝送することができます。

HDMI のビデオストリーム（映像信号）は、DVI と原理的に互換性があります。DVI 端子を装備したテレビ / モニターなどに接続するには HDMI → DVI 変換ケーブルを用いて可能ですが、機器の組み合わせによっては映像が出ない場合があります。本機は HDCP を使用しており、対応の機器でのみ映像が出ます。

本機の HDMI インターフェースは、以下の規格に基づいています。
High-Definition Multimedia Interface Specification Informational Version 1.3a

対応音声フォーマット

- 2 チャンネルリニア PCM（32 ～ 192kHz、16/20/24bit）
- マルチチャンネルリニア PCM（7.1ch、32 ～ 192kHz、16/20/24bit）
- ビットストリーム（DSD、ドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラス、ドルビー TrueHD、DTS、DTS-HD High Resolusion Audio、DTS-HD Master Audio、AAC）

ただし、プレーヤー側も上記の音声フォーマットの HDMI 出力に対応している必要があります。

著作権保護について

本機は HDCP（High-bandwidth Digital Contents Protection）*2 に対応しています。HDCP とは、デジタル映像信号に対する著作権保護技術です。
本機と接続する機器も HDCP に対応していることが必要です。
本機の HDMI OUT 端子とテレビ / プロジェクターなどの HDMI 入力端子を接続します。接続には、市販の HDMI ケーブルをご使用ください。

*1 DVI（Digital Visual Interface）: DDWG*3 が、1999 年に策定したデジタルディスプレイ・インターフェース規格。

*2 HDCP（High-bandwidth Digital Content Protection）: Intel が開発した HDMI/DVI 用の映像向けの暗号化処理方式。映像コンテンツ保護を目的にしており、暗号化された信号を受信するには、HDCP 準拠の HDMI/DVI レシーバーが必要になる。

*3 DDWG（Digital Display Working Group）: Intel、Silicon Image、Compaq Computer、富士通、Hewlett-Packard などが中心となって運営する、ディスプレイのデジタルインターフェースの標準化を推進する団体。

接続する（映像機器を接続する）

接続のしかた

HDMI 接続では、HDMI ケーブルで映像信号と音声信号を同時に伝送することができます。

ステップ 1：HDMI ケーブルを使って本機の HDMI 端子とブルーレイディスク /DVD プレーヤー、テレビまたはプロジェクターなどの HDMI 端子と接続してください。

ステップ 2：接続した HDMI IN 端子を 42 ページの「HDMI 入力設定」で割り当ててください。

● 映像信号

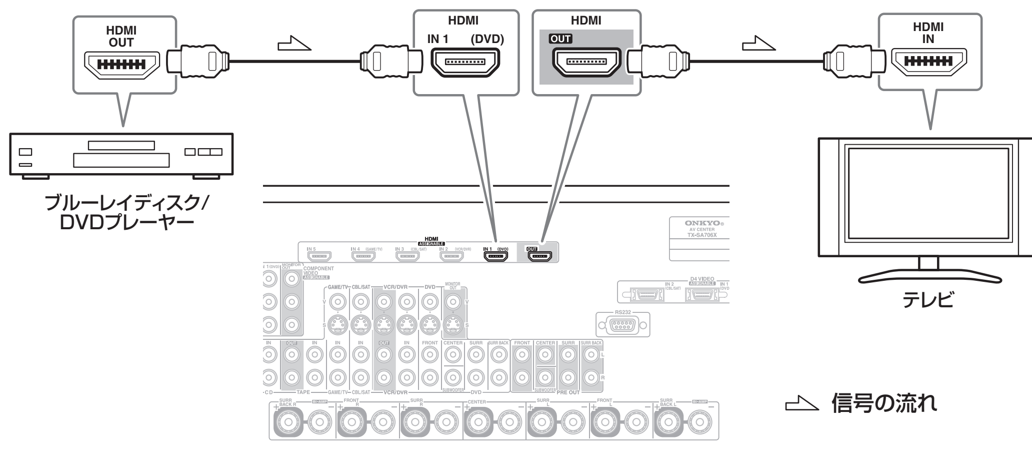
本機の HDMI IN 端子から入力したデジタル映像信号は、HDMI OUT 端子からテレビへ送られます。ビデオ（コンポジット）、S ビデオ、コンポーネントの各映像信号をアップコンバートして HDMI OUT 端子から出力できます。

● 音声信号

本機の HDMI IN 端子から入力したデジタル音声信号は、本機に接続されたスピーカーやヘッドホンへ出力できます。本機の「TV オーディオ出力」設定を「オン」にしていない普通の状態では HDMI OUT 端子から音声は出力されません（☞ 91 ページ）。

!ヒント

- 本機のHDMI IN端子に入力した音声をテレビのスピーカーで聴く場合は、本機の「TVオーディオ出力」設定を「オン」（☞91ページ）にし、次に再生機器 (ブルーレイディスク /DVD プレーヤー）側の HDMI 音声出力設定を「PCM」にします。



ご注意

- HDMI のビデオストリーム（映像信号）は、DVI と原理的に互換性があります。DVI 端子を装備したテレビ / モニターなどに接続するには HDMI → DVI 変換ケーブルを用いて可能ですが、機器の組み合わせによっては映像が出ない場合があります。本機は HDCP を使用しており、対応の受像機でのみ映像が出ます。
- 本機を通して HDMI 接続した機器の音声を楽しむときは、機器側で映像がテレビ画面に映るように設定してください。（テレビ側の入力設定も確認してください。）テレビの電源がオフのときやテレビの入力が正しく選ばれていないと、本機からの音声が出ないことがあります。
- 「TV オーディオ出力」設定が「オン」（☞ 91 ページ）、または「TV 連動」設定が「有効」（☞ 92 ページ）の状態でテレビのスピーカーで音声を聴いているとき、本機の MASTER VOLUME つまみを上げると本機に接続したスピーカーから音が出るようになります。本機に接続したスピーカーからの音を止めるには設定を変更するか、テレビ側の設定を変更するか、あるいは MASTER VOLUME つまみを下げてください。
- HDMI 音声信号は、接続機器により制約されることがあります。HDMI 接続している機器から入力される画像の品質がよくなかったり、音声が出なかったりするときは、機器側の設定を確認してください。詳しくは接続機器の取扱説明書をご覧ください。

テレビやプロジェクターと接続する

ステップ 1：映像接続をする

A、B、C の接続から必要な接続を選んでテレビやプロジェクターと映像接続をしてください。

!ヒント 20 ページの「映像接続のしくみ」を参考にしてください。

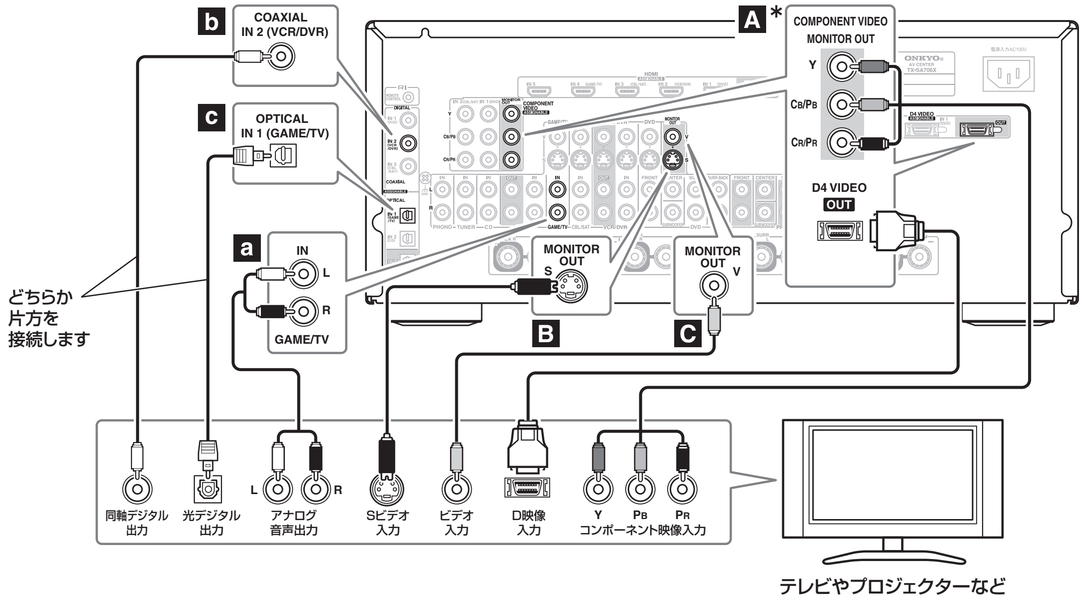
ステップ 2：音声接続をする

a、b、c の接続から必要な接続を選んでテレビやプロジェクターと音声接続をしてください。

基本的な接続 a

- テレビの音声をアナログ録音したいときに必要です。
- RI オーディオコントロール端子付テレビと連動させるときに必要です（☞ 38 ページ）。

BS デジタルや地上デジタルのサラウンド放送を楽しみたいときは b または c の接続をしてください。



接続	本機	信号の流れ	テレビ / プロジェクター
A	D4 VIDEO OUT 端子 または COMPONENT VIDEO MONITOR OUT 端子	→	D 映像入力端子 または コンポーネント映像入力端子
B	MONITOR OUT S 端子	→	S ビデオ入力端子
C	MONITOR OUT V 端子	→	ビデオ（コンポジット）入力端子
a	GAME/TV IN L/R 端子	←	アナログ音声出力端子
b	DIGITAL COAXIAL IN 2 (VCR/DVR) 端子	←	同軸デジタル出力端子
c	DIGITAL OPTICAL IN 1 (GAME/TV) 端子	←	光デジタル出力端子

＊ D4 VIDEO OUT 端子と COMPONENT VIDEO MONITOR OUT 端子は同時に出力することができません。どちらか片方のみ接続してください（☞ 20 ページ）。

!ヒント

- テレビに音声出力端子がないときは、ビデオデッキの音声出力端子と本機の VCR/DVR IN L/R 端子を接続してください。ビデオデッキに内蔵されているチューナーからテレビの音声をお楽しみいただけます。
- デジタル音声入力に接続するときは、45 ページをご覧ください。

ブルーレイディスク /DVD プレーヤーと接続する

ステップ 1：映像接続をする

A、B、C の接続から1つ選んでブルーレイディスク /DVD プレーヤーと映像接続をしてください。

!ヒント 20 ページの「映像接続のしくみ」を参考にしてください。

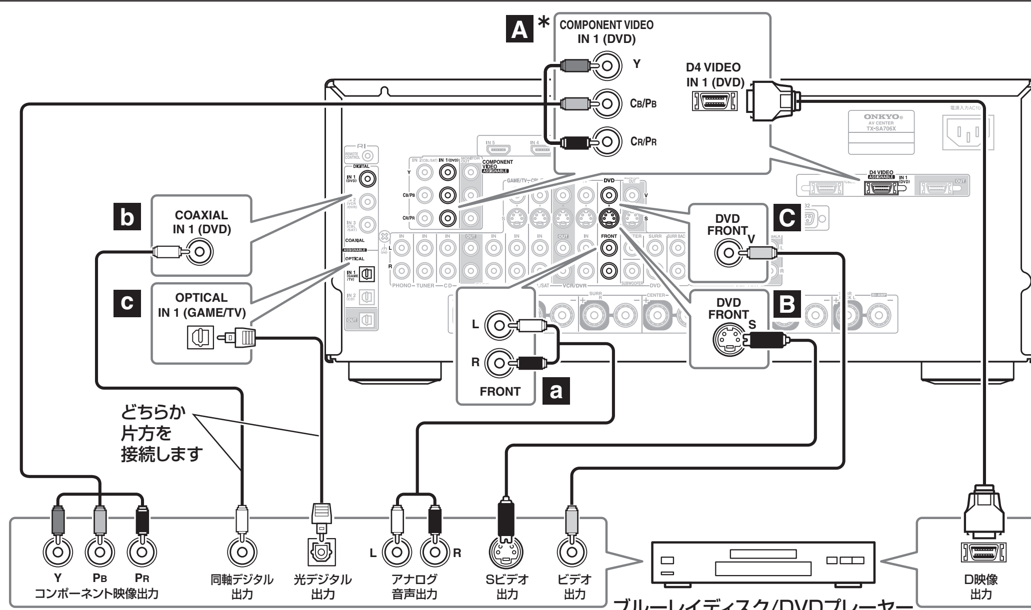
ステップ 2：音声接続をする

a、b、c の接続から必要な接続を選んでブルーレイディスク /DVD プレーヤーと音声接続をしてください。

基本的な接続 a

- ブルーレイディスク /DVD の音声をアナログ録音したいときに必要です。
- RI 端子付オンキヨー製 DVD プレーヤーと連動させるときに必要です（☞ 37 ページ）。

ドルビーデジタルや DTS などのリスニングモードを楽しみたいときは b または c の接続をしてください。



接続	本機	信号の流れ	ブルーレイディスク /DVD プレーヤー
A	D4 VIDEO IN 1 (DVD) 端子 または COMPONENT VIDEO IN 1 (DVD) 端子	←	D 映像出力端子 または コンポーネント映像出力端子
B	DVD S 端子	←	S ビデオ出力端子
C	DVD V 端子	←	ビデオ（コンポジット）出力端子
a	DVD FRONT L/R 端子	←	アナログ音声出力端子
b	DIGITAL COAXIAL IN 1 (DVD) 端子	←	同軸デジタル出力端子
c	DIGITAL OPTICAL IN 1 (GAME/TV) 端子	←	光デジタル出力端子

＊ D4 VIDEO IN 1 (DVD) 端子と COMPONENT VIDEO IN 1 (DVD) 端子は同時に入力することができません。
どちらか片方のみ接続してください（☞ 20 ページ）。

!ヒント

- ブルーレイディスク /DVD プレーヤーにマルチチャンネルと 2 チャンネルの両方の出力端子がある場合で、本機の DVD IN L/R 端子だけを接続するときは、ブルーレイディスク /DVD プレーヤーの 2 チャンネル出力端子と接続してください。マルチチャンネル接続は次ページをご覧ください。
- デジタル音声入力に接続するときは、45 ページをご覧ください。

■ マルチチャンネル（5.1/7.1ch）出力端子がある DVD プレーヤーと接続する

DVD オーディオなどのマルチチャンネル音声に対応している機器の場合、DVD オーディオやスーパーオーディオ CD などの再生がお楽しみいただけます。

5.1 チャンネル接続

5.1 チャンネル接続するときは、マルチチャンネル接続コードまたは、オーディオ用ピンコードを使って DVD プレーヤーのマルチチャンネル出力端子と本機の DVD FRONT L/R、CENTER、SURR L/R、SUBWOOFER 端子を接続します。

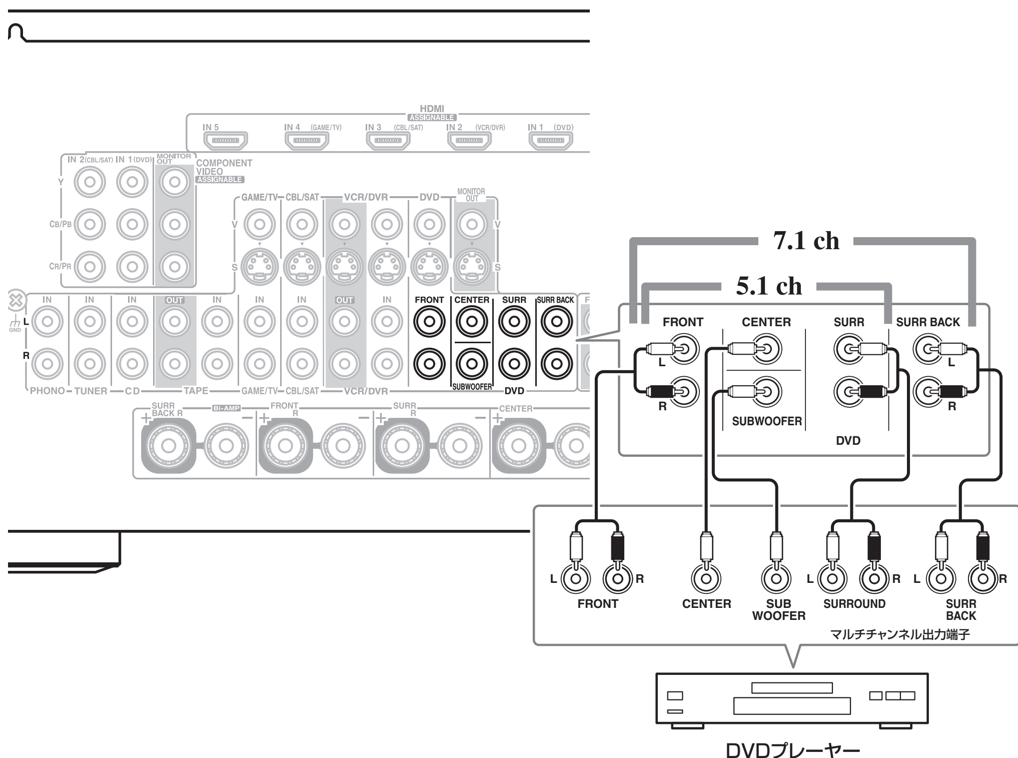
7.1 チャンネル接続

7.1 チャンネル接続するときは、5.1 チャンネル接続に加え、オーディオ用ピンコードを使って SURR BACK L/R 端子を接続してください。

55 ページの「マルチチャンネル接続した機器を再生する」で DVD の音声入力を「Multich」に設定してください。また、マルチチャンネル入力用にサブウーファー入力感度を調節するには、「ハードウェアの設定をする」(☞ 89 ページ)をご覧ください。

!ヒント

- DVD マルチチャンネル入力端子からの音声信号を HDMI OUT 端子やアナログ音声出力端子から出力するときは、フロント L/R チャンネルのみ出力されます。ダウンミックスはされません。



ビデオデッキやブルーレイディスク /DVD レコーダーと接続する（再生編）

ステップ 1：映像接続をする

A、B、C の接続から 1 つ選んでビデオデッキやブルーレイディスク /DVD レコーダーと映像接続をしてください。

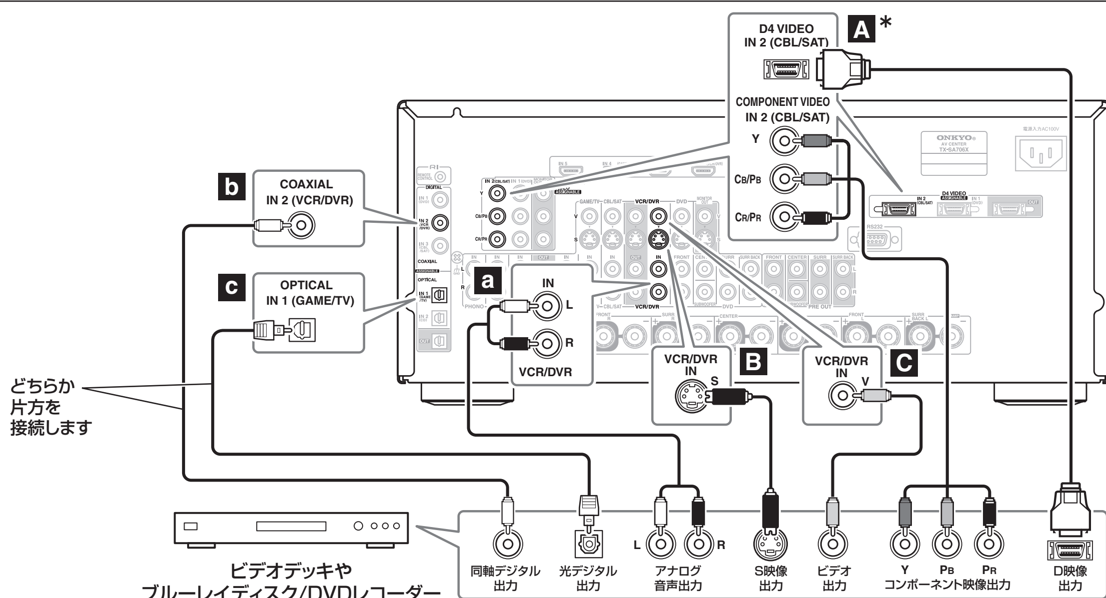
!ヒント 20 ページの「映像接続のしくみ」を参考にしてください。

ステップ 2：音声接続をする

a、b、c の接続から必要な接続を選んでビデオデッキやブルーレイディスク /DVD レコーダーと音声接続をしてください。

基本的な接続は a の接続をします。

ドルビーデジタルや DTS などのリスニングモードを楽しみたいときは b または c の接続をしてください。



接続	本機	信号の流れ	ビデオデッキ / ブルーレイディスク /DVD レコーダー
A	D4 VIDEO IN 2 (CBL/SAT) 端子 または COMPONENT VIDEO IN 2 (CBL/SAT) 端子	←	D 映像出力端子 または コンポーネント映像出力端子
B	VCR/DVR IN S 端子	←	S ビデオ出力端子
C	VCR/DVR IN V 端子	←	ビデオ（コンポジット）出力端子
a	VCR/DVR IN L/R 端子	←	アナログ音声出力端子
b	DIGITAL COAXIAL IN 2 (VCR/DVR) 端子	←	同軸デジタル出力端子
c	DIGITAL OPTICAL IN 1 (GAME/TV) 端子	←	光デジタル出力端子

＊ D4 VIDEO IN 2 (CBL/SAT) 端子と COMPONENT VIDEO IN 2 (CBL/SAT) 端子は同時に入力することができません。どちらか片方のみ接続してください（☞ 20 ページ）。

!ヒント

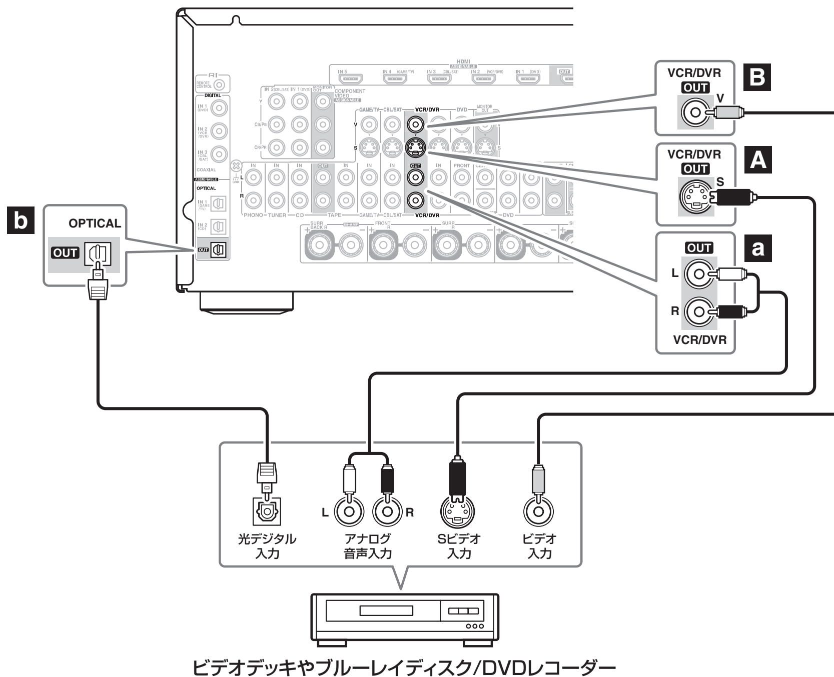
- この接続例ではビデオデッキあるいは DVD レコーダーの内蔵チューナーの音声を本機を通して楽しめます。TV に音声出力がない場合に良い音質で番組を楽しむことができます。
- デジタル音声入力に接続するときは、45 ページをご覧ください。

ビデオデッキやブルーレイディスク /DVD レコーダーと接続する（録画編：本機を通して録画する）

ステップ 1：ビデオデッキやブルーレイディスク /DVD レコーダーと **A** または **B** の映像接続をしてください。

!ヒント 20 ページの「映像接続のしくみ」を参考にしてください。

ステップ 2：アナログ録音する場合は **a**、デジタル録音する場合は **b** の接続をしてください。



ビデオデッキやブルーレイディスク/DVDレコーダー

接続	本機	信号の流れ	ビデオデッキ / ブルーレイディスク /DVD レコーダー
A	VCR/DVR OUT S 端子	➡	S ビデオ入力端子
B	VCR/DVR OUT V 端子	➡	ビデオ（コンポジット）入力端子
a	VCR/DVR OUT L/R 端子	➡	アナログ音声入力端子
b	DIGITAL OPTICAL OUT 端子	➡	光デジタル入力端子

ご注意

- 録画をするときは、本機の電源を入れる必要があります。本機がスタンバイ状態では録画できません。

!ヒント

- 本機を通さずに TV あるいは他の機器から直接録画したい場合は、TV あるいは他の機器の音声 / ビデオ出力を録画するビデオデッキや DVD レコーダーの音声 / ビデオ入力に接続してください。
- 本機の V 端子に入力したビデオ（コンポジット）信号は本機の VCR/DVR OUT V 端子を通してのみ録画できます。たとえば、TV の映像出力を GAME/TV IN V 端子に接続した場合は録画するビデオデッキや DVD レコーダーも VCR/DVR OUT V 端子に接続します。同様に GAME/TV IN S 端子に S ビデオ信号を入力した場合は、録画するビデオデッキや DVD レコーダーも VCR/DVR OUT S 端子に接続します。

BS チューナー／ケーブルテレビチューナー、LD プレーヤーなどと接続する

ステップ 1：映像接続をする

A、B、C の接続から1つ選んで BS チューナー／ケーブルテレビチューナー、LD プレーヤーと映像接続をしてください。

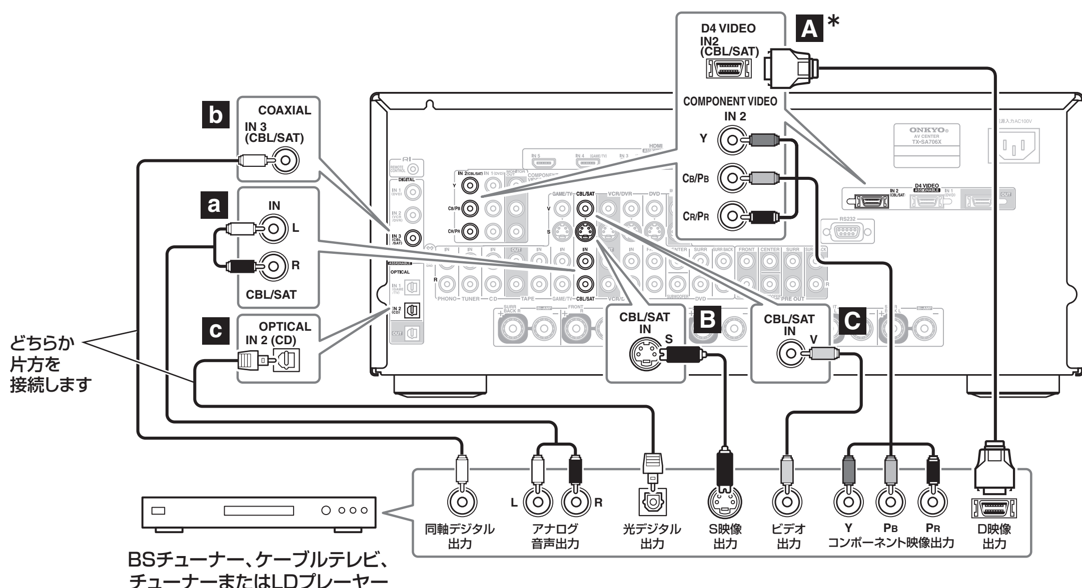
!ヒント 20 ページの「映像接続のしくみ」を参考にしてください。

ステップ 2：音声接続をする

a、b、c の接続から必要な接続を選んで BS チューナー／ケーブルテレビチューナー、LD プレーヤーと音声接続をしてください。

基本的な接続は a の接続をします。

ドルビーデジタルや DTS などのリスニングモードを楽しみたいときは b または c の接続をしてください。



接続	本機	信号の流れ	BS チューナー／ケーブルテレビチューナー、LD プレーヤー
A	D4 VIDEO IN 2 (CBL/SAT) 端子 または COMPONENT VIDEO IN 2 (CBL/SAT) 端子	⬅	D 映像出力端子 または コンポーネント映像出力端子
B	CBL/SAT IN S 端子	⬅	S ビデオ出力端子
C	CBL/SAT IN V 端子	⬅	ビデオ（コンポジット）出力端子
a	CBL/SAT IN L/R 端子	⬅	アナログ音声出力端子
b	DIGITAL COAXIAL IN 3 (CBL/SAT) 端子	⬅	同軸デジタル出力端子
c	DIGITAL OPTICAL IN 2 (CD) 端子	⬅	光デジタル出力端子

＊ D4 VIDEO IN 2 (CBL/SAT) 端子と COMPONENT VIDEO IN 2 (CBL/SAT) 端子は同時に入力することができません。どちらか片方のみ接続してください（☞ 20 ページ）。

ご注意

- 本機に LD プレーヤーの AC-3RF 出力端子は直接接続できません。LD プレーヤーでドルビーデジタル 5.1ch ソフトをお楽しみいただくには、市販のデモジュレーターが必要です。
- デジタル音声入力に接続するときは、45 ページをご覧ください。

ゲーム機と接続する

ステップ 1：映像接続をする

A、B、C の接続から1つ選んでゲーム機と映像接続してください。

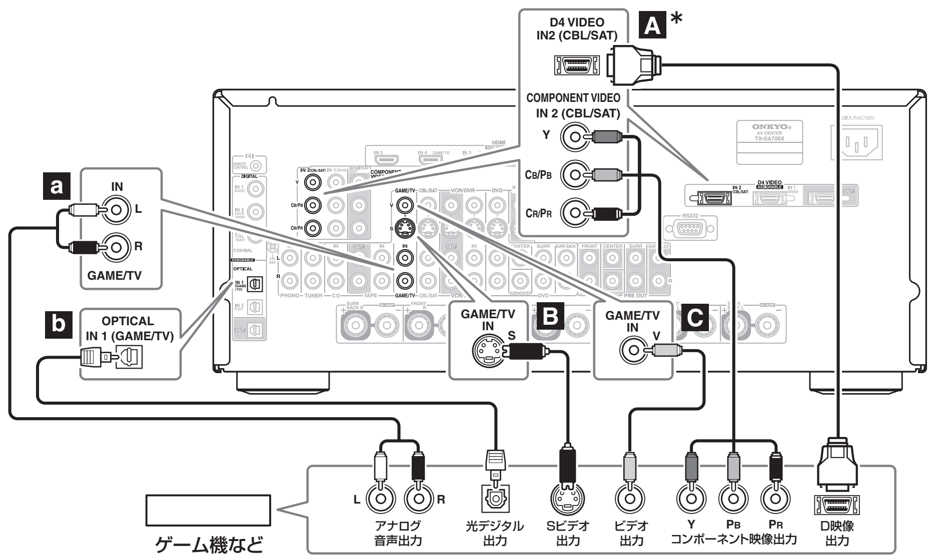
!ヒント 20 ページの「映像接続のしくみ」を参考にしてください。

ステップ 2：音声接続をする

a、b の接続から必要な接続を選んでゲーム機と音声接続をしてください。

基本的な接続は a の接続をします。

AAC やドルビーデジタル、DTS などのリスニングモードを楽しみたいときは b の接続をしてください。



接続	本機	信号の流れ	ゲーム機
A	D4 VIDEO IN 2 (CBL/SAT) 端子 または COMPONENT VIDEO IN 2 (CBL/SAT) 端子	←	D 映像出力端子 または コンポーネント映像出力端子
B	GAME/TV IN S 端子	←	S ビデオ出力端子
C	GAME/TV IN V 端子	←	ビデオ（コンポジット）出力端子
a	GAME/TV IN L/R 端子	←	アナログ音声出力端子
b	DIGITAL OPTICAL IN 1 (GAME/TV) 端子	←	光デジタル出力端子

＊ D4 VIDEO IN 2 (CBL/SAT) 端子と COMPONENT VIDEO IN 2 (CBL/SAT) 端子は同時に入力することができません。どちらか片方のみ接続してください（☞ 20 ページ）。

!ヒント

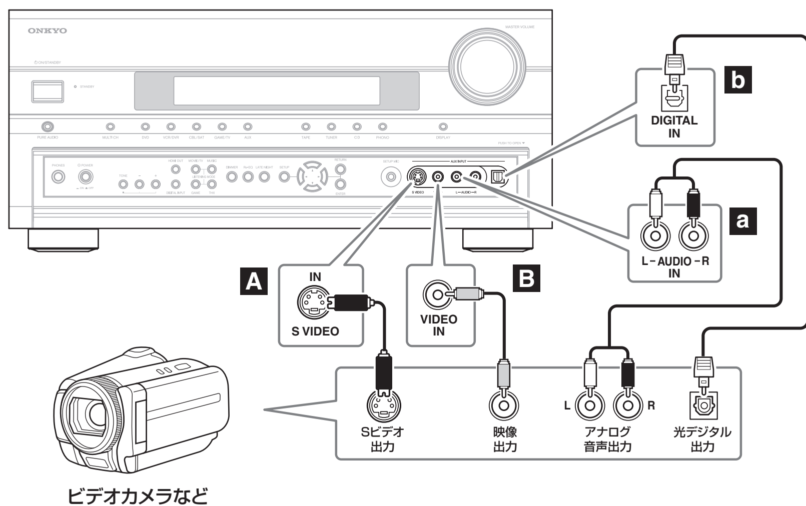
- デジタル音声入力に接続するときは、45 ページをご覧ください。

接続する（映像機器を接続する）

ビデオカメラと接続する

ステップ 1：A または B の映像接続をしてください。

ステップ 2：a または b の接続から必要な接続を選んで音声接続をしてください。



ビデオカメラなど

接続	本機	信号の流れ	ビデオカメラなど
A	AUX INPUT S VIDEO 端子	←	S ビデオ出力端子
B	AUX INPUT VIDEO 端子	←	ビデオ（コンポジット）出力端子
a	AUX INPUT L-AUDIO-R 端子	←	アナログ音声出力端子
b	AUX INPUT DIGITAL 端子	←	光デジタル出力端子

CD プレーヤーやレコードプレーヤーと接続する

■ CD プレーヤーやフォノイコライザー内蔵のレコードプレーヤーを接続するとき

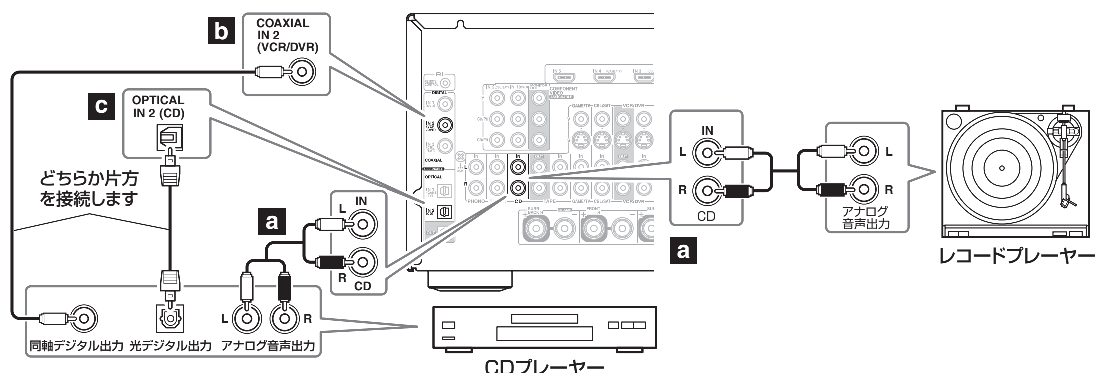
ステップ 1：音声接続をする

a、b、c の接続から必要な接続を選んで音声接続をしてください。

基本的な接続 a

- CD の音声をアナログ録音したいときに必要です。
- RI 端子付オンキヨー製 CD プレーヤーと連動させるときに必要です（☞ 37 ページ）。

CD の PCM や DTS 信号のリスニングモードを楽しみたいときは、b または c の接続をしてください。



接続	本機	信号の流れ	CD プレーヤー / レコードプレーヤー
a	CD IN L/R 端子	←	アナログ音声出力端子
b	DIGITAL COAXIAL IN 2（VCR/DVR）端子	←	同軸デジタル出力端子
c	DIGITAL OPTICAL IN 2（CD）端子	←	光デジタル出力端子

!ヒント

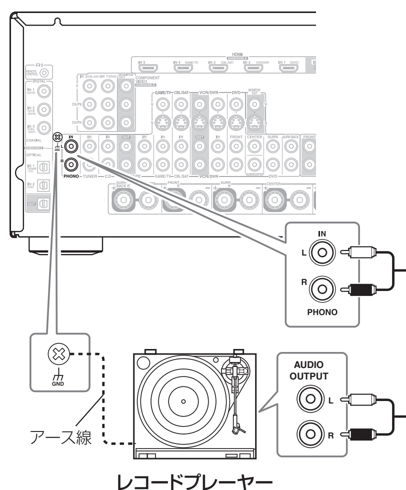
- デジタル音声入力に接続するときは、45 ページをご覧ください。

■ レコードプレーヤーがフォノイコライザー内蔵でない場合

本機は、ムービングマグネット（MM）カートリッジを使用するレコードプレーヤー用に設計されています。レコードプレーヤーの接続コードを本機の PHONO IN L/R 端子に接続します。

ご注意

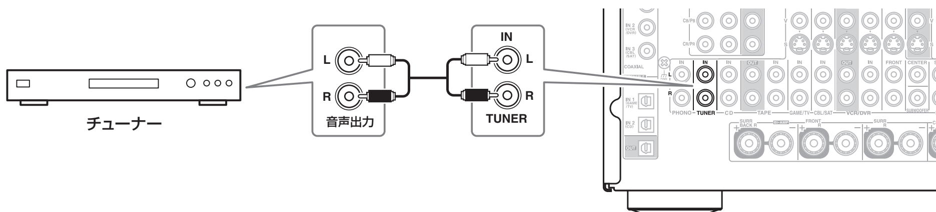
- アース（接地）線のあるレコードプレーヤーは、アース線を本機の GND 端子に接続してください。ただし、レコードプレーヤーによっては、アース線を接続すると逆にノイズが大きくなることがあります。その場合は、アース線を接続する必要はありません。
- MC カートリッジタイプのレコードプレーヤーをご使用になる場合は、レコードプレーヤーに昇圧トランスまたはヘッドアンプを接続します。次に、昇圧トランスやヘッドアンプの音声出力端子と本機の PHONO IN L/R 端子を接続します。



チューナーを接続する

ステップ 1：音声接続をする

オーディオ用ピンコードでチューナーの音声出力端子と本機のTUNER IN L/R端子を接続してください。



カセットデッキ、MDレコーダー、CDレコーダーを接続する

ステップ 1：音声接続をする

a、b、c、d の接続から必要な接続を選んで音声接続をしてください。

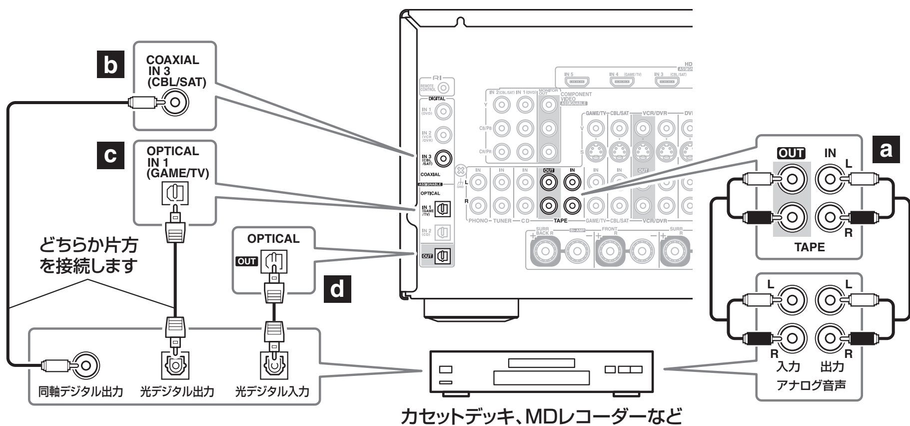
基本的な接続 a

- アナログ録音することができます。
- デジタル入力された信号は、アナログ出力されません。
- RI 端子付オンキヨー製品と連動させるときに必要です（☞ 37 ページ）。

CDのPCMやDTS信号のリスニングモードを楽しみたいときは、b または c の接続をしてください。

デジタル録音するときは、d の接続をしてください。

- アナログ入力された信号は、デジタル出力されません。



カセットデッキ、MDレコーダーなど

接続	本機	信号の流れ	録音機器
a	TAPE IN L/R 端子 TAPE OUT L/R 端子	← →	アナログ音声出力端子 アナログ音声入力端子
b	DIGITAL COAXIAL IN 3 (CBL/SAT) 端子	←	同軸デジタル出力端子
c	DIGITAL OPTICAL IN 1 (GAME/TV) 端子	←	光デジタル出力端子
d	DIGITAL OPTICAL OUT 端子	→	光デジタル入力端子

!ヒント

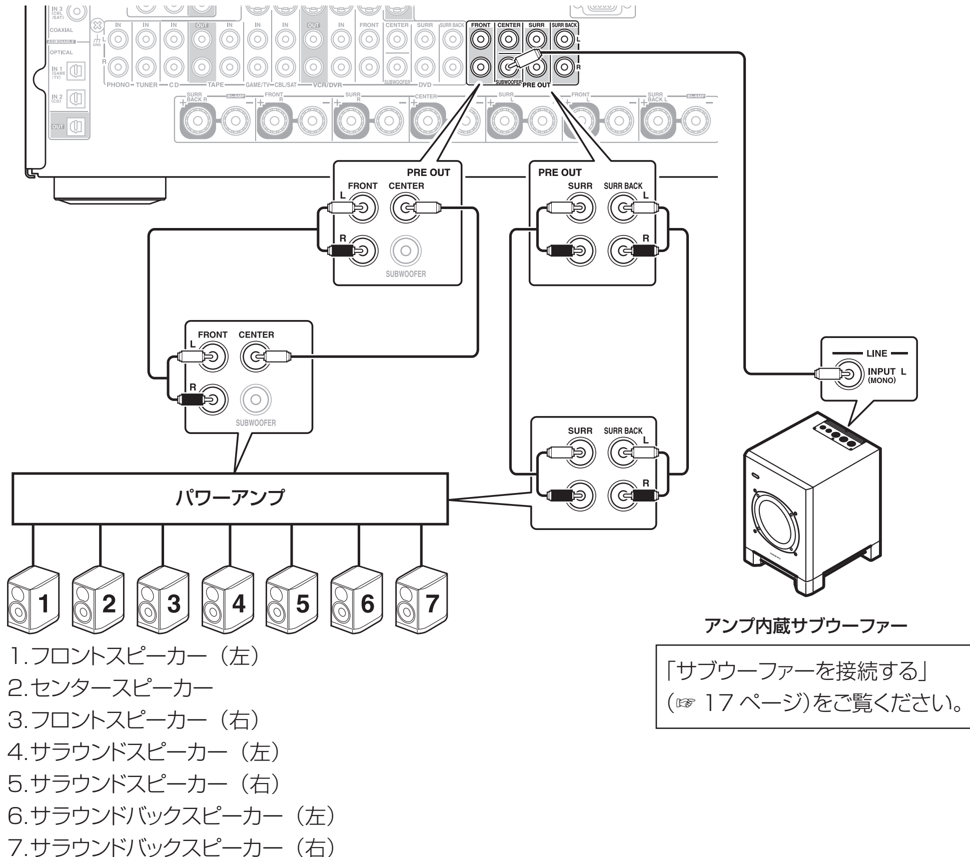
- デジタル音声入力に接続するときは、45ページをご覧ください。

パワーアンプを接続する

パワーアンプを本機に接続し、本機をプリアンプとして使用することができます。本機だけでは出力できない大音量で再生できるようになります。
パワーアンプを使用するときは、各スピーカーをパワーアンプに接続し、パワーアンプの音声入力端子と本機の PRE OUT 端子を接続します。アンプ内蔵サブウーファーを使用するときは、本機の SUBWOOFER PRE OUT 端子を接続します。

!ヒント

- PRE OUT 端子の出力はスピーカー端子からの出力と並列に出力されます。



1. フロントスピーカー（左）
2. センタースピーカー
3. フロントスピーカー（右）
4. サラウンドスピーカー（左）
5. サラウンドスピーカー（右）
6. サラウンドバックスピーカー（左）
7. サラウンドバックスピーカー（右）

「サブウーファーを接続する」
(☞ 17 ページ)をご覧ください。

接続する（オーディオ機器を接続する）

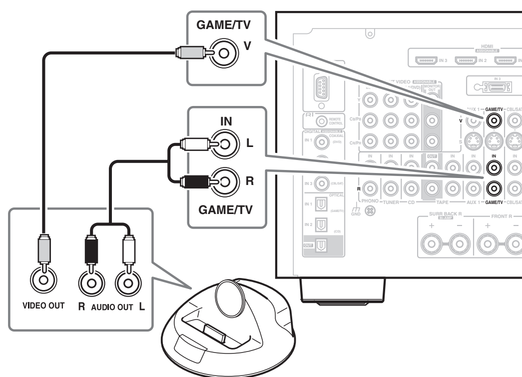
RI ドックを接続する



- RI ドックで使用できる iPod についてなどの詳細は、RI ドックの取扱説明書をご覧ください。

ご使用の iPod がビデオ対応機種の場合

オーディオ用ピンコードで RI ドックの AUDIO OUT L/R 端子と本機の GAME/TV IN L/R 端子を接続します。ビデオコードで RI ドックの VIDEO OUT 端子と本機の GAME/TV IN V 端子を接続します。
（イラストはオンキヨー RI ドック DS-A1X の例です。）

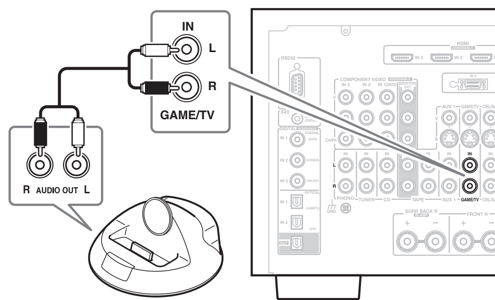


オンキヨー RI ドック DS-A1 をご使用の場合

S ビデオコードで RI ドックの S VIDEO OUT 端子と本機の GAME/TV IN S 端子を接続します。

ご使用の iPod がビデオに対応していない機種の場合

オーディオ用ピンコードで RI ドックの AUDIO OUT L/R 端子と本機の GAME/TV IN L/R 端子を接続します。
（イラストはオンキヨー RI ドック DS-A1X の例です。）



- RI ドック側で、RI MODE スイッチを「HDD」または「HDD/DOCK」に設定してください。
- 本機の入力表示を「DOCK」にしてください（☞ 47 ページ）。
- RI ケーブルで RI ドックと本機を接続することも忘れずに行ってください。
- RI ドックに付属の取扱説明書もご覧ください。
- ご使用の iPod が音声のみに対応している場合、TAPE IN L/R 端子にも接続できます。
- 本機に付属のリモコンの CUSTOM（カスタム）ボタンを押すことで、本機の入力が「DOCK」に切り換わり、RI ドックを操作できます。RI ドックを操作できないときは、リモコンコードを登録する必要があります（☞ 95、105 ページ）。

オンキヨー製品と連動させる接続

RI 端子付きのオンキヨー製品に RI ケーブルとオーディオ用ピンコードを接続すると、以下のような連動機能が可能です。
RI ケーブルとは、オンキヨーのシステム動作用ケーブルです（本機には付属していません）。
RI ケーブルの接続だけではシステムとして働きません。26、33、34 ページを参照し、オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。

ステップ 1：RI ケーブル接続をする

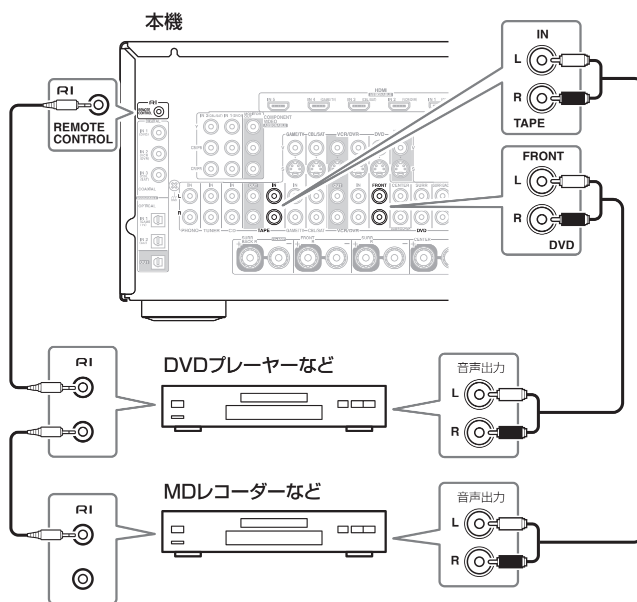
本機と、本機に接続したオンキヨー製品の RI 端子を、RI ケーブルで正しく接続します。

ステップ 2：ピンコードを接続する

本機と、本機に接続したオンキヨー製品の音声端子をオーディオ用ピンコードで正しく接続します。

ステップ 3：入力表示を切り換える

MD レコーダーや CD レコーダー、RI ドックを本機に接続した場合は、入力表示を「MD」「CDR」「DOCK」に切り換えてください（☞ 47 ページ）。



オートパワーオン機能

本機がスタンバイ状態のとき、接続した機器の電源を入れたり、再生を始めると、本機の電源が自動的に入ります。また、本機の電源を切ると接続されている機器全体の電源も切れます。

ダイレクトチェンジ機能

RI 接続されている機器の再生を始めると、本機の入力が自動的に切り換わります。
DVD プレーヤーのマルチチャンネル再生をする場合は、MULTI CH ボタンを押す必要があります（☞ 55 ページ）。

リモコン操作機能

本機に付属のリモコンを本機のリモコン受光部に向けて、RI 接続した機器を操作することができます（☞95 ページ）。
DVD プレーヤー、CD プレーヤー、MD レコーダー、CD レコーダー、RI ドックは、RI 専用リモコンコードを登録してください（☞96 ページ）。



- 製品によっては RI 接続をしても一部の機能が働かないことがあります。
- チューナーのタイマー機能や録音機器の CD ダビング機能は働きません。
- システム機能については、各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- RI ケーブルの接続は順序の指定はありません。
- RI 端子が 2 つある場合、2 つの端子の働きは同じです。どちらにもつなげます。
- 新旧製品の連動動作の対応 / 非対応については、コールセンターにお問い合わせください。

RI オーディオコントロール端子付きテレビとの連動について



- HDMI コントロール（RIHD）を「有効」にしている場合（☞ 92 ページ）は、本機の RI 端子とテレビを接続しないでください。
  HDMI コントロール（RIHD）と RI オーディオコントロールの両方が機能し、誤動作の原因となることがあります。

本機は RI 端子を持つテレビと接続すると次の動作が可能になります。

①テレビの電源を入れると本機の電源も自動的に入り、入力が切り換わります。
　このときテレビの音は消え、本機に接続されたスピーカーから音が出ます。また、テレビを切る（スタンバイにする）と、本機もスタンバイ状態になります。ただし、本機で他の入力を選んでいる場合は、スタンバイ状態になりません。

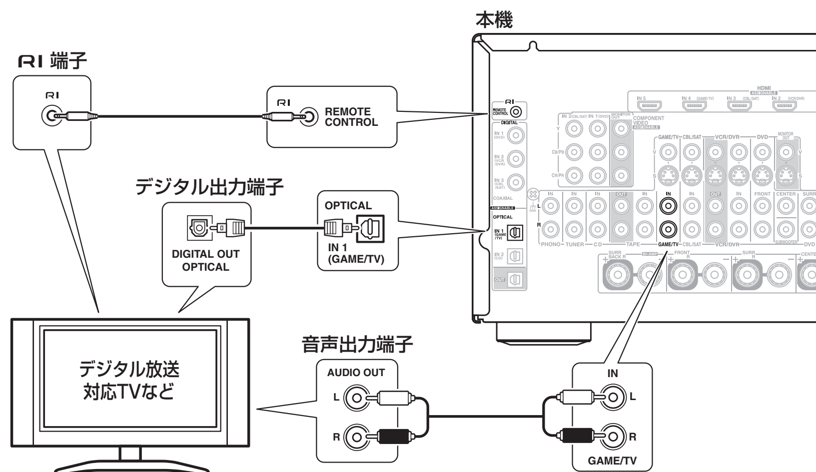
②テレビに付属のリモコンで本機の音量調整、ミューティング（消音）ができます。

③本機をスタンバイ状態にするとテレビの音が復帰し、テレビに付属のリモコンでテレビ側の機能（音量、消音）をコントロールできるようになります。

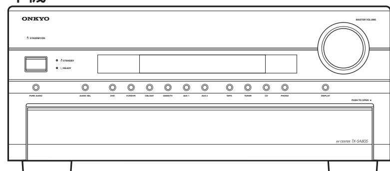
連動動作が可能なテレビについては、テレビのカタログや取扱説明書で、RI 端子が装備されているかどうかをご確認ください。
本機にケーブルは付属していません。モノラルミニプラグコード（抵抗なし）を別途お求めください。

接続のしかた

- 本機の GAME/TV IN L/R 音声入力端子を接続する
- モノラルミニプラグコードでテレビの RI オーディオコントロール端子と本機の RI 端子を接続する
- テレビの光デジタル音声出力端子と本機の DIGITAL OPTICAL IN 1（GAME/TV）端子と接続する
  （テレビに光デジタル音声出力端子がない場合は接続する必要はありません）

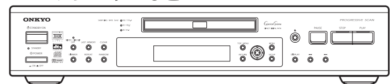


本機



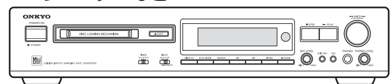
RI REMOTE CONTROL

DVDプレーヤーなど



RI

MDレコーダーなど



RI



RI

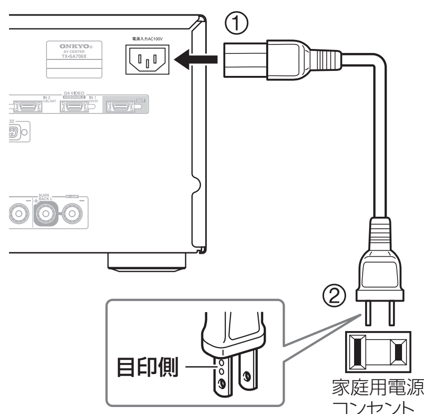
- 他のオンキヨー製品を接続する場合は、RI ケーブルで RI 端子どうしを接続してください。
- RI 端子が 2 つある製品の場合、2 つの働きは同じですのでどちらにでも接続できます。
- RI 端子の接続だけではシステムとして働きません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。

電源コードを接続する

ステップ 1：付属の電源コードを本機の電源入力 AC100V 端子に接続する

ステップ 2：電源コードをコンセントに接続する

電源コードを接続する前に



- すべての接続が完了していることを確認してください。
- 付属の本機専用電源コード以外は使用しないでください。
- 家庭用電源コンセントに電源プラグを差し込んだ状態で電源入力 AC100V 端子から電源コードを抜くと、感電する可能性があります。電源コードを接続するときは、最後に家庭用電源コンセントに接続し、抜くときは最初に家庭用電源コンセントから抜いてください。
- 本機の電源を入れると，瞬間的に大きな電流が流れてコンピューターなどの機器の動作に影響することがあります。コンピューターなど、繊細な機器とは別系統のコンセントに接続することをおすすめします。

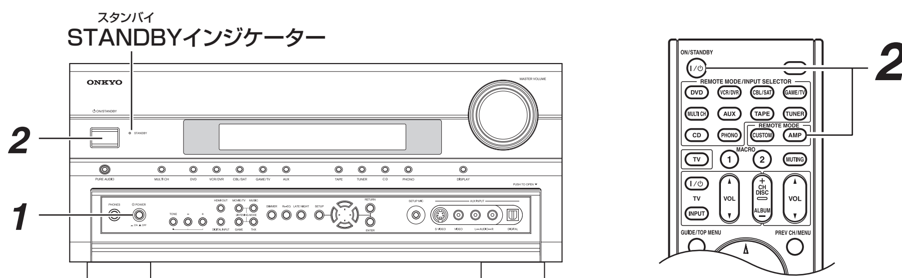
よりよい音で聴いていただくために

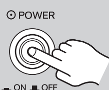
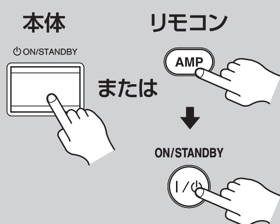
本機の電源コンセントは極性の管理がされています。電源プラグの目印側を家庭用電源コンセントの溝の長い方に合わせて差し込んでください。家庭用電源コンセントの溝の長さが同じ場合はどちらを接続してもかまいません。

ご注意

- 電源コードをコンセントから抜くときは、本機の主電源を切ってから抜いてください。

電源を入れる

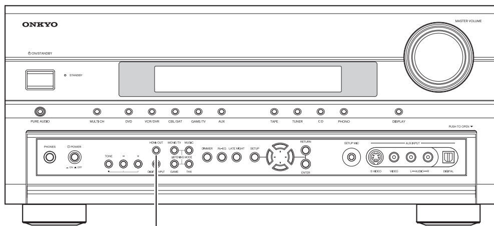


1		**POWER スイッチを押して（▂）、主電源を入れる** STANDBY インジケーターが点灯し、スタンバイ状態となります。
2 本体　リモコン		**本体の ON/STANDBY ボタン、またはリモコンの AMP ボタンを押してから ON/STANDBY ボタンを押す** STANDBY インジケーターが消え、表示部が点灯します。 **スタンバイ状態に戻すには** 本体の ON/STANDBY ボタンまたはリモコンの ON/STANDBY ボタンを押します。 主電源を切るには POWER スイッチを押し、OFF（▆）にします。

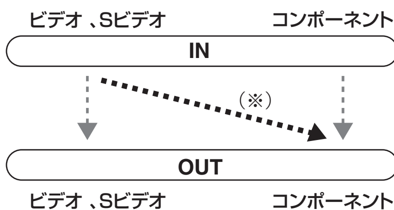
初期設定をする

この項目では、最初に本機を使用する前に実施する必要がある設定について説明します。

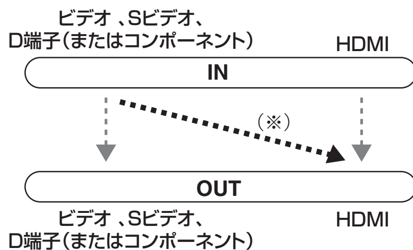
モニターを設定する



本機の HDMI OUT 端子以外にテレビを接続した場合：
「Monitor Out」設定を必ず Analog に設定してください。Analog の設定で OSD メニューは画面表示されます。またビデオ、S ビデオの各映像入力信号はアップコンバート（※）されて D4 VIDEO OUT 端子または COMPONENT VIDEO MONITOR OUT 端子から出力されます。



本機の HDMI OUT 端子にテレビを接続した場合：
「Monitor Out」設定を必ず HDMI に設定してください。HDMI の設定で OSD メニューは画面表示されます。またビデオ、S ビデオ、コンポーネントの各映像入力信号はアップコンバート（※）されて HDMI OUT 端子から出力されます。



HDMI 出力とコンポーネント出力の選択指定ができ、ご使用になるテレビが対応できる解像度に、必要に応じて本機でアップコンバートして出力します。
「Monitor Out」設定は本体の HDMI OUT ボタンで Analog、HDMI の設定切り換えができます。

1 HDMI OUT



HDMI OUT ボタンを押す

現在の設定が表示部に表示されます。

```
Monitor Out
      : HDMI
```

2 HDMI OUT



HDMI OUT ボタンを（くり返し）を押す

HDMI または Analog を切り換えます。

Analog： テレビを D4 VIDEO OUT 端子または COMPONENT VIDEO MONITOR OUT 端子、S 端子あるいは V 端子に接続した場合に選びます。

HDMI： テレビを HDMI OUT 端子に接続した場合に選びます。

ご注意

- **HDMI を選んでいるときは OSD メニュー画面は HDMI OUT 端子からのみ出力されます。HDMI OUT 端子以外にテレビを接続しているとき、誤って HDMI を選ぶとメニュー画面は消えます。その場合は本体の HDMI OUT ボタンで Analog に設定してください。**

!ヒント

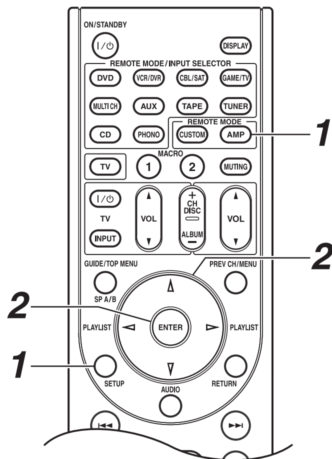
- Monitor Out 設定と出力解像度の設定（☞ 90 ページ）が本機の映像信号フローに及ぼす影響については、20 ページの「映像信号の流れ」をご覧ください。

OSD セットアップメニューを使用する

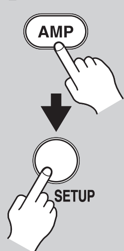
OSD セットアップメニューを使って、本機の設定を行います。

!ヒント

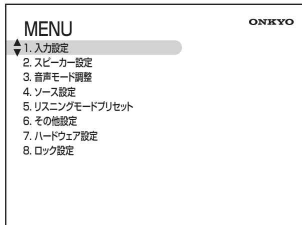
- OSD とは On（オン） Screen（スクリーン） Display（ディスプレイ）の略で、本機での設定や操作内容を接続したテレビなどのモニターに大きく表示して操作をしやすくする機能です。



1

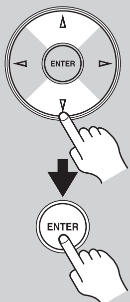


AMP（アンプ）ボタンを押してから SETUP（セットアップ）ボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる



メインメニューが表示されないときは、TV に適切な外部入力接続がされていることを確認してください。

2



▲/▼ ボタンを押して「サブメニュー」を選び、ENTER（エンター）ボタンを押す

サブメニュー画面が表示されます。
「SETUP」ボタンを押すと、設定が終了となり、メニュー画面が消えます。
「RETURN」ボタンを押すと、前の画面に戻ります。

■ 初期設定項目

サブメニュー

ONKYO
1. 入力設定
1. HDMI 入力設定
2. コンポーネント映像入力設定
3. デジタル音声入力設定

p.42
p.45

メインメニュー

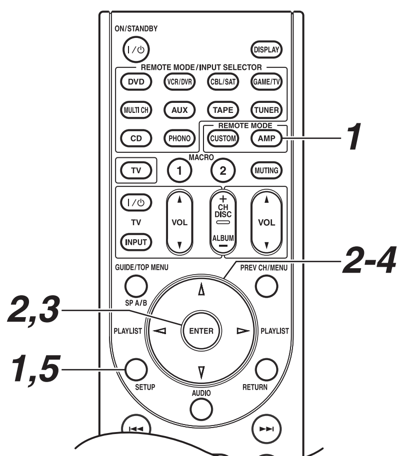
MENU
ONKYO
1. 入力設定
2. スピーカー設定
3. 音声モード調整
4. ソース設定
5. リスニングモードプリセット
6. その他設定
7. ハードウェア設定
8. ロック設定

ONKYO
2. スピーカー設定
1. スピーカー設定
2. スピーカーコンフィグレーション設定
3. スピーカー距離設定
4. スピーカー音量設定
5. イコライザー設定
6. THXオーディオ設定

p.46

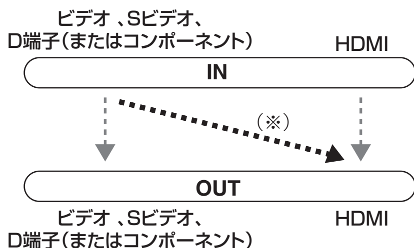
映像信号入力の設定をする

HDMI 入力端子の設定

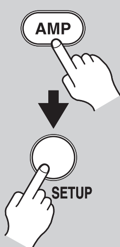


HDMI IN 端子に、HDMI 出力端子のある DVD プレーヤーなどを接続しているときに設定します。

たとえば、DVD プレーヤーを本機の HDMI IN 1 端子に接続したときは、DVD に「HDMI 1」を割り当ててください。HDMI ケーブルで本機の HDMI OUT 端子にテレビを接続した場合、「- - - - -」に設定すると、ビデオ、S ビデオ、D 端子（またはコンポーネント）の各映像入力信号をアップコンバート（※）して HDMI OUT 端子から出力できます。



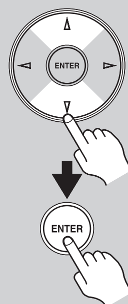
1



AMP ボタンを押してから SETUP ボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

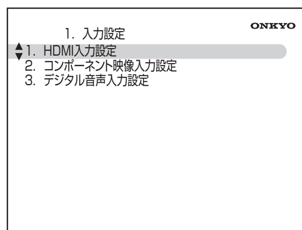
メインメニューが表示されないときは、TV に適切な外部入力接続がされていることを確認してください。

2

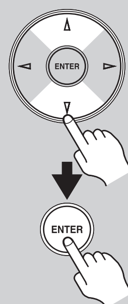


▲/▼ ボタンを押して「1. 入力設定」を選び、ENTER ボタンを押す

サブメニュー画面が表示されます。

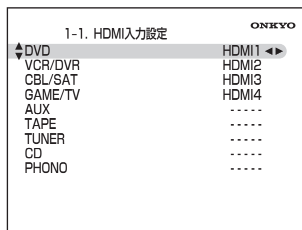


3

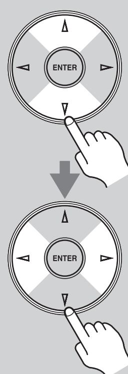


▲/▼ ボタンを押して「1. HDMI 入力設定」を選び、ENTER ボタンを押す

設定画面が表示されます。



4



▲/▼ ボタンを押して「設定する入力」を選び、◄/► ボタンで設定を選ぶ

HDMI1, HDMI2, HDMI3, HDMI4, HDMI5：
映像機器を接続した HDMI IN 端子を選びます。

例として：
DVD プレーヤーを HDMI IN 1 端子に接続した場合は、DVD 項目を HDMI1 にしてください。

- - - - -：
ビデオ、S ビデオ、D 端子（またはコンポーネント）の各映像信号をアップコンバートして HDMI OUT 端子から出力する場合に選びます。D 端子（またはコンポーネント）の入力信号を出力するか、ビデオ、S ビデオ端子の入力信号を出力するかは、「コンポーネントビデオ端子の設定」（☞ 43 ページ）で設定することができます。

ご注意

- アップコンバートして HDMI OUT 端子から出力する場合、必ず「Monitor Out」設定を「HDMI」（☞ 40 ページ）にして下さい。

5 SETUP ボタンを押す



設定が終了し、メニュー画面が消えます。

!ヒント

本体のSETUP(セットアップ)ボタン、▲/▼/◄/► ボタン、ENTER(エンター)ボタンでも操作することができます。

ご注意

- ビデオ、S ビデオ端子に入力された各映像信号をアップコンバートして HDMI OUT 端子から出力するには、HDMI 入力端子の設定(☞ 42 ページ)とコンポーネントビデオ端子の設定(☞右)を両方とも「- - - - -」にする必要があります。
- HDMI IN の各入力端子に割り当てできる入力切換ボタンは 1 つまでです。HDMI 1-5 まですでに割り当てられているときは、他の入力切替ボタンに割り当てることはできません。そのうちの使わない入力切替ボタンに「- - - - -」を設定してから割り当ててください。
- HDMI 1-5 を設定した入力切換ボタンには、自動的に同じ HDMI のデジタル入力が割り当てられます。(☞ 45 ページ)

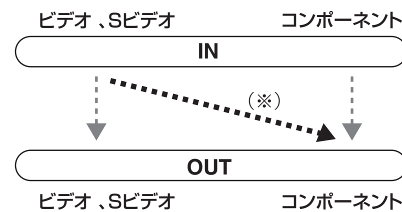
コンポーネントビデオ端子の設定

D4 VIDEO IN 端子または COMPONENT VIDEO IN 端子に DVD プレーヤーなどを接続しているときに設定します。ここで設定した映像入力端子からの映像が、D4 VIDEO OUT 端子または COMPONENT VIDEO MOMITOR OUT 端子から出力されます。
各入力ごとに設定できます。

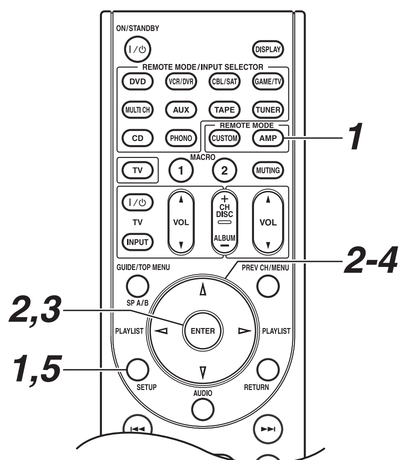
本機の D4 VIDEO IN 端子に映像機器を接続した場合、必ず D4 VIDEO IN 端子を入力切換ボタンに割り当ててください。たとえば D4 VIDEO IN 1 端子に DVD プレーヤーを接続した場合、入力切換ボタン DVD を IN 1 に設定します。

入力	映像入力端子の初期設定
DVD	IN 1
VCR/DVR	- - - - -
CBL/SAT	IN 2
GAME/TV	- - - - -
AUX	- - - - -
TAPE	- - - - -
CD	- - - - -
PHONO	- - - - -

D 端子用接続コードまたはコンポーネントビデオケーブルで本機の D4 VIDEO OUT 端子または COMPONENT VIDEO MOMITOR OUT 端子にテレビを接続した場合、設定を「- - - - -」にすると、ビデオ、S ビデオの各映像入力信号をアップコンバート(※)して D4 VIDEO OUT 端子または COMPONENT VIDEO MOMITOR OUT 端子から出力できます。



初期設定をする



1

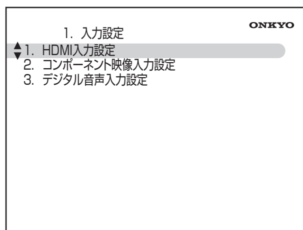
AMP ボタンを押してから SETUP ボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

メインメニューが表示されないときは、TV に適切な外部入力接続がされていることを確認してください。

2

▲/▼ ボタンを押して「1. 入力設定」を選び、ENTER ボタンを押す

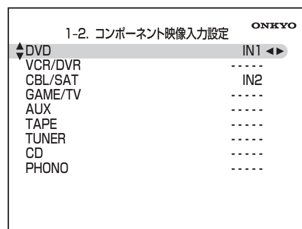
サブメニュー画面が表示されます。



3

▲/▼ ボタンを押して「2. コンポーネント映像入力設定」を選び、ENTER ボタンを押す

設定画面が表示されます。



4

▲/▼ ボタンを押して割り当てたい入力切換ボタンを選び、◄/► ボタンで設定を選ぶ

IN 1： 映像機器を D4 VIDEO IN1 端子または COMPONENT VIDEO IN1 に接続した場合に選びます。

IN 2： 映像機器を D4 VIDEO IN2 端子または COMPONENT VIDEO IN2 に接続した場合に選びます。

----- ： 映像機器を V または S のビデオ端子に接続した場合に選びます。各映像信号はアップコンバートされて D4 VIDEO OUT 端子または COMPONENT VIDEO MONITOR OUT 端子から出力されます。

ご注意

- アップコンバートして COMPONENT VIDEO MONITOR OUT 端子から出力する場合、必ず「Monitor Out」設定を「Analog」（☞ 40 ページ）にしてください。

5

SETUP ボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

!ヒント

- 本体の SETUP ボタン、▲/▼/◄/► ボタン、ENTER ボタンでも操作することができます。

デジタル音声入力端子の設定をする

デジタル音声入力端子の接続は、ドルビーデジタルや DTS のリスニングモードを楽しむために必要です。各デジタル音声入力端子は、お買い上げ時の設定で以下の表のようにそれぞれの機器に割り当てられています。

- 接続した機器がデジタル音声入力端子の初期設定と異なる場合は、設定を変更する必要があります。
- 初期設定でデジタル音声入力端子が設定されている機器とアナログ接続のみをしたとき、設定を「- - - - -」にする必要があります。

入力	デジタル 音声入力端子の初期設定
DVD	COAX 1
VCR/DVR	COAX 2
CBL/SAT	COAX 3
GAME/TV	OPT 1
AUX	FRONT
TAPE	- - - - -
TUNER	- - - - -
CD	OPT 2
PHONO	- - - - -

- 42 ページで HDMI 端子を割り当てた入力には、本設定も自動的に HDMI 端子が割り当てられます。また、この入力に他のデジタル音声入力を割り当てることもできます。デジタル音声入力で設定した方の音声を聴きたいときは、「自動音声選択」の設定も行ってください(☞ 94 ページ)。

例：

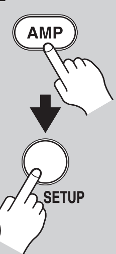
本機後面の OPTICAL IN 1 端子に CD プレーヤーを接続した場合

CD のデジタル音声入力端子の初期設定は「OPT 2」のため、「OPT 1」に設定を変更します。

DVD プレーヤーとアナログ接続のみをした場合

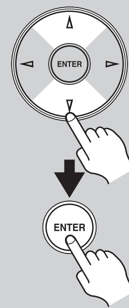
DVD のデジタル音声入力端子の初期設定は「COAX 1」のため、「- - - - -」に設定を変更します。

1 AMP ボタンを押してから SETUP ボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

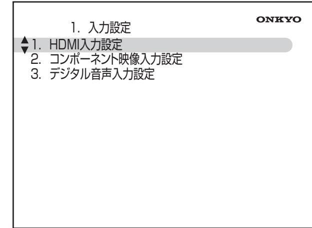


メインメニューが表示されないときは、TV に適切な外部入力接続がされていることを確認してください。

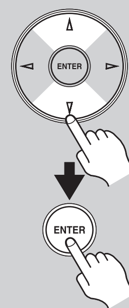
2 ▲/▼ ボタンを押して「1. 入力設定」を選び、ENTER ボタンを押す



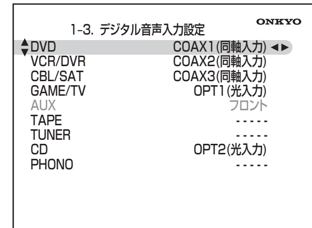
サブメニュー画面が表示されます。



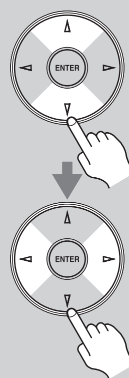
3 ▲/▼ ボタンを押して「3. デジタル音声入力設定」を選び、ENTER ボタンを押す



設定画面が表示されます。



4 ▲/▼ ボタンを押して「設定する入力」を選び、◄/► ボタンで設定を選ぶ



以下のデジタル音声入力端子を割り当てることができます。

COAX1 ：(COAXIAL IN 1 端子)
COAX2 ：(COAXIAL IN 2 端子)
COAX3 ：(COAXIAL IN 3 端子)
OPT1 ：(OPTICAL IN 1 端子)
OPT2 ：(OPTICAL IN 2 端子)
- - - - - ：(アナログ)

- 入力が AUX のときは、Front（前面パネルドア内のデジタル入力端子）に固定となります。
- HDMI IN から例えば COAX 1 に入力を変更するときは、自動音声選択機能を使う（☞ 94 ページ）の設定も同じ COAX 1 入力にしてください。

5 SETUP ボタンを押す



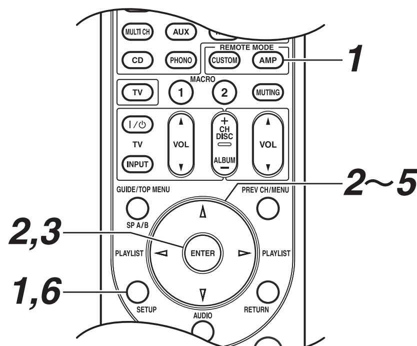
設定が終了し、メニュー画面が消えます。

!ヒント

- 本体の SETUP ボタン、▲/▼/◄/► ボタン、ENTER ボタンでも操作することができます。

スピーカーインピーダンスの設定をする

この項目は簡単スピーカー設定（☞48 ページ）を行う前に設定してください。



接続したスピーカーのインピーダンス（Ω）を設定します。

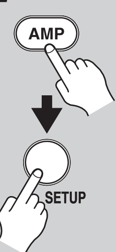
接続したスピーカーの中に1台でも４Ω以上６Ω未満のスピーカーがある場合はここで設定してください。

ご使用になるスピーカーの背面や取扱説明書でインピーダンス（Ω）をご確認ください。

ご注意

- フロントスピーカーを FRONT 端子と SURR BACK 端子にバイアンプ接続している場合は、スピーカーの設定を「バイアンプ」にしてください。
- 設定を変更するときは、必ず本機の音量を最小にしてください。

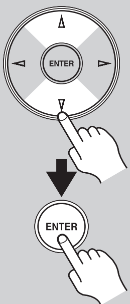
1



AMP ボタンを押してから SETUP ボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

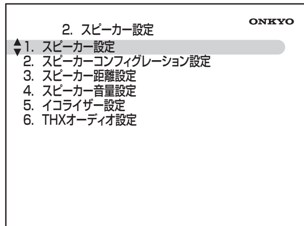
メインメニューが表示されないときは、TV に適切な外部入力接続がされていることを確認してください。

2

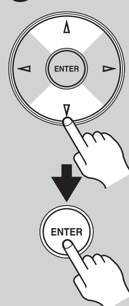


▲/▼ ボタンを押して「2. スピーカー設定」を選び、ENTER ボタンを押す

サブメニュー画面が表示されます。

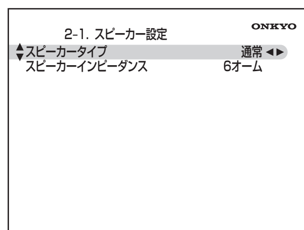


3

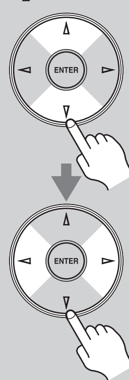


▲/▼ ボタンを押して「1. スピーカー設定」を選び、ENTER ボタンを押す

設定画面が表示されます。



4



▲/▼ ボタンを押して「スピーカータイプ」を選び、◄/► ボタンを押して「通常」または「バイアンプ」を選ぶ

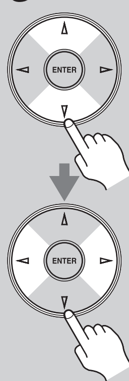
通常： 通常のスピーカー接続の場合に選択します。

バイアンプ： フロントスピーカーをバイアンプ接続している場合に選択します。

ご注意

- 「スピーカータイプ」設定を「バイアンプ」にしているときは、DVD マルチチャンネル入力を使用することができません。

5



▲/▼ ボタンを押して「スピーカーインピーダンス」を選び、◄/► ボタンを押して「4 オーム」または「6 オーム」を選ぶ

4 オーム： 接続したスピーカーの中に１台でも４Ω以上６Ω未満のスピーカーがある場合に選択します。

6 オーム： 接続したスピーカーがすべて６Ω以上 16Ω未満の場合に選択します。

6



SETUP ボタンを押す

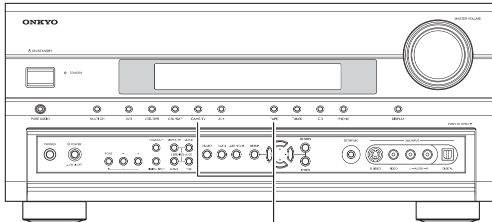
設定が終了し、メニュー画面が消えます。

!ヒント

- 本体の SETUP ボタン、▲/▼/◄/► ボタン、ENTER ボタンでも操作することができます。

入力表示を切り換える

オンキヨーの RI 端子付き MD レコーダー、CD レコーダーや RI ドックを本機の TAPE 端子や GAME/TV 端子に接続した場合、ダイレクトチェンジなどのシステム動作を正しく行うために、入力表示を切り換える必要があります。

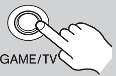


1, 2

1



または



入力切換ボタンの「TAPE(テープ)」または「GAME(ゲーム)/TV(テレビ)」を押し、表示部に「TAPE」または「GAME/TV」を表示させる

TAPE

または

GAME/TV

2



または



3 秒間

TAPE ボタンまたは GAME/TV ボタンを約 3 秒押し続けて、表示を切り換える

この手順をくり返すと以下のように表示が切り換わります。

TAPE ボタン：
「TAPE」→「MD」→「CDR」→「DOCK」→「TAPE」

GAME/TV ボタン：
「GAME/TV」→「DOCK」→「GAME/TV」

ご注意

- 「DOCK」は、「TAPE」または「GAME/TV」のどちらか片方でしか表示できません。
  どちらかで「DOCK」の表示に切り換えたときは、もう片方では切り換えることができません。

簡単スピーカー設定（Audyssey MultEQ®）をする

付属の簡単スピーカー設定用マイクを使用して、接続したスピーカーの数や視聴位置までの距離などを自動で測定し、最適な設定をします。設定の前に、使用するすべてのスピーカーの接続と設置を行ってください。

測定位置

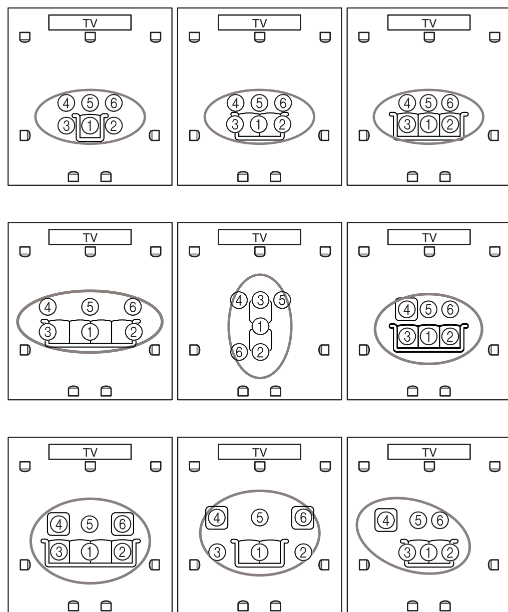
何人かで一緒にホームシアターを楽しむための最適なスピーカー設定をするため、付属の簡単スピーカー設定用マイクを最高６ケ所まで設置して本体内蔵の自動測定プログラム（Audyssey MultEQ）で測定します。
下図を参考に簡単スピーカー設定用マイクを置く位置をご確認ください。

■ 1 回目の測定位置

視聴する部屋の中心、あるいは一人で視聴する場合の位置にマイクを置きます。

■ 2 回目～ 6 回目の測定位置

1 回目の中心位置以外の視聴位置を最高 6 ケ所まで測定します。



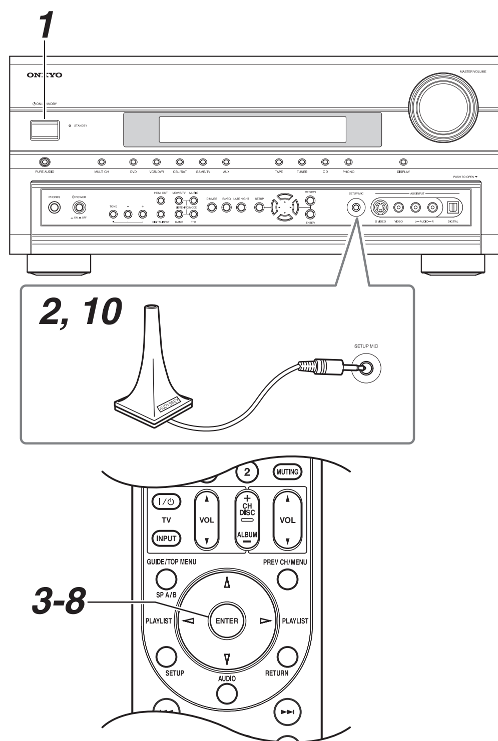
◯：視聴エリア

①～⑥：視聴位置

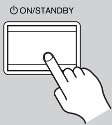
自動測定プログラム（Audyssey MultEQ®）を使う

ご注意

- 接続したスピーカーの中に 1 台でも 4 Ωのスピーカーがある場合、簡単スピーカー設定を始める前にスピーカーインピーダンスを変更（☞ 46 ページ）してください。
- MUTING 機能が設定されていると、解除されます。
- ヘッドホンを接続しているときは、測定できません。
- 設定に必要な時間は 3 ケ所で約 15 分かかります。測定位置の数やスピーカーの数によって時間は変わります。
- 測定中はマイクを抜かないでください。測定が中止になります。
- 測定中にスピーカー接続を外さないでください。



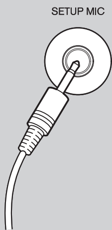
1



本機の電源を入れ、接続したテレビの電源を入れる

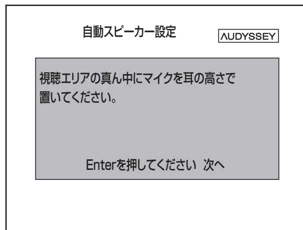
テレビの入力を本機を接続した入力に切り換えてください。

2



付属の簡単スピーカー設定用マイクを 1 回目の測定位置に設置してから、マイクのプラグを本機の SETUP MIC 端子に接続する

テレビに下記の画面が表示されます。



マイクを視聴時の耳に近い位置に設置します。

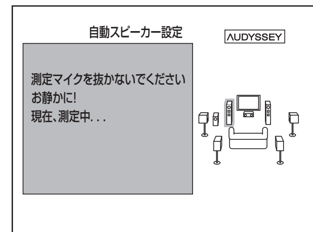


- 簡単スピーカー設定（Audyssey MultEQ®）を始める前に、部屋にあるスピーカーの位置を、映画が楽しめるような場所へ配置して、本機に接続してください。部屋内の音域特性が変化したときは、必要に応じて再び簡単スピーカー設定をします。
- 簡単スピーカー設定を始める前に、スピーカーとマイク間の経路を妨げる障害を避けてください。
  正確に測定することができなくなります。
- 三脚台を使用して、視聴するときの耳に近い高さの位置に、マイクの先端が天井を向くように、固定してください。測定中に、マイクを直接手で握っていると、正確に測定することができなくなります。
- 部屋をできるだけ静かにしてください。周囲の雑音は、測定値の誤差を生むことになります。窓を閉めて、携帯電話、テレビ、ラジオ、エアコン、蛍光ライト、家電機器、調光器、その他の機器を停止してください。
- 携帯電話は、使用中でなくても、RFI（無線周波妨害）のため測定の障害となることがあるので、測定中はすべてのオーディオ機器から遠ざけるか、または電源を切ってください。

3



ENTER ボタンを押す



測定プログラムが接続したスピーカーを順次検知してテスト音を順番に出します。検知には数分かかります。

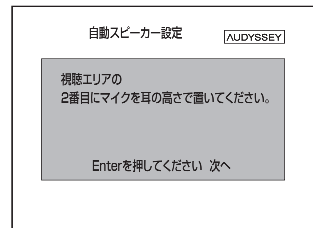


- 測定中は部屋の中をできるだけ静かな状態にしてください。周囲に雑音があると正しく測定できないことがあります。屋外の音、室内の電気製品から出る音や人の話し声などが影響を与えることがあります。
- 測定を途中で止めるときは、マイクのプラグを抜いてください。

4

スピーカー検知結果が表示されます

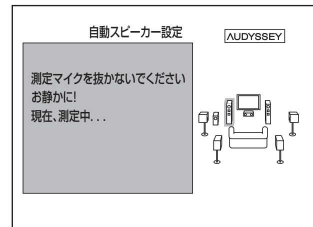
2 回目の測定位置で測定する画面が表示されます。





測定マイクを 2 回目位置（☞ 48 ページ）に設置して ENTER ボタンを押す

測定に数分かかります。

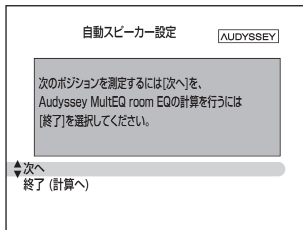


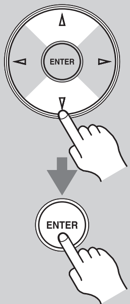
5

次の測定位置で測定する画面が表示されるので、マイクを次の位置に設置して、手順 *4* をくり返す

6

3 回目から 5 回目が終了すると以下の画面が表示されます。





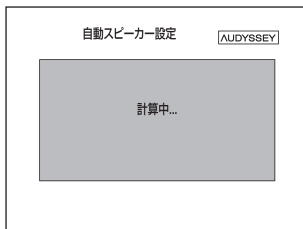
▲ /▼ボタンで項目を選び、ENTER ボタンを押す

次へ：
さらに別の測定位置で測定するときに選びます。
6回目の測定が終わると、自動的に手順 ***7*** に進みます。

終了（計算へ）：
これ以上測定しないときに選びます。
測定結果の計算に進みます（手順 ***7***）

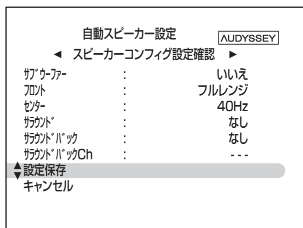
7

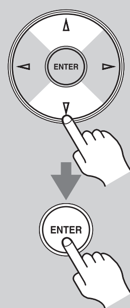
測定が完了すると計算処理開始の画面が表示されます



8

計算処理が完了すると設定保存、設定確認をする画面が表示されます





▲ /▼ボタンで項目を選び、ENTER ボタンを押す

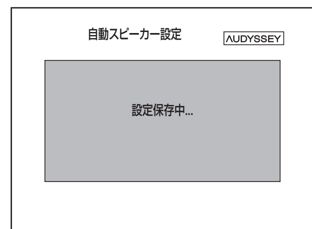
設定保存： 計算結果を保存して終了します。

キャンセル： 結果をキャンセルして終了します。

● スピーカーコンフィグレーション設定、スピーカー距離設定、スピーカー音量設定などの計算結果を確認するときは、◄/► ボタンを押してください。

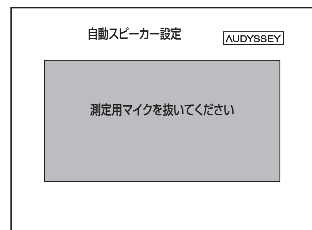
9

設定保存を選ぶと保存開始の画面が表示されます



10

設定用マイクのプラグを抜く



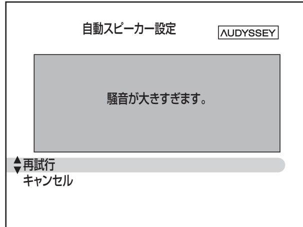
ご注意

● 簡単スピーカー設定が完了するとスピーカーの音場補正設定（☞ 74 ページ）は「Audyssey」に設定されます。
● 簡単スピーカー設定はマイクのプラグを抜くと、計測中／処理中のいつでも中止することができます。

エラーメッセージ

簡単スピーカー設定中にエラーメッセージが表示される場合があります。それぞれのメッセージ内容は以下のとおりです。

❑ 騒音が大きすぎます。



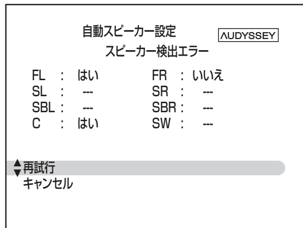
測定環境の騒音が大きすぎて測定できません。騒音の原因を取り除いてください。

再試行： 再度測定します。
（測定していたポイントから再開します）

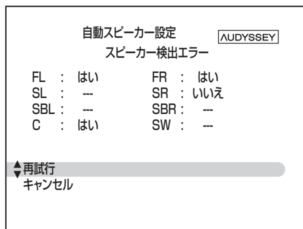
キャンセル： 測定をキャンセルして終了します。

❑ スピーカー検出エラー

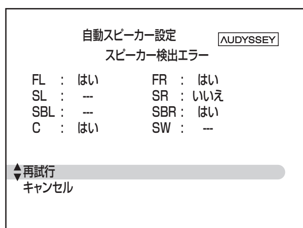
スピーカーが検出できないときに表示されます。
検出されているスピーカーの右には「はい」が表示されます。スピーカーが検出できないときは、「いいえ」が表示されます。



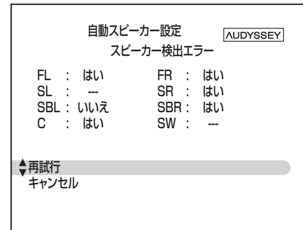
フロントスピーカーが検出できません。



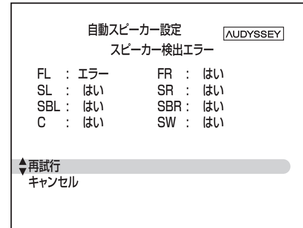
サラウンドスピーカーが検出できません。



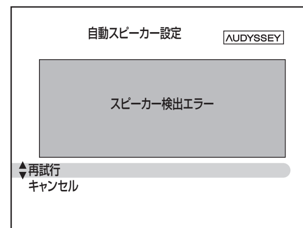
サラウンドバックスピーカーが検出されているのに、サラウンドスピーカーが検出できません。



右サラウンドバックスピーカーが検出されているのに、左サラウンドバックスピーカーが検出できません。



スピーカーに異常があります。スピーカーが壊れているか、サブウーファーの音量が高域を出しすぎているかもしれません。

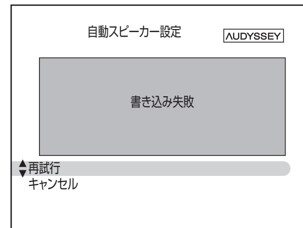


1 回目の測定でのスピーカー数と、2、3 回目の測定でのスピーカー数が違います。
検出できないスピーカーが正しく接続されているか確認してください。

再試行： エラーが出たところから測定し直します。

キャンセル： 結果をキャンセルして終了します。

❑ 書き込み失敗（保存エラー）



測定結果の保存に失敗しました。
2、3 度試してもこのエラーメッセージが出る場合は、本機が故障している可能性があります。
お買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。

再試行： 再度保存し直します。

キャンセル： 結果をキャンセルして終了します。

スピーカー設定を手動で変更する

簡単スピーカー設定による自動設定が実際の使用に必ずしも最適ではない場合があります。再測定しても結果に変更がない場合は手動でスピーカー設定を行ってください（☞ 69 ～ 76 ページ）。



THX のリスニングモードで聴くときは

THX 認定スピーカーシステムを使用するときは、スピーカー設定を手動で設定し直すことを THX は推奨しています。

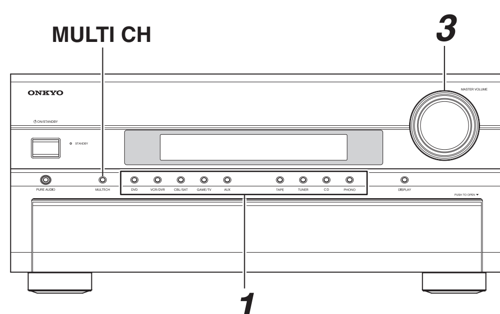
- 簡単スピーカー設定を行った場合は、手動でクロスオーバー周波数設定を「80Hz(THX)」に設定してください。
- 低域周波数の持つ無指向性、あるいは各部屋の持つ固有の特性などにより、サブウーファーのスピーカーディスタンス設定やスピーカー音量レベル設定が最適でない場合があります。手動で設定し直してください。
- 各部屋固有の特性などにより、スピーカーディスタンス設定やスピーカー音量レベル設定が最適でない場合があります。手動で設定し直してください。

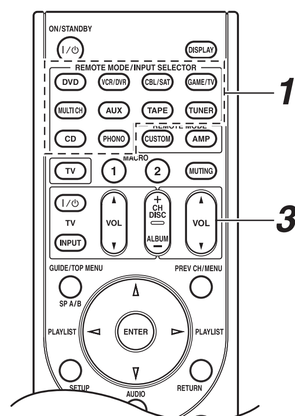
アンプ内蔵サブウーファーを接続している場合

サブウーファーの音声は、超低域で低い位置から出力されるために、簡単スピーカー設定で認識されない場合があります。測定結果を確認する画面で、サブウーファー（SW）が「いいえ」と表示されるときは、サブウーファーの音量を半分くらいまで上げ、周波数を最大にした状態でご使用ください。また、カットオフフィルター切換スイッチがある場合は、「Off（オフ）」あるいは「DIRECT（ダイレクト）」の状態にしてご使用ください。詳しくは、サブウーファーの取扱説明書をご覧ください。カットオフ周波数を「Off」にできない場合は、周波数を最大にしてご使用ください。

映画・音楽を鑑賞する（基本編）

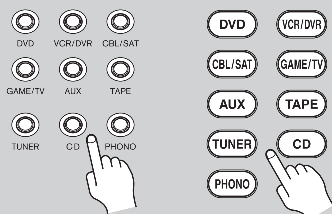
接続した機器を再生する





1

本体　または　リモコン



再生する機器を選ぶ

本体の入力切換ボタンを押します。または、リモコンのINPUT（インプット） SELECTOR（セレクター） ボタンを押します

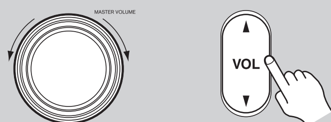
2

選んだ機器の再生を始める

映像機器を再生する場合は、テレビなどモニターの入力を本機のHDMI OUT、COMPONENT VIDEO MONITOR OUT、MONITOR OUT端子を接続した入力に切り換えてください。
また、DVD 対応のゲーム機などの再生機器で音声出力設定が必要な場合もあります。

3

本体　または　リモコン



本体の MASTER（マスター） VOLUME（ボリューム） つまみ、またはリモコンの VOL（ボリューム） ▲/▼ ボタンで音量を調整する

音量は基本的に−∞ dB・− 81.5dB ‥‥‥+ 18.0dB までの範囲で調整できます。
（88 ページで「ボリューム表示」を「相対値」に設定時）

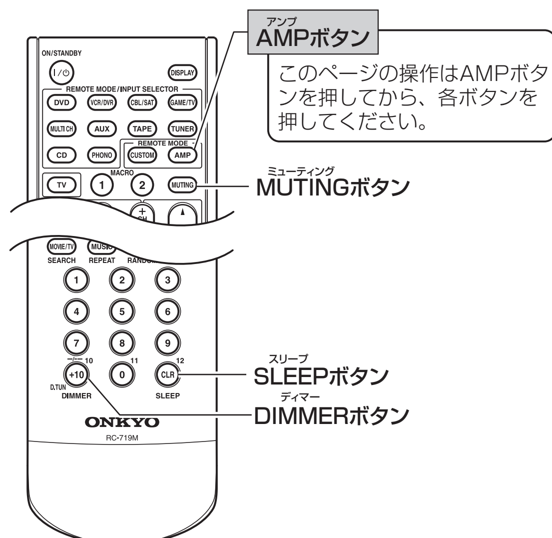
!ヒント

- 本機はホームシアターでお楽しみいただく製品ですので、ボリューム値を細かく設定できるように音量幅を大きく持たせています。お好みで調整してください。

4

リスニングモードを楽しむ

詳しくは 57 ページをご覧ください。



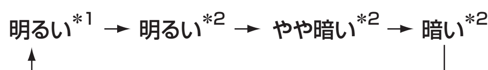
表示部の明るさを変える

表示部の明るさを変えることができます。本体の DIMMER ボタンでも操作できます。



リモコンの DIMMER ボタンを押す

押すたびに以下のように明るさが変わります。



＊1 MASTER VOLUME つまみのまわりのライトが点灯
＊2 MASTER VOLUME つまみのまわりのライトが消灯

一時的に音量を小さくする



リモコンの MUTING ボタンを押す

- 表示部に「MUTING」が点滅します。

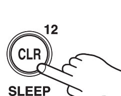
■ 解除するには

もう一度 MUTING ボタンを押してください。
（音量を変えたり、ON/STANDBY ボタンを押した場合にも解除されます。）

!ヒント

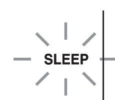
- 「ミュート減衰量」設定でミューティング時の音量レベルを調整できます（☞ 88 ページ）。

スリープタイマーを使う



リモコンの SLEEP ボタンを押す

「Sleep 90 min」が表示され、90 分後にスタンバイ状態になります。
ボタンを押すたびに 10 分単位で設定時間が短くなります。



- スリープタイマー設定中は SLEEP 表示が点灯します。

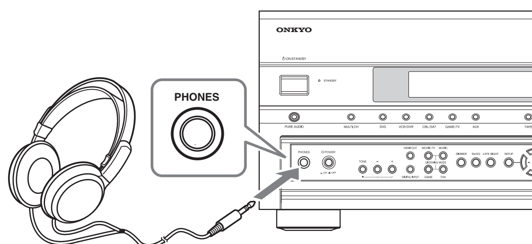
■ 残り時間を確認するには

スリープタイマー設定中に SLEEP ボタンを押すと、スタンバイ状態になるまでの残り時間が表示されます。ただし、残り時間表示が 10 分以下のときに再び SLEEP ボタンを押すと、スリープタイマーは解除されます。

■ スリープタイマーを解除するには

SLEEP 表示が消えるまで、くり返し SLEEP ボタンを押すか、一度スタンバイ状態にしてから再度電源を入れるとスリープタイマーは解除されます。

ヘッドホンで聴く



PHONES 端子にヘッドホンのステレオ標準プラグを接続する

- 接続するときは音量を下げてください。
- ヘッドホン使用中はスピーカーからの音が消え、ヘッドホン表示が点灯します。
- 「Pure Audio」、「Mono」または「Direct」以外のリスニングモードを選択している場合は、ヘッドホンを接続すると自動的に「Stereo」になります。
- ヘッドホン接続時は、「Pure Audio」、「Mono」、「Direct」または「Stereo」のリスニングモードが選択できます。
- マルチチャンネル入力を選んでいるときは、左右フロントチャンネルの音声のみ聴こえます。

マルチチャンネル接続した機器を再生する

DVD プレーヤーとマルチチャンネル接続をしている場合、DVD オーディオやスーパーオーディオ CD などの再生をお楽しみいただけます。27 ページの通り正しく接続されていることを確認してください。

リモコン



リモコンの MULTI CH ボタンを押して、表示部に「MULTI CH」を表示させる

DVD マルチチャンネル入力からの音源が、DVD 入力ソースに使用されるようになります。

!ヒント

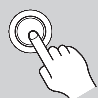
- 「スピーカー環境の設定」(☞ 69 ページ)に関係なく、ソフトに収録された内容どおりにすべてのチャンネルから出力されます。
- 「スピーカータイプ」を「バイアンプ」に設定されると DVD マルチチャンネル入力を使用できません(☞ 46 ページ)。
- 本体の MULTI CH ボタンでも操作することができます。

低音、高音(Bass、Treble)を調整する

「Direct」、「Pure Audio」、「THX」、「Multich」以外のリスニングモード時に左右フロントスピーカーの音質を調整することができます。

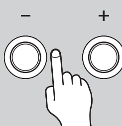
1 本体

TONE



TONE ボタンをくり返し押して、「Bass（低音）」または「Treble（高音）」を選ぶ

2



－ / ＋ボタンを押して、レベルを調整する

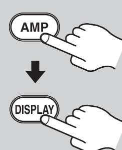
お買い上げ時は「0」ですが、－ 10dB ～＋ 10dB の範囲内で 2dB ずつ調整できます。

!ヒント

- リモコンの AUDIO ボタンでも操作することができます（☞ 80 ページ）。

表示を確認する

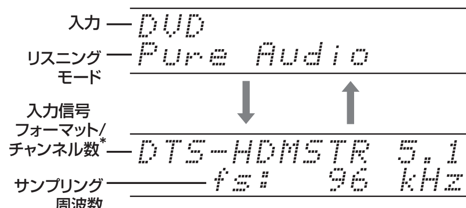
リモコン



リモコンの AMP ボタンを押してから、DISPLAY ボタンを押す

本体の DISPLAY ボタンでも操作できます。

- 入力されている信号により、表示される内容は異なります。
- DISPLAY ボタンを押すたびに、表示内容が下記のように切り換わります。



* 入力信号がアナログのときは信号フォーマットの表示はありません。入力信号が PCM のときはサンプリング周波数が表示されます。入力信号がデジタルのときは信号フォーマットとチャンネル数が表示されます。マルチチャンネルの PCM などのデジタル入力の場合は信号フォーマット、チャンネル数、サンプリング周波数が表示されます。
サンプリング周波数やフォーマット表示は、約 3 秒経過すると、もとの表示に戻ります。

● **入力信号が AAC の音声多重放送(2 ヶ国語放送など)のとき**

入力 — CBL/SAT
入力信号フォーマット — AAC　:1+1

録音・録画する

あなたが録音・録画したものは、個人として楽しむほかは著作権法上、権利者に無断で使用できません。


ご注意

- サラウンド効果は録音されません。
- 著作権保護された DVD などはデジタル録音・録画できません。
- マルチチャンネル音声は録音できません。
- DIGITAL IN（COAXIAL または OPTICAL）端子から入力したデジタル信号は、DIGITAL OUT（OPTICAL）端子からのみ出力されます。
  HDMI IN 端子から入力された信号は出力されません。
  アナログ音声入力はアナログ音声出力にのみ出力されます。
- デジタル信号の録音・録画については制約があります。デジタル録音するときは、録音機器の取扱説明書もご覧ください。
- DTS 対応の CD や LD をアナログ録音すると、DTS 信号はノイズとして録音されることがあります。
- VCR/DVR IN 端子に入力された映像や音声は、VCR/DVR OUT 端子に出力されません。同様に TAPE IN 端子に入力された音声は、TAPE OUT 端子に出力されません。これは出力と入力にループができて故障するのを防ぐためです。
- リスニングモードが「Pure Audio」のときは、ビデオ回路の電源がオフになるため映像が出力されません。録画するときは、他のリスニングモードを選んでください。

再生しながら録画する

現在再生中の音楽や映画を録画します。

1 入力切換ボタンを押して録画する機器（再生側）を選ぶ

2 録画する機器（録画側）の準備をする

- 録画する機器を録画待機状態にします。
- 録音レベルの調整は録画機器で行ってください。
- 録画のしかたについては、録画機器の取扱説明書をご覧ください。

3 録画を始める

手順 **1** で選んだ再生機器を再生します。

異なるソースの音楽と映像を録音･録画する

あるソースの音を別のソースの映像に加えて、オリジナルビデオが作成できます。以下の手順は、CD 端子に接続した CD プレーヤーの音声と AUX INPUT VIDEO 端子に接続したビデオカメラの映像を VCR/DVR OUT 端子に接続したビデオデッキで録音･録画する例です。

1 録画する機器（再生側）の準備をする

例：AUX INPUT VIDEO 端子に接続したビデオカメラと CD IN 端子に接続した CD プレーヤーを準備する

2 VCR/DVR OUT 端子に接続したビデオデッキにテープをセットする

3 入力切換ボタンの「AUX」を押す

4 入力切換ボタンの「CD」を押す

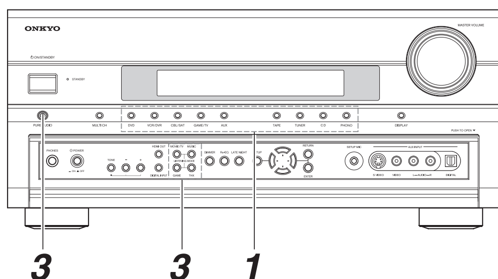
音声出力は CD に変わりますが、映像出力は手順 **3** で選んだ AUX のまま変わりません。VCR/DVR OUT 端子に接続したビデオデッキで録画を開始し、AUX INPUT VIDEO 端子に接続したビデオカメラと CD プレーヤーの再生を始めます。映像はビデオカメラから録画し、音声は CD プレーヤーから録音されます。

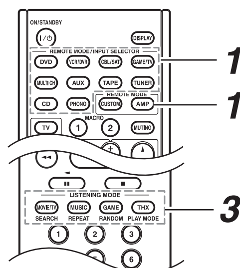

ご注意

- この方式で録音できるのは TUNER、TAPE、CD、PHONO 端子に接続した機器の音声のみです。

映画・音楽を鑑賞する（リスニングモード編）

リスニングモードを選ぶ





本体のボタンで選ぶ

1

DVD　VCR/DVR　CBL/SAT
GAME/TV　AUX　TAPE
TUNER　CD　PHONO

入力切換ボタンを押して、再生する機器を選ぶ

2

選んだ機器を再生する

3

PURE AUDIO
MOVIE/TV　MUSIC
LISTENING MODE
GAME　THX

PURE AUDIO（ピュア オーディオ）ボタン、MOVIE/TV（ムービー テレビ）ボタン、MUSIC（ミュージック）ボタン、GAME（ゲーム）ボタン、または THX ボタンでリスニングモードを選ぶ

PURE AUDIO（ピュア オーディオ）：リスニングモードを「Pure Audio（ピュア オーディオ）」に切り換えます。
Pure Audio ボタンが点灯します。
このモードでは、表示部が消灯します。
また、HDMI OUT 端子以外のビデオ出力から、映像が出なくなります。
もう 1 度押すと、1 つ前のリスニングモードに戻ります。

MOVIE/TV（ムービー テレビ）：映画やテレビを楽しむのに適したリスニングモードに切り換えます。

MUSIC（ミュージック）：音楽を楽しむのに適したリスニングモードに切り換えます。

GAME（ゲーム）：ゲームを楽しむのに適したリスニングモードに切り換えます。

THX：THX のリスニングモードに切り換えます。

リモコンで選ぶ

1

DVD　VCR/DVR
CBL/SAT　GAME/TV
AUX　TAPE
TUNER　CD
PHONO
AMP

INPUT SELECTOR（インプット セレクター）ボタンを押して再生する機器を選んでから AMP（アンプ）ボタンを押す

2

選んだ機器を再生する

3

MOVIE/TV　MUSIC
GAME　THX

MOVIE/TV（ムービー テレビ）ボタン、MUSIC（ミュージック）ボタン、GAME（ゲーム）ボタン、または THX ボタンでリスニングモードを選ぶ

MOVIE/TV（ムービー テレビ）：映画やテレビを楽しむのに適したリスニングモードに切り換えます。

MUSIC（ミュージック）：音楽を楽しむのに適したリスニングモードに切り換えます。

GAME（ゲーム）：ゲームを楽しむのに適したリスニングモードに切り換えます。

THX：THX のリスニングモードに切り換えます。

入力信号の種類と対応するリスニングモード

Analog（アナログ）ソースと PCM ソース

●：選択することができます。

入力信号の種類とフォーマット	Analog/PCM 32～96kHz*1	Analog/PCM 176.4/192kHz*2	マルチチャンネルアナログ	マルチチャンネル PCM 32～96kHz*1 マルチチャンネル	マルチチャンネル PCM 32～96kHz*1 2ch	マルチチャンネル PCM 32～96kHz*1 モノラル / マルチプレックス	マルチチャンネル PCM 176.4/192kHz*2 マルチチャンネル	マルチチャンネル PCM 176.4/192kHz*2 2ch	マルチチャンネル PCM 176.4/192kHz*2 モノラル / マルチプレックス
主なソース / リスニングモード	CD、TV、ラジオ		DVD	DVD			DVD		
Pure Audio	●	●	●	●	●	●	●	●	●
Direct	●	●	●	●	●	●	●	●	●
Stereo	●	●		●	●	●	●	●	●
Mono	●			●	●	●			
Multichannel			●	●			●		
Neo:6				●*4					
Dolby PLII Movie/ Dolby PLIIx Movie*3	●			●*4	●				
Dolby PLII Music/ Dolby PLIIx Music*3	●			●*4	●				
Dolby PLII Game/ Dolby PLIIx Game*3	●				●				
Dolby EX				●*4					
Neo:6 Cinema	●				●				
Neo:6 Music	●				●				
THX Cinema/Music/Games*5				●					
Dolby PLII/Dolby PLIIx Movie +THX Cinema*5	●*3			●*4	●*3				
Dolby PLII/Dolby PLIIx Music +THX Music*5	●*3			●*4	●*3				
Dolby PLII/Dolby PLIIx Games +THX Games*5	●*3				●*3				
Neo:6 Cinema/ Music +THX Cinema/ Music*5	●			●*4	●				
PLII Game +THX Ultra2 Cinema	●				●				
THX Surround EX				●*4					
THX Ultra2 Cinema/Music/Games				●*4					
Neo:6 +THX Games				●*4					
Mono Movie*5*6	●			●	●	●			
Orchestra*5*6	●			●	●	●			
Unplugged*5*6	●			●	●	●			
Studio-Mix*5*6	●			●	●	●			
TV Logic*5*6	●			●	●	●			
All Ch Stereo	●			●	●	●			
Full Mono	●			●	●	●			
T-D*6	●			●	●	●			

*1 32/44.1/48/88.2/96kHz
*2 マルチチャンネルの 176.4/192kHz PCM 信号は、HDMI 接続からのみ出力します。
*3 サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は、Dolby PLII になります。
*4 ソースによっては、選べないことがあります。
*5 サラウンドスピーカーを接続していない場合は、選べません。
*6 88.2 kHz、96 kHz の PCM は、それぞれ 44.1kHz、48kHz で処理されます。

サラウンドバックスピーカーを 1 つ以上接続しているときに選べます。（6.1 または 7.1 チャンネル再生時）

左右サラウンドバックスピーカーを接続しているときだけ選べます。（7.1 チャンネル再生時）

!ヒント

- 入力信号の種類は、DISPLAY（ディスプレイ）ボタンを押して表示部で確認することができます。
- マルチプレックス（多重音声）の場合は 77 ページの多重音声の設定で主音声または副音声を選択します。

ドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラス

●：選択することができます。

入力信号の種類とフォーマット	ドルビーデジタル			ドルビーデジタルプラス		
	マルチチャンネル	2ch	モノラル / マルチプレックス	マルチチャンネル	2ch	モノラル / マルチプレックス
主なソース / リスニングモード	DVD、DTV など			ブルーレイ、HD DVD		
Pure Audio	●	●	●	●	●	●
Direct	●	●	●	●	●	●
Stereo	●	●	●	●	●	●
Mono	●	●	●	●	●	●
Neo:6	●*3			●*3		
Dolby Digital	●					
Dolby Digital Plus				●*1		
Dolby PLII Movie/ Dolby PLIIx Movie*2	●*3	●		●*3	●	
Dolby PLII Music/ Dolby PLIIx Music*2	●*3	●		●*3	●	
Dolby PLII Game/ Dolby PLIIx Game*2		●			●	
Dolby EX	●*3			●*3		
Neo:6 Cinema		●			●	
Neo:6 Music		●			●	
THX Cinema/Music/Games*4	●			●		
Dolby PLII/Dolby PLIIx Movie +THX Cinema*4	●*3	●*2		●*3	●*2	
Dolby PLII/Dolby PLIIx Music +THX Music*4	●*3	●*2		●*3	●*2	
Dolby PLII/Dolby PLIIx Games +THX Games*4		●*2			●*2	
Neo:6 Cinema/ Music +THX Cinema/ Music*4	●*3	●		●*3	●	
PLII Game +THX Ultra2 Cinema		●			●	
THX Surround EX	●*3			●*3		
THX Ultra2 Cinema/Music/Games	●*3			●*3		
Neo:6 +THX Games	●*3			●*3		
Mono Movie*4	●	●	●	●	●	●
Orchestra*4	●	●	●	●	●	●
Unplugged*4	●	●	●	●	●	●
Studio-Mix*4	●	●	●	●	●	●
TV Logic*4	●	●	●	●	●	●
All Ch Stereo	●	●	●	●	●	●
Full Mono	●	●	●	●	●	●
T-D	●	●	●	●	●	●

*1 サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は、入力信号によっては、Dolby Digital が代わりに使用されます。
*2 サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は、Dolby PLII になります。
*3 ソースによっては、選べないことがあります。
*4 サラウンドスピーカーを接続していない場合は、選べません。

サラウンドバックスピーカーを 1 つ以上接続しているときに選べます。（6.1 または 7.1 チャンネル再生時）

左右サラウンドバックスピーカーを接続しているときだけ選べます。（7.1 チャンネル再生時）

ご注意 HD DVD、ブルーレイディスクを再生する場合、ディスクによっては再生中に異音が発生する場合があります。これは音声フォーマットが再生中に切り換わることが原因の 1 つと考えられますが、故障ではありません。

!ヒント
- 入力信号の種類は、DISPLAY（ディスプレイ）ボタンを押して表示部で確認することができます。
- マルチプレックス（多重音声）の場合は 77 ページの多重音声の設定で主音声または副音声を選択します。

DTS ソース

●：選択することができます。

入力信号の種類とフォーマット	DTS、DTS96/24			DTS-ES Discrete/Matrix
	マルチチャンネル	2ch	モノラル	
主なソース／リスニングモード	CD、DVD など			CD、DVD など
Pure Audio	●	●	●	●
Direct	●	●	●	●
Stereo	●	●	●	●
Mono	●	●	●	●
DTS, DTS 96/24	●			●
DTS-ES Discrete/Matrix				●*1
Neo:6	●*3			
Dolby PLII Movie/ Dolby PLIIx Movie*2	●*3	●		
Dolby PLII Music/ Dolby PLIIx Music*2	●*3	●		
Dolby PLII Game/ Dolby PLIIx Game*2		●		
Dolby EX	●*3			
Neo:6 Cinema		●		
Neo:6 Music		●		
THX Cinema/Music/Games*4	●			●
Dolby PLII/Dolby PLIIx Movie +THX Cinema*4	●*3	●*2		
Dolby PLII/Dolby PLIIx Music +THX Music*4	●*3	●*2		
Dolby PLII/Dolby PLIIx Games +THX Games*4		●*2		
Neo:6 Cinema/ Music +THX Cinema/ Music*4	●*3	●		
PLII Game +THX Ultra2 Cinema		●		
THX Surround EX	●*3			
THX Ultra2 Cinema/Music/Games	●*3			
Neo:6 +THX Games	●*3			
Mono Movie*4*5	●	●	●	●
Orchestra*4*5	●	●	●	●
Unplugged*4*5	●	●	●	●
Studio-Mix*4*5	●	●	●	●
TV Logic*4*5	●	●	●	●
All Ch Stereo	●	●	●	●
Full Mono	●	●	●	●
T-D*5	●	●	●	●

*1 サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は、DTS になります 。
*2 サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は、Dolby PLII になります。
*3 ソースによっては、選べないことがあります。
*4 サラウンドスピーカーを接続していない場合は、選べません。
*5 DTS 96/24 は、DTS で処理されます。

サラウンドバックスピーカーを 1 つ以上接続しているときに選べます。（6.1 または 7.1 チャンネル再生時）

左右サラウンドバックスピーカーを接続しているときだけ選べます。（7.1 チャンネル再生時）

!ヒント

- 入力信号の種類は、DISPLAY（ディスプレイ）ボタンを押して表示部で確認することができます。

TrueHD ソース

●：選択することができます。

入力信号の種類とフォーマット	TrueHD			TrueHD 192kHz		
	マルチチャンネル	2ch	モノラル / マルチプレックス	マルチチャンネル	2ch	モノラル / マルチプレックス
主なソース ／ リスニングモード	ブルーレイ、HD DVD			ブルーレイ、HD DVD		
Pure Audio	●	●	●	●	●	●
Direct	●	●	●	●	●	●
Stereo	●	●	●	●	●	●
Mono	●	●	●			
True HD	●			●		
Neo:6	●*2					
Dolby PLII Movie/ Dolby PLIIx Movie*1	●*2	●				
Dolby PLII Music/ Dolby PLIIx Music*1	●*2	●				
Dolby PLII Game/ Dolby PLIIx Game*1		●				
Dolby EX	●*2					
Neo:6 Cinema		●				
Neo:6 Music		●				
THX Cinema/Music/Games*3	●					
Dolby PLII/Dolby PLIIx Movie +THX Cinema*3	●*2	●*1				
Dolby PLII/Dolby PLIIx Music +THX Music*3	●*2	●*1				
Dolby PLII/Dolby PLIIx Games +THX Games*3		●*1				
Neo:6 Cinema/ Music +THX Cinema/ Music*3	●*2	●				
PLII Game +THX Ultra2 Cinema		●				
THX Surround EX	●*2					
THX Ultra2 Cinema/Music/Games	●*2					
Neo:6 +THX Games	●*2					
Mono Movie*3	●	●	●			
Orchestra*3	●	●	●			
Unplugged*3	●	●	●			
Studio-Mix*3	●	●	●			
TV Logic*3	●	●	●			
All Ch Stereo	●	●	●			
Full Mono	●	●	●			
T-D	●	●	●			

*1 サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は、Dolby PLII になります。
*2 ソースによっては、選べないことがあります。
*3 サラウンドスピーカーを接続していない場合は、選べません。

サラウンドバックスピーカーを 1 つ以上接続しているときに選べます。（6.1 または 7.1 チャンネル再生時）

左右サラウンドバックスピーカーを接続しているときだけ選べます。（7.1 チャンネル再生時）



HD DVD、ブルーレイディスクを再生する場合、ディスクによっては再生中に異音が発生する場合があります。これは音声フォーマットが再生中に切り換わることが原因の 1 つと考えられますが、故障ではありません。

!ヒント
- 入力信号の種類は、DISPLAY（ディスプレイ）ボタンを押して表示部で確認することができます。
- マルチプレックス（多重音声）の場合は 77 ページの多重音声の設定で主音声または副音声を選択します。

DTS-HD ソース

●：選択することができます。

入力信号の種類とフォーマット	DTS-HD High Resolution			DTS-HD Master Audio			DTS-HD Master Audio 192kHz		
	マルチチャンネル	2ch	モノラル	マルチチャンネル	2ch	モノラル	マルチチャンネル	2ch	モノラル
主なソース / リスニングモード	ブルーレイ、HD DVD			ブルーレイ、HD DVD			ブルーレイ、HD DVD		
Pure Audio	●	●	●	●	●	●	●	●	●
Direct	●	●	●	●	●	●	●	●	●
Stereo	●	●	●	●	●	●	●	●	●
Mono	●	●	●	●	●	●			
DTS-HD High Resolution	●								
DTS-HD Master Audio				●			●		
Neo:6	●*2			●*2					
Dolby PLII Movie/ Dolby PLIIx Movie*1	●*2	●		●*2	●				
Dolby PLII Music/ Dolby PLIIx Music*1	●*2	●		●*2	●				
Dolby PLII Game/ Dolby PLIIx Game*1		●			●				
Dolby Digital EX/Dolby EX	●*2			●*2					
Neo:6 Cinema		●			●				
Neo:6 Music		●			●				
THX Cinema/Music/Games*3	●			●					
Dolby PLII/Dolby PLIIx Movie +THX Cinema*3	●*2	●*1		●*2	●*1				
Dolby PLII/Dolby PLIIx Music +THX Music*3	●*2	●*1		●*2	●*1				
Dolby PLII/Dolby PLIIx Games +THX Games*3		●*1			●*1				
Neo:6 Cinema/ Music +THX Cinema/ Music*3	●*2	●		●*2	●				
PLII Game +THX Ultra2 Cinema		●			●				
THX Surround EX	●*2			●*2					
THX Ultra2 Cinema/Music/Games	●*2			●*2					
Neo:6 +THX Games	●*2			●*2					
Mono Movie*3	●	●	●	●	●	●			
Orchestra*3	●	●	●	●	●	●			
Unplugged*3	●	●	●	●	●	●			
Studio-Mix*3	●	●	●	●	●	●			
TV Logic*3	●	●	●	●	●	●			
All Ch Stereo	●	●	●	●	●	●			
Full Mono	●	●	●	●	●	●			
T-D	●	●	●	●	●	●			

*1 サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は、Dolby PLII になります。
*2 ソースによっては、選べないことがあります。
*3 サラウンドスピーカーを接続していない場合は、選べません。

サラウンドバックスピーカーを 1 つ以上接続しているときに選べます。（6.1 または 7.1 チャンネル再生時）

左右サラウンドバックスピーカーを接続しているときだけ選べます。（7.1 チャンネル再生時）

ご注意 HD DVD、ブルーレイディスクを再生する場合、ディスクによっては再生中に異音が発生する場合があります。これは音声フォーマットが再生中に切り換わることが原因の 1 つと考えられますが、故障ではありません。

!ヒント
- 入力信号の種類は、DISPLAY（ディスプレイ）ボタンを押して表示部で確認することができます。
- マルチプレックス（多重音声）の場合は 77 ページの多重音声の設定で主音声または副音声を選択します。

DTS Express、DSD ソース

●：選択することができます。

入力信号の種類とフォーマット	DTS Express			DSD*1	
	マルチチャンネル	2ch	モノラル	マルチチャンネル（3／2.1）	2ch
主なソース / リスニングモード	ブルーレイ、HD DVD			SACD	
Pure Audio	●	●	●	●	●
Direct	●	●	●	●	●
Stereo	●	●	●	●	●
Mono	●	●	●	●	●
DTS Express	●				
DSD				●	
Neo:6	●*3			●	
Dolby PLII Movie/ Dolby PLIIx Movie*2	●*3	●		●	●
Dolby PLII Music/ Dolby PLIIx Music*2	●*3	●		●	●
Dolby PLII Game/ Dolby PLIIx Game*2		●			●
Dolby EX	●*3			●	
Neo:6 Cinema		●			●
Neo:6 Music		●			●
THX Cinema/Music/Games*4	●			●	
Dolby PLII/Dolby PLIIx Movie +THX Cinema*4	●*3	●*2		●	●*2
Dolby PLII/Dolby PLIIx Music +THX Music*4	●*3	●*2		●	●*2
Dolby PLII/Dolby PLIIx Games +THX Games*4		●*2			●*2
Neo:6 Cinema/ Music +THX Cinema/ Music*4	●*3	●		●	●
PLII Game +THX Ultra2 Cinema		●			●
THX Surround EX	●*3			●	
THX Ultra2 Cinema/Music/Games	●*3			●	
Neo:6 +THX Games	●*3			●	
Mono Movie*4	●	●	●	●	●
Orchestra*4	●	●	●	●	●
Unplugged*4	●	●	●	●	●
Studio-Mix*4	●	●	●	●	●
TV Logic*4	●	●	●	●	●
All Ch Stereo	●	●	●	●	●
Full Mono	●	●	●	●	●
T-D	●	●	●	●	●

*1 DSD 信号は、PCM44.1kHz に変換されてから処理されます。
*2 サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は、Dolby PLII になります。
*3 ソースによっては、選べないことがあります。
*4 サラウンドスピーカーを接続していない場合は、選べません。

サラウンドバックスピーカーを 1 つ以上接続しているときに選べます。（6.1 または 7.1 チャンネル再生時）

左右サラウンドバックスピーカーを接続しているときだけ選べます。（7.1 チャンネル再生時）

ご注意 HD DVD、ブルーレイディスクを再生する場合、ディスクによっては再生中に異音が発生する場合があります。これは音声フォーマットが再生中に切り換わることが原因の 1 つと考えられますが、故障ではありません。

!ヒント
- お手持ちの SACD プレーヤーで PCM 出力か DSD 出力かを選択できるときは、PCM 出力を選ぶことでより良い音質でお楽しみいただける場合があります。
- 入力信号の種類は、DISPLAY ボタンを押して表示部で確認することができます。

AAC ソース

●：選択することができます。

入力信号の種類とフォーマット	AAC		
	マルチチャンネル	2ch	モノラル / マルチプレックス
主なソース / リスニングモード	地上 /BS/110° CS デジタル		
Pure Audio	●	●	●
Direct	●	●	●
Stereo	●	●	●
Mono	●	●	●
AAC	●		
Neo:6	●*2		
Dolby PLII Movie/ Dolby PLIIx Movie*1	●*2	●	
Dolby PLII Music/ Dolby PLIIx Music*1	●*2	●	
Dolby PLII Game/ Dolby PLIIx Game*1		●	
Dolby EX	●*2		
Neo:6 Cinema		●	
Neo:6 Music		●	
THX Cinema/Music/Games*3	●		
Dolby PLII/Dolby PLIIx Movie +THX Cinema*3	●*2	●*1	
Dolby PLII/Dolby PLIIx Music +THX Music*3	●*2	●*1	
Dolby PLII/Dolby PLIIx Games +THX Games*3		●*1	
Neo:6 Cinema/ Music +THX Cinema/ Music*3	●*2	●	
PLII Game +THX Ultra2 Cinema		●	
THX Surround EX	●*2		
THX Ultra2 Cinema/Music/Games	●*2		
Neo:6 +THX Games	●*2		
Mono Movie*3	●	●	●
Orchestra*3	●	●	●
Unplugged*3	●	●	●
Studio-Mix*3	●	●	●
TV Logic*3	●	●	●
All Ch Stereo	●	●	●
Full Mono	●	●	●
T-D	●	●	●

*1 サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は、Dolby PLII になります。
*2 ソースによっては、選べないことがあります。
*3 サラウンドスピーカーを接続していない場合は、選べません。

サラウンドバックスピーカーを 1 つ以上接続しているときに選べます。（6.1 または 7.1 チャンネル再生時）

左右サラウンドバックスピーカーを接続しているときだけ選べます。（7.1 チャンネル再生時）

!ヒント

- 入力信号の種類は、DISPLAY（ディスプレイ）ボタンを押して表示部で確認することができます。
- マルチプレックス（多重音声）の場合は 77 ページの多重音声の設定で主音声または副音声を選択します。

リスニングモードの種類について

本機のリスニングモードを使うと、お部屋にいながら映画館やコンサートホールなどの臨場感あふれる雰囲気を味わって頂けます。本機には以下のリスニングモードがあります。

ピュア　オーディオ
Pure Audio

ボタン：PURE AUDIO　MUSIC

ダイレクト
Direct モードに加え、表示部を消してビデオ回路の電源を切り、ノイズの発生源をできるだけ最小限にすることで、より原音に忠実な音楽再生を行います。（HDMI 以外のビデオ回路の電源を切るため、HDMI 以外の映像が出なくなります。）

ダイレクト
Direct

ボタン：MUSIC

もともとの音源に手を加えない、ピュアな音をお楽しみいただけます。入力ソースのチャンネルのまま音声を出力します。

ステレオ
Stereo

ボタン：MUSIC

左右フロントスピーカーから出力されます。

モノ
Mono

ボタン：MOVIE/TV

モノラル信号で収録された古い映画を再生したり、2 言語が記録されているソースを左右のチャンネルを独立して再生するモードです。DVD などに記録された音声多重のサウンドトラックに適しています。

マルチチャンネル
Multich

ボタン：MOVIE/TV　MUSIC　GAME

アナログのマルチチャンネル接続や HDMI 接続をしているときに使用できるリスニングモードです。

ドルビー　プロ　ロジック
Dolby Pro Logic IIx

2 チャンネルで収録された音楽や映画を 7.1 チャンネルで再生できます。
明瞭なサウンドはそのままに、かってないほど自然でなめらかなサラウンド体験が得られます。CD や映画に加えて、ゲームソフトの再生もドラマチックな空間演出、鮮明な音像定位などが得られます。
5.1 チャンネルで収録された音楽や映画を 7.1 チャンネルで再生できます。

ムービー
- Dolby PLIIx Movie

ボタン：MOVIE/TV

VHS や DVD ビデオ、またはテレビ番組再生時に楽しむことができます。

ミュージック
- Dolby PLIIx Music

ボタン：MUSIC

CD などのステレオ音楽や、ライブを記録した DVD に適しています。

ゲーム
- Dolby PLIIx Game

ボタン：GAME

ゲームディスクを楽しむときに使用できます。

ドルビー　プロ　ロジック
Dolby Pro Logic II

サラウンドバックスピーカーを接続していないときは、Dolby Pro Logic IIx の代わりに、このリスニングモードになります。
2 チャンネルで収録された音楽や映画を 5.1 チャンネルで再生できます。

ドルビー　デジタル
Dolby Digital

ボタン：MOVIE/TV　MUSIC　GAME

劇場やコンサートホールさながらの臨場感あふれるサウンドが体験できるサラウンドモードです。ドルビーデジタルロゴのついた DVD、LD などの再生時に楽しむことができます。

ドルビー
5.1 チャンネルソース /Dolby EX

ボタン：MOVIE/TV　MUSIC　GAME

5.1 チャンネルで収録された音楽や映画を 6.1/7.1 チャンネルで再生できます。
5.1 チャンネルに背面のサラウンドチャンネルを増やし、6.1/7.1 チャンネルにすることで、より空間表現力を高め、360 度の回転や頭上を通過するような移動音効果をリアルに体感できます。

ドルビー　デジタル　プラス
Dolby Digital Plus

ボタン：MOVIE/TV　MUSIC　GAME

HDTV でのブルーレイディスク、HD DVD ディスクの再生に適したリスニングモードです。ドルビーの最新マルチチャンネルフォーマットを採用し、48kHz/24 ビットのサンプリング周波数／解像度で 7.1 チャンネル再生までに対応しています。

ドルビー
Dolby TrueHD

ボタン：MOVIE/TV　MUSIC　GAME

ドルビーの最新フォーマットによりブルーレイディスク、HD DVD ディスクのストレージスペースを充分に利用したリスニングモードです。最大で 7.1 ディスクリートチャンネル、48/96kHz で音質劣化の少ないデジタル・オーディオ特性を発揮します。
本機は 5.1 チャンネル再生では 192kHz のサンプリング周波数まで対応しています（☞ 61 ページ）。

- **5.1 チャンネルソース + Dolby PLIIx Music**

ボタン：MUSIC

5.1 チャンネルで収録された音楽や映画を 6.1/7.1 チャンネルで再生できます。

- **5.1 チャンネルソース + Dolby PLIIx Movie**

ボタン：MOVIE/TV

5.1 チャンネルで収録された音楽や映画を 7.1 チャンネルで再生できます。

DTS

ボタン：MOVIE/TV　MUSIC　GAME

完全に分離させた 5.1 チャンネルで膨大となる音声データを、可能な限り原音に近い状態で圧縮したデジタルデータです。再生するには DTS 出力が可能な DVD プレーヤーが必要です。DTS ロゴのついた CD、DVD、LD などを再生時に楽しむことができます。

DTS 96/24

ボタン：MOVIE/TV MUSIC GAME

DTS 96/24 ロゴのついた CD、DVD、LD などに使用できるリスニングモードです。96kHz/24 ビットのサンプリング周波数 / 解像度できめ細やかな音声をお楽しみいただけます。

DTS-ES Discrete（ディスクリート）

ボタン：MOVIE/TV MUSIC GAME

DTS にサラウンドバックを追加した、6.1/7.1 チャンネルサラウンドです。
追加されたサラウンドバックチャンネルを含めてすべてのチャンネルが完全に独立してデジタル記録されているため、立体感、移動感などがより鮮明に再現できます。DTS-ES ロゴのついた CD、DVD、LD などを再生時に楽しむことができます。

DTS-ES Matrix（マトリックス）

ボタン：MOVIE/TV MUSIC GAME

DTS-ES 収録ソフトを 6.1/7.1 チャンネル再生します。
DTS-ES 収録ソフトにはサラウンドバックチャンネルの情報も組み込まれているため、それぞれのチャンネルを 6.1/7.1 チャンネルに復元して再生します。
DTS-ES ロゴのついた CD、DVD、LD などを再生時に楽しむことができます。

DTS Neo（ネオ）：6

ボタン：MOVIE/TV MUSIC GAME

2 チャンネルで収録されたソースを最大 7.1 チャンネルで再生するモードです。すべてのチャンネルに広い周波数帯域が確保され、チャンネル間の独立性も優れています。
映画に最適な Cinema（シネマ）モードと音楽再生に最適な Music（ミュージック）モードが選択できます。

- Neo：6 Cinema（シネマ）
  リアルで移動感にあふれたサラウンドが再現され、2 チャンネルの VHS や DVD ビデオ、テレビ番組に適しています。
- Neo：6 Music（ミュージック）
  サラウンドチャンネルを使用することで通常の 2 チャンネル出力では得られない自然な音場を生み出します。2 チャンネルで収録された CD などに適しています。

5.1 チャンネルソース + Neo（ネオ）：6

ボタン：MOVIE/TV MUSIC GAME

5.1 チャンネルで収録された音楽や映画を 6.1/7.1 チャンネルで再生できます。

DTS-HD High（ハイ） Resolution（レゾリューション） Audio（オーディオ）

ボタン：MOVIE/TV MUSIC GAME

HDTV でのブルーレイディスク、HD DVD ディスクの再生に適したリスニングモードです。DTS の最新マルチチャンネルフォーマットを採用し、96kHz/24 ビットのサンプリング周波数／解像度で 7.1 チャンネル再生までに対応しています。

DTS-HD Master（マスター） Audio（オーディオ）

ボタン：MOVIE/TV MUSIC GAME

DTS の最新フォーマットによりブルーレイディスク、HD DVD ディスクのストレージスペースを充分に利用したリスニングモードです。最大で 7.1 ディスクリートチャンネル、96kHz/24 ビットのサンプリング周波数／解像度で音質劣化の少ないオーディオ特性を発揮します。
本機は 7.1 チャンネル再生では 96kHz まで対応し、5.1 チャンネル再生では 192kHz まで対応しています。

DTS Express（エクスプレス）

ボタン：MOVIE/TV MUSIC GAME

最大 5.1ch、48kHz のロービットレート音声です。HD DVD のサブオーディオ、ブルーレイディスクのセカンダリーオーディオなどに収録される他、放送コンテンツやメディアサーバーなどの応用が想定されています。

DSD

ボタン：MOVIE/TV MUSIC GAME

Direct Stream Digital(ダイレクトストリームデジタル) の略でスーパーオーディオ CD に音声データを収録するときに使われます。
スーパーオーディオ CD のマルチチャンネル再生に使用します。

AAC

ボタン：MOVIE/TV MUSIC GAME

MPEG（エムペグ）-2 AAC 方式で圧縮されたデジタルデータで、最大 5.1 チャンネルのサラウンド音声を提供します。
地上デジタル、BS/CS デジタル放送などの AAC ソースを再生するために使用します。

THX

ルーカスフィルム (Lucasfilm) 社が提唱する劇場用音響の品質規格。映画制作者のニュアンスを劇場で忠実に伝えきるために、レベルやノイズ / 残響音 / 音響機材 / スピーカーの設置位置など厳格な品質基準が設けられています。全世界で 5,000 を超える劇場が認可され、音響品質の高い映画館の代名詞とさえ言われます。
THX モードは、ホームシアター環境での再生のために、音質上・空間上のサウンドトラック特性を丁寧に最適化します。マトリックスエンコードされた 2 チャンネルソースやマルチチャネルソースで使用することができます。サラウンドバックの音声は、ソースや選択するリスニングモードによって異なります。

聴きたいリスニングモードが選べない

- デジタル接続はしましたか?または HDMI 接続はしましたか?（☞ 23 ～ 34 ページ）
  ドルビーデジタルや DTS のリスニングモードを楽しむときは、デジタル接続をする必要があります。
- 再生機器側のデジタル出力設定は、正しいですか?
  ドルビーデジタルや DTS ロゴのついた DVD の本編を再生中に、本機の PCM 表示が点灯していたら、再生機器側のデジタル出力設定が PCM になっている場合があります。再生機器側で他の信号も出力するように設定してください。

- **THX Cinema（シネマ）**

ボタン：MOVIE/TV　THX

THX Cinema モードは、映画館のような広い場所で再生することを想定して録音編集された劇場用映画などのサウンドトラックをホームシアター環境での再生のために補正します。このモードでは、THX Loudness Plus が劇場レベルに設定され、Re-EQ、ティンバー・マッチング（Timbre Matching）、アダプティブ・デコリレーション（Adaptive Decorrelation）がアクティブになります。

- **THX Music（ミュージック）**

ボタン：MUSIC　THX

THX Music モードは、主として映画よりも明らかに高レベルにマスタリングされている音楽を聴くために調整されています。このモードでは、THX Loudness Plus が音楽再生のために設定され、ティンバー・マッチング（Timbre Matching）のみがアクティブになります。

- **THX Games（ゲーム）**

ボタン：GAME　THX

THX Games モードは、ゲームの音声を空間的に忠実に再生するためのモードで、多くの場合映画と同じミキシングがされますが、小規模な環境ためのモードです。THX Loudness Plus がゲームの音声のレベルに応じて設定され、ティンバー・マッチング（Timbre Matching）がアクティブになります。

- **THX Ultra2（ウルトラ） Cinema（シネマ）**

ボタン：MOVIE/TV　THX

5.1 チャンネルで収録された音楽や映画を 7.1 チャンネルで再生できます。再生するサラウンド成分を分析し、雰囲気や方向感を最適化するようサラウンドバックに振り分けます。横と後方の広がりと定位感をさらに高めます。

- **THX Ultra2（ウルトラ） Music（ミュージック）**

ボタン：MUSIC　THX

このモードは、5.1 チャンネルで収録された音楽ソースを 7.1 チャンネルで再生使用できるように設計されています。

- **THX Ultra2（ウルトラ） Games（ゲーム）**

ボタン：GAME　THX

このモードは、5.1 チャンネルで収録されたゲームソースを 6.1 チャンネルまたは 7.1 チャンネルで再生使用できるように設計されています。

- **THX Surround（サラウンド） EX**

ボタン：MOVIE/TV　THX

ドルビーラボラトリーズと THX 社で共同開発されたホームシアター用フォーマットです。ドルビーデジタル EX の技術で従来の左右フロント、センター、左右サラウンド、サブウーファーの各チャンネルに加えて、視聴者の背後に新たな音場を作り出し、総計 7.1 チャンネルとなります。

■ オンキヨー独自のリスニングモード

Mono（モノ） Movie（ムービー）

ボタン：MOVIE/TV

古い映画などモノラル信号の映画ソースを再生するのに適したモードです。センターチャンネルからはそのままの音声を、他のスピーカーからは適度に残響処理を施した音を出力します。
モノラルでも臨場感をお楽しみ頂けます。

Orchestra（オーケストラ）

ボタン：MUSIC

クラシックやオペラに適したモードです。
音声イメージが全体に広がるようなサラウンド感を強調。
大ホールで聴いているような自然な響きが楽しめます。

Unplugged（アンプラグド）

ボタン：MUSIC

アコースティックやボーカル、ジャズなどに適したモードです。フロントの音場イメージを重視することで、あたかもステージの前で聴いているような音場イメージをつくります。

Studio（スタジオ）-Mix（ミックス）

ボタン：MUSIC

ロック、ポピュラーミュージックなどに適したモードです。パワフルな音響イメージを再現した臨場感あふれるサウンドをお楽しみいただけます。

TV Logic（ロジック）

ボタン：MOVIE/TV

放送局のスタジオから放映されているテレビ放送に適したモードです。
局のスタジオにいるような臨場感を高めます。すべてのサラウンド音声を強調し、会話音声を明瞭にします。

All（オール） Ch（チャンネル） Stereo（ステレオ）

ボタン：MOVIE/TV　MUSIC　GAME

BGM として音楽をかけるときに便利なモードです。フロントだけでなく、サラウンドからもステレオの音声を再生し、ステレオイメージを作ります。

Full（フル） Mono（モノ）

ボタン：MOVIE/TV　MUSIC　GAME

すべてのスピーカーからモノラル音声で再生されます。どの場所にいても同様の音楽を聴くことができます。

T-D (Theater（シアター）-Dimensional（ディメンショナル）)

ボタン：MOVIE/TV　GAME

2 つ、あるいは 3 つのスピーカー環境でも、バーチャル 5.1ch サラウンドを楽しめます。残響の少ないリスニング環境で使用されるとより良い効果が得られます。

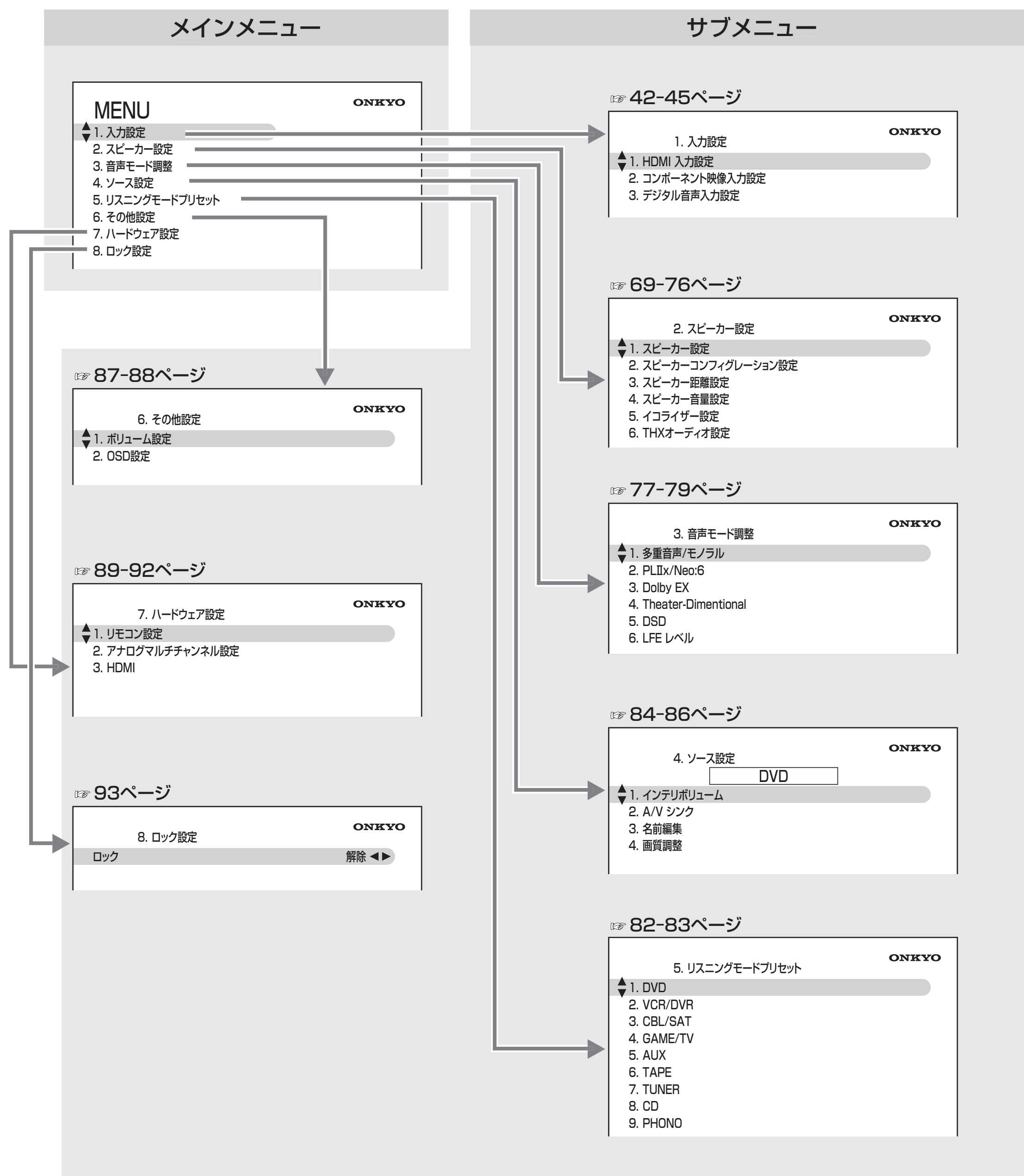
ご注意

- オンキヨー独自のリスニングモードでは、オンキヨーのオリジナル DSP で処理される前に一度ドルビー PLIIx または Neo:6 の処理が行われる場合があります。そのときは PLIIx あるいは Neo:6 の表示が点灯します。

設定する（応用編）

OSD マップ

OSD とは On Screen Display の略で、本機での設定や操作内容を接続したテレビなどのモニターに大きく表示して操作をしやすくする機能です。
音楽や映像をより楽しめるように、OSD セットアップメニューを使って、本機の設定を行うことができます。



スピーカーの設定をする

この中の多くのメニューは簡単スピーカー設定（☞ 48 ページ）で自動設定されています。簡単スピーカー設定の後に使用するスピーカーを変更した場合や手動で設定したい場合、簡単スピーカー設定で自動設定された内容を確認するときに使用します。
ヘッドホンを接続しているときは、設定できません。

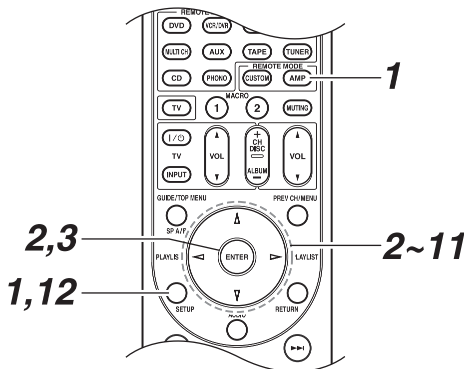
スピーカーインピーダンスの設定をする

スピーカーインピーダンスの設定をする（☞ 46 ページ）をご覧ください。

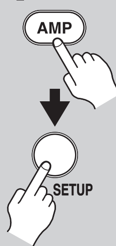
スピーカー環境の設定

簡単スピーカー設定（☞ 48 ページ）を行った場合は、自動で設定されています。
接続したスピーカーの「有 / 無」とクロスオーバー周波数を設定します。
クロスオーバー周波数は、各チャンネルの低音域を何 Hz からサブウーファーで出力するか設定しておくことができます。
サブウーファーを接続していないときには、フロントスピーカーが自動的に「フルレンジ」に設定され、他のチャンネルの低音域がフロントスピーカーから出力されます。
それぞれのスピーカーのクロスオーバー周波数は、**Full Band、40、50、60、70、80（THX）、90、100、120、150、200Hz** から選択できます。お手持ちのスピーカーの取扱説明書を参考に設定してください。

- THX 認定のスピーカーシステムを使用するときは、簡単スピーカー設定を行っていても、手動で「80Hz(THX)」に設定し直すことを THX は推奨しています。

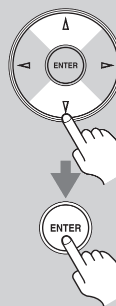


1 AMP ボタンを押してから SETUP ボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

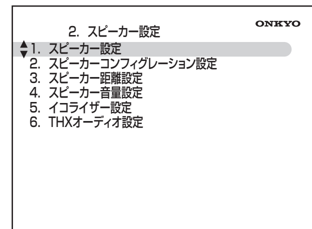


メインメニューが表示されないときは、TV に適切な外部入力接続がされていることを確認してください。

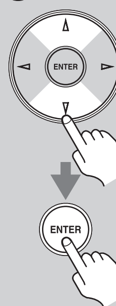
2 ▲/▼ ボタンを押して「2. スピーカー設定」を選び、ENTER ボタンを押す



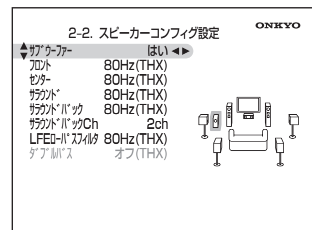
サブメニュー画面が表示されます。



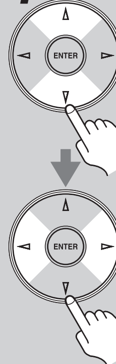
3 ▲/▼ ボタンを押して「2. スピーカーコンフィグレーション設定」を選び、ENTER ボタンを押す



設定画面が表示されます。

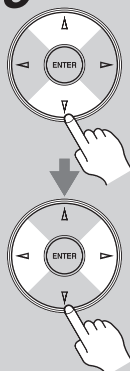


4 ▲/▼ ボタンを押して「サブウーファー」を選び、◄/► ボタンでサブウーファーの「はい / いいえ」を選ぶ



はい：サブウーファーを接続している場合
いいえ：サブウーファーを接続していない場合

5

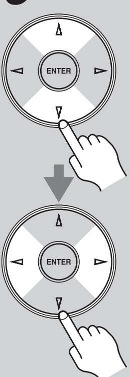


▲/▼ ボタンを押して「フロント」を選び、◄/► ボタンでフロントスピーカーのクロスオーバー周波数を選ぶ

ご注意

- 手順 **4** で「いいえ」を選択した場合は、「フルレンジ」に固定されます。

6



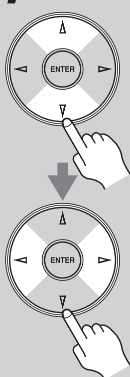
▲/▼ ボタンを押して「センター」を選び、◄/► ボタンでセンタースピーカーの設定をする

センタースピーカーを接続していない場合は「なし」を選んでください。

ご注意

- 手順 **5** で「フルレンジ」以外を選択した場合は、「フルレンジ」は選択できません。

7



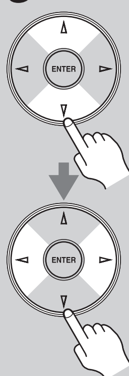
▲/▼ ボタンを押して「サラウンド」を選び、◄/► ボタンでサラウンドスピーカーの設定をする

左右サラウンドスピーカーを接続していない場合は「なし」を選んでください。

ご注意

- 手順 **5** で「フルレンジ」以外を選択した場合は、「フルレンジ」は選択できません。

8



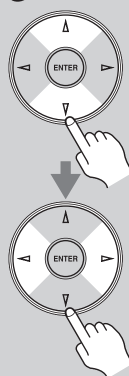
▲/▼ ボタンを押して「サラウンドバック」を選び、◄/► ボタンでサラウンドバックスピーカーの設定をする

サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は「なし」を選んでください。

ご注意

- 手順 **7** で「なし」を選択した場合は、この項目は選択できません。
- 手順 **7** で「フルレンジ」以外を選択した場合は、「フルレンジ」は選択できません。
- 「スピーカータイプ」設定を「バイアンプ」にしているときは、この項目は設定できません。

9



▲/▼ ボタンを押して「サラウンドバック Ch（チャンネル）」を選び、◄/► ボタンでサラウンドバックスピーカーの数を設定する

1ch（チャンネル）　：　接続したサラウンドバックスピーカーが 1 つの場合（SURR BACK L 端子に接続してください。）

2ch　：　接続したサラウンドバックスピーカーが 2 つの場合

ご注意

- 手順 **8** で「なし」を選択した場合は、この項目は設定できません。

⇨ 手順 10 に続く

LFE のローパスフィルター設定

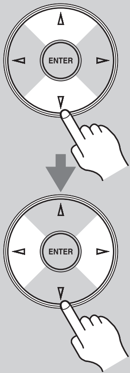
この項目は簡単スピーカー設定（☞ 48 ページ）では自動で設定されていません。

LFE（低域効果音）信号のローパスフィルターを設定します。ローパスフィルターを設定すると、その設定値よりも低い周波数成分だけを通過させ、不要なノイズを削除することができます。

80Hz（THX）、90Hz、100Hz、120Hz から選択できます。

- THX 認定のスピーカーシステムを使用するときは、80Hz（THX）を選択してください。

10



▲/▼ ボタンを押して「LFE ローパスフィルタ」を選び、◄/► ボタンで設定する

⇨手順 *11* に続く

ダブルバスの設定

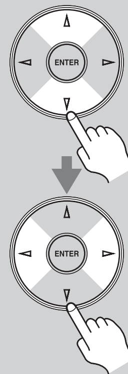
この項目は簡単スピーカー設定（☞ 48 ページ）では自動設定されていません。

この設定は、サブウーファーをさらに強調させることができます。

サブウーファーを「はい」にしていて、フロントスピーカーを「フルレンジ」に設定している場合のみ設定できます。

THX 認定のスピーカーシステムを使用するときは、オフ（THX）を選択してください。

11



▲/▼ ボタンを押して「ダブルバス」を選び、◄/► ボタンで設定する

オフ（THX）：
サブウーファーを強調しません。

オン：
サブウーファーを強調します。

12



SETUP（セットアップ） ボタンを押す

設定が終了したら、SETUP ボタンを押します。メニュー画面が消えます。

- メインメニュー画面に戻るには、RETURN（リターン） ボタンを押してください。

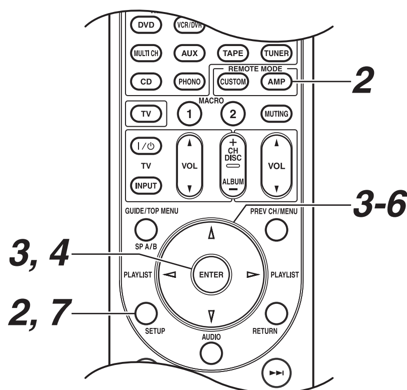
!ヒント

- 本体の SETUP（セットアップ） ボタン、▲/▼/◄/► ボタン、ENTER（エンター） ボタンでも操作することができます。

視聴位置からスピーカーまでの距離設定（スピーカーディスタンス）

簡単スピーカー設定（☞ 48 ページ）を行った場合は、自動で設定されています。

視聴位置からスピーカーまでの距離を設定します。
距離を設定することで、それぞれのスピーカーから視聴位置までの音の届く時間を一定にし、ホームシアターをより快適にお楽しみいただけます。



1
視聴位置から各々のスピーカーまでの距離を測って、メモに書き留めてください

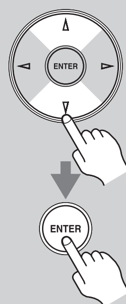
2
AMP（アンプ）ボタンを押してから SETUP（セットアップ）ボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

メインメニューが表示されないときは、TV に適切な外部入力接続がされていることを確認してください。

3
▲/▼ ボタンを押して「2. スピーカー設定」を選び、ENTER（エンター）ボタンを押す

サブメニュー画面が表示されます。

2. スピーカー設定　ONKYO
1. スピーカー設定
2. スピーカーコンフィグレーション設定
3. スピーカー距離設定
4. スピーカー音量設定
5. イコライザー設定
6. THXオーディオ設定

4


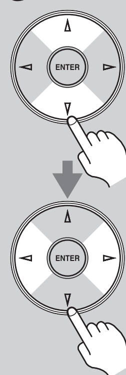
▲/▼ ボタンを押して「3. スピーカー距離設定」を選び、ENTER ボタンを押す

設定画面が表示されます。

2-3. スピーカー距離設定　ONKYO

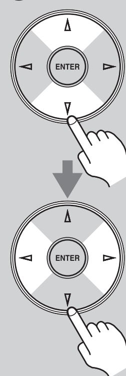
単位	メートル ◄►
左フロント	3. 60m
センター	3. 60m
右フロント	3. 60m
右サラウンド	2. 10m
右サラウンドバック	2. 10m
左サラウンドバック	2. 10m
左サラウンド	2. 10m
サブウーファー	3. 60m

ご注意
- 「2. スピーカーコンフィグレーション設定」で、「いいえ」または「なし」を選択したスピーカーは、選択できません。

5


▲/▼ ボタンを押して「単位」を選び、◄/► ボタンで設定する単位を選ぶ

メートル：距離をメートルで設定する。0.15 m単位で 0.15 mから 9 mの範囲で設定できます。
フィート：距離をフィートで設定する。0.5ft 単位で 0.5ft から 30ft の範囲で設定できます。

6


▲/▼ ボタンを押して「左フロント」を選び、◄/► ボタンで距離を設定する

左フロントスピーカーから視聴位置までの実際に近い数値に設定します。

この手順をくり返し、接続したすべてのスピーカーの距離を設定する

7 SETUP ボタンを押す



すべてのスピーカーの設定が終わったらSETUP ボタンを押します。メニュー画面が消えます。

- メインメニュー画面に戻るには、RETURN ボタンを押してください。

!ヒント

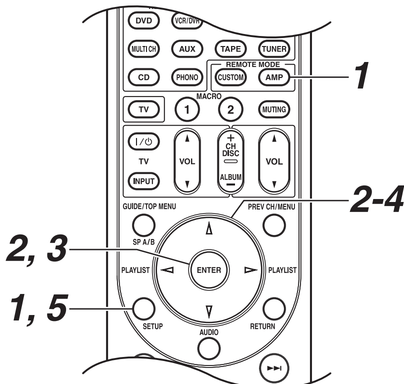
- 本体の SETUP ボタン、▲/▼/◄/► ボタン、ENTER ボタンでも操作することができます。

スピーカーの音量レベル調整（レベルキャリブレーション）

簡単スピーカー設定（☞ 48 ページ）を行った場合は、自動で設定されています。

各スピーカーからのテスト音の音量が同じに聴こえるように、それぞれのスピーカーの音量レベルを設定します。
スタンバイ状態にしても記憶しています。

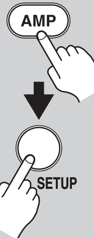
- ミューティング中やヘッドホンを接続しているときは、設定できません。



本機は THX 対応機種ですので、テスト音は標準レベルの 0dB（絶対値の場合は 82）で出力されます。

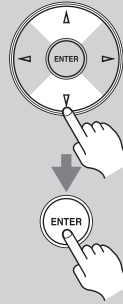
通常お聴きになっている音量が小さい場合は、突然大きな音になりますのでご注意ください。

1 AMP ボタンを押してから SETUP ボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

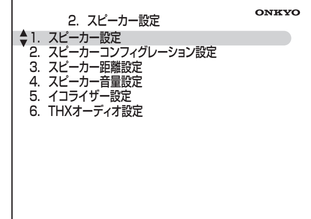


メインメニューが表示されないときは、TV に適切な外部入力接続がされていることを確認してください。

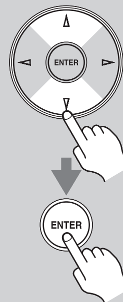
2 ▲/▼ ボタンを押して「2. スピーカー設定」を選び、ENTER ボタンを押す



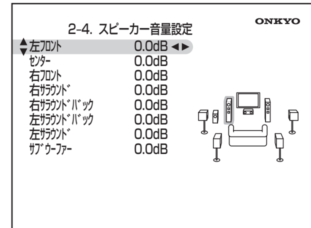
サブメニュー画面が表示されます。



3 ▲/▼ ボタンを押して「4. スピーカー音量設定」を選び、ENTER ボタンを押す



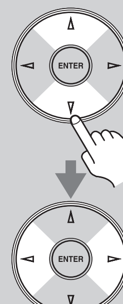
スピーカー音量設定画面が表示され、「ザー」というテスト音が左フロントスピーカーより出力されます。



ご注意

- 「2. スピーカーコンフィグレーション設定」で、「いいえ」または「なし」を選択したスピーカーは、選択できません。

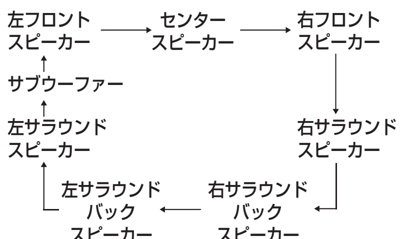
4 ▲/▼ ボタンでスピーカーを切り換え、◄/► ボタンを押してテスト音を調整する



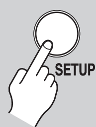
すべてのスピーカーのテスト音が同じ音量に聴こえるように調整します。

- − 12dB 〜 +12dB の範囲で 0.5dB 単位で調整できます。
- サブウーファーは− 15dB 〜 +12dB の範囲内で調整できます。

この手順をくり返し、接続したすべてのスピーカーのテスト音を調整する



5



SETUP ボタンを押す

メニュー画面が消えます。

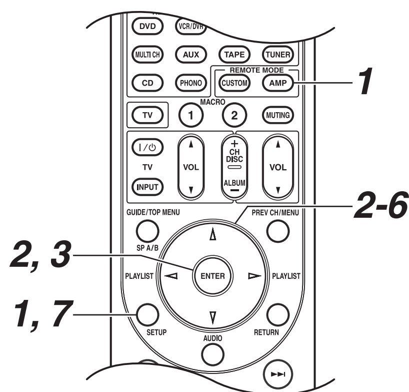
!ヒント

- 本体の SETUP ボタン、▲/▼/◄/► ボタン、ENTER ボタンでも操作することができます。

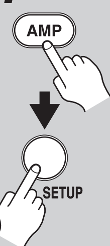
スピーカーの音場補正

簡単スピーカー設定（☞ 48 ページ）を行った場合は、自動で設定されています。

接続したスピーカーごとに、出力する音域の音量を調整できます。各スピーカーの音量は 82 ページで調整できます。ここでは、それぞれのスピーカーの音域別で音量を調整します。



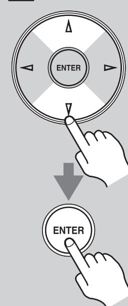
1



AMP ボタンを押してから SETUP ボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

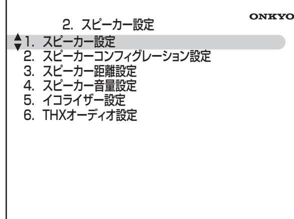
メインメニューが表示されないときは、TV に適切な外部入力接続がされていることを確認してください。

2

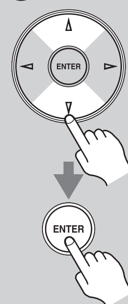


▲/▼ ボタンを押して「2. スピーカー設定」を選び、ENTER ボタンを押す

サブメニュー画面が表示されます。

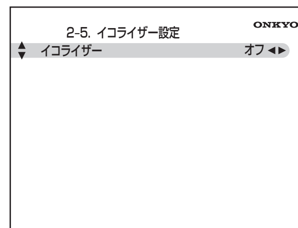


3

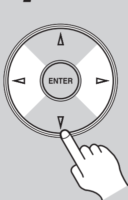


▲/▼ ボタンを押して「5. イコライザー設定」を選び、ENTER ボタンを押す

設定画面が表示されます。



4



◄/► ボタンを押して「イコライザー」を設定する

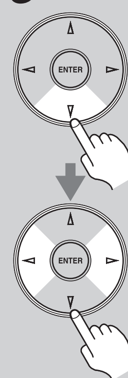
オフ　：すべての音域で同じ音量になります。

Audyssey：簡単スピーカーで設定された音量になります。

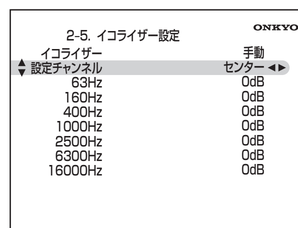
手動　：お好みで設定できます。

「手動」を選んだ場合は、手順 5 に進みます。「オフ」または「Audyssey」を選んだ場合は、手順 *7* に進みます。

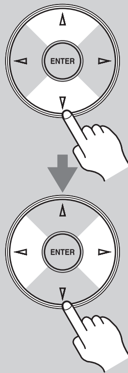
5



▼ ボタンを押して「設定チャンネル」を選び、◄/► ボタンでスピーカーを選ぶ



6



▲/▼ ボタンで「調整したい音域（周波数）」を選び、◄/► ボタンで調整する

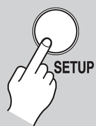
以下の音域を選択できます。
63Hz、160Hz、400Hz、1000Hz、2500Hz、6300Hz または 16000Hz
またサブウーファーの音域は以下より選択できます。
25Hz、40Hz、63Hz、100Hz または 160Hz
－6dB ～＋6dB の範囲で 1dB 単位で調整できます。

!ヒント

- 160Hz など、低い周波数は低音域、6300Hz などの高い周波数は高音域を表します。

この手順をくり返し、接続したすべてのスピーカーを設定します。

7



SETUP（セットアップ）ボタンを押す

すべてのスピーカーの設定が終わったら SETUP ボタンを押します。メニュー画面が消えます。

- メインメニュー画面に戻るには、RETURN（リターン）ボタンを押してください。

!ヒント

- 本体の SETUP（セットアップ）ボタン、▲/▼/◄/► ボタン、ENTER（エンター）ボタンでも操作することができます。

ご注意

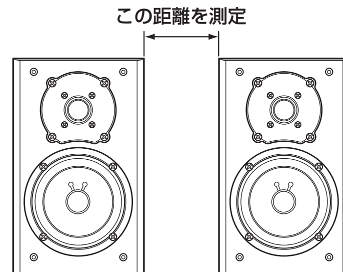
- リスニングモードが、Direct または Pure Audio に設定されていると、効果がありません。
- 入力音源またはリスニングモードの設定によっては、望ましい効果を得ることができないことがあります。

THX スピーカーの設定

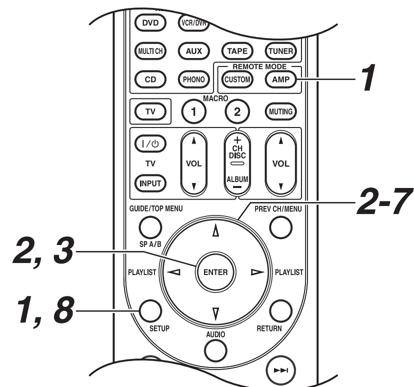
この項目は簡単スピーカー設定（☞ 48 ページ）では自動で設定されていません。

THX 認定のサブウーファーを使用しているときは、76 ページで説明している「THX Ultra2/Select2 Subwofer」を「はい」に設定してください。「はい」に設定すると、THX の Boundary Gain Compensation（BGC- 境界利得補正) を設定できるようになります。
壁ぎわなど、部屋の境界のすぐ近くに座っているリスナーには、低い周波数が強調されます。
BGC はこれを補正する機能です。

THX Loudness（ラウドネス） Plus（プラス） を設定できます。
Loudness Plus 設定を「オン」にすると、低音量で、音声表現の微妙なニュアンスを楽しめるようになります。
THX リスニングモードを選択しているときに利用できます。



サラウンドバックスピーカーの間隔を指定できます。



THX Loudness Plus

THX Loudness Plus は、THX Ultra2 Plus ™ および THX Select2 Plus ™ 認定のレシーバーに搭載された、新しいボリュームコントロール技術です。THX Loudness Plus を使用すると、ホームシアターの視聴者はどんなボリュームレベルでも、豊かで繊細なサラウンド効果を体験できます。
ボリュームをリファレンスレベル（基準レベル）よりも下にすると、一定レベルのサウンドエレメント（音質要素）が失われたり、視聴者によって違う感じに聴こえたりします。
THX Loudness Plus はボリュームを下げたときに発生する音質上・空間上の変化を周囲のサラウンドチャンネルレベルと周波数レスポンスをインテリジェントに調整することで補います。
このことにより、ユーザーはボリューム設定に関係なくサウンドトラックのインパクトを忠実に体験することができます。
THX Loudness Plus は、どの THX リスニングモードで聴いているときでも自動的に設定されます。新しく開発された THX Cinema、THX Music、THX Games のモードは、コンテンツのタイプに応じて、THX Loudness Plus の設定が適切に適用されるように調整されています。

1

AMP（アンプ）ボタンを押してから SETUP（セットアップ）ボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

AMP

SETUP

メインメニューが表示されないときは、TV に適切な外部入力接続がされていることを確認してください。

2

▲/▼ ボタンを押して「2. スピーカー設定」を選び、ENTER（エンター）ボタンを押す

ENTER

サブメニュー画面が表示されます。

2. スピーカー設定　ONKYO
1. スピーカー設定
2. スピーカーコンフィグレーション設定
3. スピーカー距離設定
4. スピーカー音量設定
5. イコライザー設定
6. THXオーディオ設定

3

▲/▼ ボタンを押して「6. THX オーディオ設定」を選び、ENTER ボタンを押す

ENTER

2-6. THXオーディオ設定　ONKYO

サラウンドバック間距離	> 1.2m ◄►
THX Ultra2/Select2 Subwoofer	いいえ
BGC	- - -
Loudness Plus	オン

4

▲/▼ ボタンで「サラウンドバック間距離」を選び、◄/► ボタンで設定する

ENTER

\> 1.2m：
スピーカー間の距離が 1.2m 以上の場合（お買い上げ時の設定）

＜0.3 m：
スピーカー間の距離が 0 ～ 30cm の場合

0.3m ― 1.2m：
スピーカー間の距離が 30cm ～ 1.2 mの場合

スピーカー環境の設定（☞ 69 ページ）で、サラウンドバック Ch（チャンネル）を 2 chに設定している場合のみ、利用可能となります。

5

▲/▼ ボタンで「THX Ultra（ウルトラ）2/Select（セレクト）2 Subwoofer（サブウーファー）」を選び、◄/► ボタンで設定する

ENTER

いいえ：THX 認定のサブウーファーを使用していないときに選びます。

はい　：THX 認定のサブウーファーを使用しているときに選びます。

6

▲/▼ ボタンで「BGC」を選び、◄/► ボタンで設定する

ENTER

オフ： BGC 効果をオフにします。

オン： BGC 効果をオンにします。

- 手順 ***5*** で「THX Ultra2/Select2 Subwoofer」を「はい」に設定しているときだけ設定できます。

7

▲/▼ ボタンで「Loudness（ラウドネス） Plus（プラス）」を選び、◄/► ボタンで設定する

ENTER

オフ： Loudness Plus 効果を「オフ」にします。

オン： Loudness Plus 効果を「オン」にします。

8

SETUP（セットアップ）ボタンを押す

SETUP

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

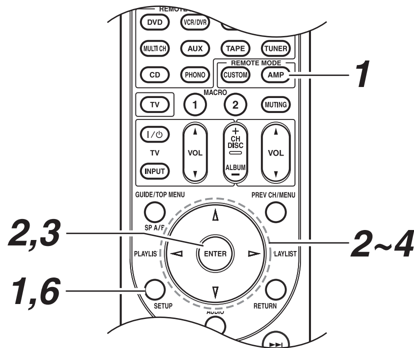
- メインメニュー画面に戻るには、RETURN（リターン）ボタンを押してください。

!ヒント

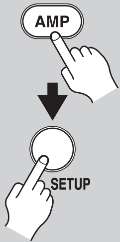
- 本体の SETUP ボタン、▲/▼/◄/► ボタン、ENTER ボタンでも操作することができます。

音響効果を調整する

リスニングモードや接続した機器によって音響効果をお好みに調整することができます。



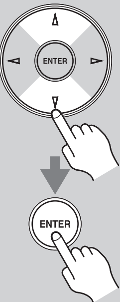
1



AMP ボタンを押してから SETUP ボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

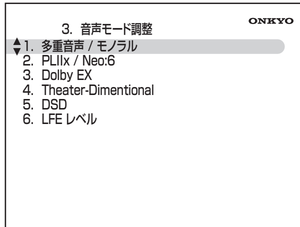
メインメニューが表示されないときは、TV に適切な外部入力接続がされていることを確認してください。

2

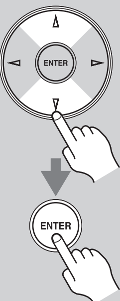


▲/▼ ボタンを押して「3. 音声モード調整」を選び、ENTER ボタンを押す

サブメニュー画面が表示されます。

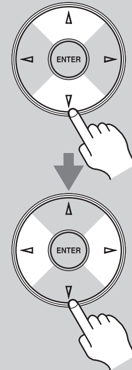


3



▲/▼ ボタンを押して設定メニューを選び、ENTER ボタンを押す

4



▲/▼ ボタンを押して設定したい項目を選び、◄/► ボタンで調整する

設定メニューの内容は次項目をご覧ください。
1 つ前の画面に戻るときは、RETURN ボタンを押します。

5

手順 *3* と手順 *4* をくり返す

6



SETUP ボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

!ヒント

- 本体の SETUP ボタン、▲/▼/◄/► ボタン、ENTER ボタンでも操作することができます。

多重音声 / モノラルの設定

■多重音声の設定

入力チャンネル

多重音声や多重言語の放送などで音声や言語を選択します。
DISPLAY ボタンを押して表示部に音声の数が「1 ＋ 1」と表示されたら、音声多重放送です。

主　：主音声を出力します。（お買い上げ時の設定）
副　：副音声を出力します。
主 / 副　：主音声と副音声の両方を出力します。

■モノラル再生の設定

入力チャンネル

2 チャンネルで記録されたドルビーデジタルなどのデジタル信号やアナログ /PCM 信号を、「Mono」リスニングモードで再生するときに使用する信号チャンネルを設定します。

左＋右　：左右チャンネルの信号両方を再生します。（お買い上げ時の設定）
左フロント　：左チャンネルの音声を再生します。
右フロント　：右チャンネルの音声を再生します。

出力スピーカー

「Mono」リスニングモードを選んだときに、どのスピーカーからモノラル音声を出力するか設定することができます。

左 / 右　：左右フロントスピーカーから出力します。
センター　：センタースピーカーから出力します。（お買い上げ時の設定）

PLIIx/Neo:6 の設定

■ PLIIx Music（2ch 入力）の設定

2 チャンネルで記録されたドルビーデジタルなどのデジタル信号やアナログ /PCM 信号を、「PLIIx Music」リスニングモードで再生するときの設定をします。
サラウンドバックスピーカーを接続していない場合、「PLIIx」は「PLII」と表示されます。

Panorama

音場を横方向に広げることができます。

オン　：パノラマ効果を「オン」にします。
オフ　：パノラマ効果を「オフ」にします。（お買い上げ時の設定）

Dimension

音場を前方または後方へ移動させることができます。お買い上げ時は「0」に設定されています。

!ヒント

- 「0」を中心に、「－ 1」、「－ 2」、「－ 3」にすると前方へ、「＋ 1」、「＋ 2」、「＋ 3」にすると後方へ移動します。
- 広がり感がありすぎたり、サラウンドが強すぎる場合は、音場を前方に調整するとバランスが良くなります。逆にモノラル感や音場が狭い感じの場合は、音場を後方に調整するとバランスが良くなります。

Center Width

センタースピーカーの音の広がり幅を調整することができます。
Dolby Pro Logic IIx では、センタースピーカーがある場合はセンターチャンネルの信号をセンタースピーカーからのみ出力します。（センタースピーカーがない場合は、左右フロントスピーカーに等分に振り分け、幻想のセンター音像を作ります。）この設定では、センタースピーカーと左右フロントスピーカーの配合を調整し、センターの音の重量感を調整することができます。
お買い上げ時の設定は「3」ですが、0 ～ 7 の範囲で選択できます。

■ Neo:6 Music の設定

Center Image

「Neo:6 Music」は、2 チャンネルで収録されたソースを 6 チャンネルで再生するリスニングモードで、左右フロントチャンネルからいくらか差し引いた音声を使ってセンターチャンネルの音声を作り出します。
どの程度音声を差し引いてセンターチャンネルのイメージを作るかを調整します。
お買い上げ時の設定は「2」ですが、0 ～ 5 の範囲で選択できます。

!ヒント

- 「0」は左右のチャンネルから半分（－ 6dB）差し引いてセンターイメージを作るため、より中央に寄った感じになります。視聴位置が中央からかなりずれている場合に便利です。
- 「5」は左右のチャンネルから音声が差し引かれないため元のステレオ音声のバランスのまま出力されます。

Dolby EX の設定

■ Dolby EX

ドルビーデジタル EX 信号の再生方法を設定します。

自動　：ドルビーデジタルの 6.1 チャンネル識別信号があるとき、Dolby のリスニングモードは Dolby Digital EX、THX のリスニングモードは THX Surround EX が選べます。（お買い上げ時の設定）
手動　：リスニングモード表の通りに選べます。

Theater-Dimensional の設定

■リスニングアングルの設定

T-D リスニングモードでの最適な視聴角度を設定します。視聴位置からの左右スピーカーの角度を設定します。左右スピーカーは視聴位置から等距離が望ましいです。

狭い　：30 度以内の場合にこの設定を選びます。
広い　：30 度以上の場合にこの設定を選びます。（お買い上げ時の設定）

DSD の設定

■ DAC ダイレクトの設定

Pure Audio または Direct のリスニングモード選択時にDSD(スーパーオーディオ CD) 音声信号を AV シンクやディレイなどの DSP 回路に通すか、通さないかを設定します。

いいえ ： DSD 信号は DSP 処理されます。
（お買い上げ時の設定）

はい ： DSD 信号は DSP 処理されません。

LFE レベルの設定

各入力信号の低域効果(LFE)レベルを設定します。
Dolby Digital、DTS、AAC、マルチチャンネル PCM、Dolby TrueHD、DTS-HD Master Audio、DSD 信号の設定ができます。

お買い上げ時の設定はすべて「0dB」ですが、−∞ dB、− 10dB、0dB から選べます。
低域効果音が強調されすぎる場合は、− 10dB や−∞ dB を選んでください。

■ Dolby Digital の設定

ドルビーデジタルとドルビーデジタルプラスを再生するときの LFE チャンネルのレベルを設定します。

■ ＤＴＳ の設定

DTS と DTS-HD ハイレゾリューション信号を再生するときの LFE チャンネルのレベルを設定します。

■ AAC の設定

AAC 信号を再生するときの LFE チャンネルのレベルを設定します。

■マルチチャンネル PCM の設定

HDMI IN 端子から入力した DVD オーディオなどのマルチチャンネル PCM 信号を再生するときの LFE チャンネルのレベルを設定します。

■ Dolby TrueHD の設定

HDMI 端子から入力したブルーレイディスクや HD DVD ディスクの Dolby TrueHD 信号を再生するときの LFE チャンネルのレベルを設定します。

■ DTS-HD Master Audio の設定

HDMI 端子から入力したブルーレイディスクや HD DVD ディスクの DTS-HD Master Audio 信号を再生するときの LFE チャンネルのレベルを設定します。

■ DSD の設定

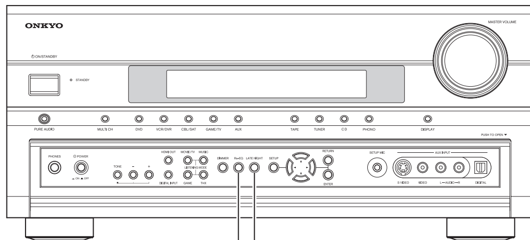
DSD（スーパーオーディオ CD）マルチチャンネルの LFE チャンネルのレベルを設定します。

音声の設定をする

リモコンの AUDIO ボタンを使って、音声に関する設定をすることができます。

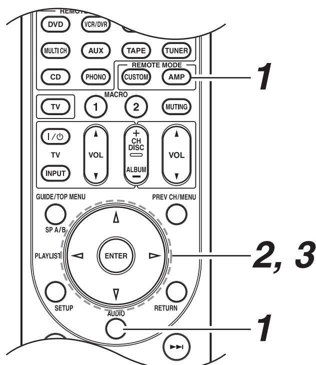
ご注意

- 「TV オーディオ出力」を「オン」に設定しているときは、このボタンは使用できません（☞ 91 ページ）。



LATE NIGHTボタン

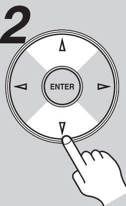
Re - EQボタン



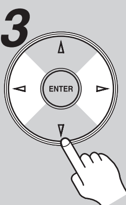


1 AMP ボタンを押してから AUDIO ボタンを押す

設定項目が本体の表示部に表示されます。



2 ▲/▼ ボタンで項目を選ぶ



3 ◄/► ボタンで設定を選ぶ

設定項目の内容は次項目をご覧ください。

低音、高音（Bass、Treble）を調整する

「Direct」、「Pure Audio」、「THX」、「Multich」以外のリスニングモード時に左右フロントスピーカーのみ音質を調整することができます。

Bass

フロントスピーカーの低音の音質を、－ 10dB ～＋ 10dB の範囲内で 2dB ずつ調整できます。
（お買い上げ時の設定は「0」です。）

Treble

フロントスピーカーの高音の音質を、－ 10dB ～＋ 10dB の範囲内で 2dB ずつ調整できます。
（お買い上げ時の設定は「0」です。）

!ヒント

本体の TONE ボタン、＋ / －ボタンでも操作することができます（☞ 55 ページ）。

レイトナイト機能を使う

■ Late Night

ドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラス、ドルビー TrueHD 再生時のみに効果があります。

劇場用に作られた映画音声は大きな音と小さな音の差が大きいため、環境音や人の会話などの小さな音を聴くには音量を上げる必要があります。レイトナイト機能は音量幅を小さくすることができるため、全体の音量を上げずに小さな音も聴こえます。夜中などに音量を絞って映画を鑑賞するときに便利です。

この機能は、本機をスタンバイ状態にすると解除されます。

ドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラス

Off ： レイトナイト機能をオフにします。
（お買い上げ時の設定）
Low ： 音量幅を小さくします。
High ： 音量幅をさらに小さくします。

ドルビー TrueHD

Auto ： レイトナイト機能は、自動で On か Off に設定されます。（お買い上げ時の設定）
Off ： レイトナイト機能をオフにします。
On ： 音量幅を小さくします。

ご注意

- コンテンツ製作者の意図により、レイトナイト機能のモードを変えても効果に変化のないものもあります。

!ヒント

本体の LATE NIGHT ボタンでも操作することができます。

Re-EQ 機能を使う

高音域が強調されたサウンドを、ホームシアター用に補正します。高音域が強すぎる場合に設定します。Re-EQ の設定は、リスニングモードによっては使用できない場合があります。

■ Re-EQ

この機能を使用できるリスニングモード

- ドルビーデジタル、ドルビーデジタル EX、ドルビープロロジック II ムービー、ドルビープロロジック IIx ムービー
- DTS、DTS-ES、DTS Neo:6 シネマ、DTS 96/24
- マルチチャンネル

■ Re-EQ（THX）

この機能を使用できるリスニングモード

- THX シネマ、THX サラウンド EX、THX Ultra2 シネマ

ON または OFF を切り換えます。

On ：高音域の補正をします。
Off ：Re-EQ 機能をオフにします。

!ヒント

本体の Re-EQ ボタンでも操作できます。
THX リスニングモード時に、Re-EQ 機能をオフにした状態で本機をスタンバイ状態にすると Re-EQ 機能は「オン」の状態になります。THX リスニングモード時以外は Re-EQ 機能の「オン」または「オフ」の状態は保持されます。

Audyssey Dynamic EQ ™ 機能を使う

■ Dynamic EQ

（THX 以外のリスニングモードに効果があります。）

■ THX+Dynamic EQ

（THX リスニングモードに効果があります。）

この機能は、適切な周波数特性やサラウンド音量レベルを設定するもので、音量の小さいときでもありのままの音を楽しむことができます。

Off ：Audyssey Dynamic EQ 機能を「オフ」にします。
On ：Audyssey Dynamic EQ 機能を「オン」にします。

ご注意

- Audyssey Dynamic EQ 機能は、イコライザー設定が「Audyssey」のときに設定できます（☞ 74 ページ）。
- 「Loudness Plus」の設定が「オン」のときは（☞ 76 ページ）、THX リスニングモードが選択されていても、THX+ Dynamic EQ 機能は利用できません。

Music Optimizer 機能を使う

■ M. Optimizer

この機能は、圧縮された音楽信号をより良い音質にします。MP3 などの非可逆圧縮ファイルの再生時に便利です。

Off ：Music Optimizer 機能を「オフ」にします。
（お買い上げ時の設定）
On ：Music Optimizer 機能を「オン」にします。

ご注意

- この機能は、48kHz 以下の PCM 信号とアナログ信号に働きます。また、リスニングモードが「Pure Audio」と「Direct」のときは、効果がありません。

Speaker Level 機能を使う

音声を聴きながら、スピーカーレベルを調整することができます。調整した内容は、本機をスタンバイ状態にすると、設定前の内容に戻ります。

■ Subwoofer

－ 15dB 〜＋ 12dB の範囲で調整できます。

■ Center

－ 12dB 〜＋ 12dB の範囲で調整できます。

ご注意

- ミューティング機能が働いているときは調整できません。
- 「スピーカーコンフィグレーション」で「いいえ」または「なし」に設定されているスピーカーは調整できません（☞ 69 ページ）。

AV Sync 機能を使う

■ AV Sync

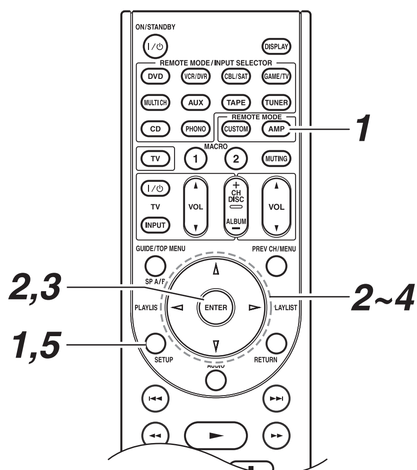
映像が音声より遅れて再生されるようなとき、この設定で映像信号と音声信号を同期させることができます。0 〜 250ms（ミリ秒）の範囲を 5ms ステップで、音声の遅延を調整することができます。
詳しくは 85 ページをご覧ください。

ご注意

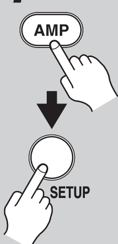
- この機能は、アナログ音声再生時に「Pure Audio」または「Direct」のリスニングモードを使用しているときは、無効になります。
- この機能は、DVD マルチチャンネル入力を選択しているときは、無効になります。

よく使うリスニングモードを設定しておく

入力される信号によって、よく使うリスニングモードを設定しておくことができます。
再生中に切り換えることもできますが、一度スタンバイ状態にすると設定されたモードに戻ります。

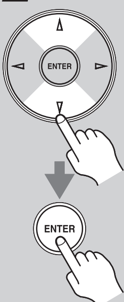


1 AMP（アンプ）ボタンを押してから SETUP（セットアップ）ボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

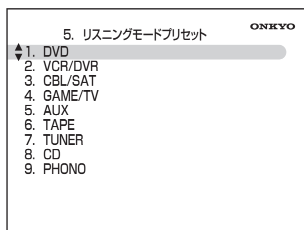


メインメニューが表示されないときは、TV に適切な外部入力接続がされていることを確認してください。

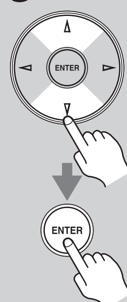
2 ▲/▼ ボタンを押して「5. リスニングモードプリセット」を選び、ENTER（エンター）ボタンを押す



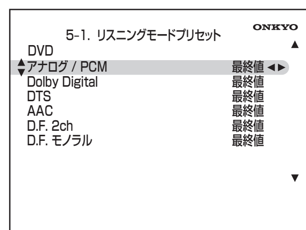
サブメニュー画面が表示されます。



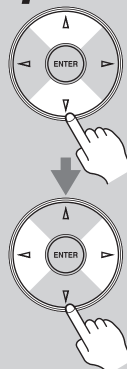
3 ▲/▼ ボタンを押して「入力ソース」を選び、ENTER ボタンを押す



信号フォーマットが表示されます。



4 ▲/▼ ボタンを押して「設定したい信号の種類」を選び、◄/► ボタンでリスニングモードを選ぶ



選択できるリスニングモードは設定する入力信号によって異なります。

- 「最終値」はリスニングモードを固定せず、最後に選択したモードを優先します。

5 SETUP ボタンを押す



設定が終了し、メニュー画面が消えます。

!ヒント

- 本体の SETUP（セットアップ）ボタン、▲/▼/◄/► ボタン、ENTER（エンター）ボタンでも操作することができます。

アナログ /PCM

CD などの PCM 信号やレコード、カセットテープなどのアナログ信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

Dolby（ドルビー） Digital（デジタル）

ドルビーデジタルとドルビーデジタルプラス信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

DTS

DTS と DTS-HD ハイレゾリューション信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

AAC

AAC 信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

D. F. 2ch（チャンネル）

2 チャンネルで記録されたドルビーデジタルなどのデジタル信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

D. F. モノラル

モノラルで記録されたドルビーデジタル、AAC などのデジタル信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

マルチチャンネル PCM

HDMI IN 端子から入力した DVD オーディオなどのマルチチャンネル PCM 信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

192 k /176.4k

DVD オーディオなど、サンプリング周波数が 192 k /176.4kHz の信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

Dolby（ドルビー） TrueHD（トゥルーエイチディー）

HDMI 端子から入力したブルーレイディスクや HD ディスクの Dolby TrueHD 信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

DTS-HD Master（マスター） Audio（オーディオ）

HDMI 端子から入力したブルーレイディスクや HD ディスクの DTS-HD Master Audio 信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

DSD

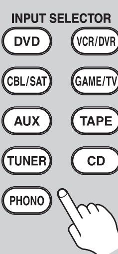
DSD(スーパーオーディオ CD) マルチチャンネル信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

入力音声の調整をする（音量差調整、遅延補正）

OSD の「4. ソース設定」メニューで本機に接続した複数の機器間の音量差の調整、あるいは映像が音声より遅れる場合の補正ができます。

1

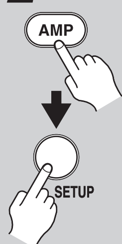
リモコン



調整したい入力を入力切換ボタンで選び、接続機器を再生する

たとえば DVD の映像が音声より遅れている場合、DVD を再生します。

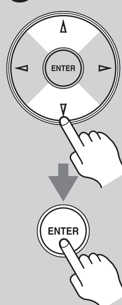
2



AMP ボタンを押してから SETUP ボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

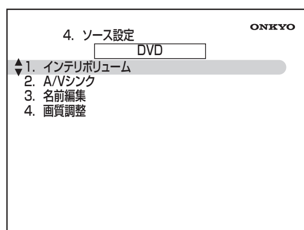
メインメニューが表示されないときは、TV に適切な外部入力接続がされていることを確認してください。

3

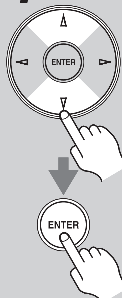


▲/▼ ボタンを押して「4. ソース設定」を選び、ENTER ボタンを押す

画面が表示され、上段に選択している入力ソースが示されます。



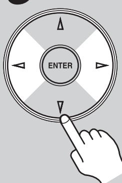
4



▲/▼ ボタンで設定メニューを選び、ENTER ボタンを押す

設定メニューの内容は次ページをご覧ください。

5



◄/► ボタンで設定を調整する

6



SETUP ボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

- メインメニュー画面に戻るには、RETURN ボタンを押してください。

!ヒント

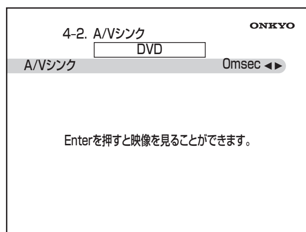
- 本体の SETUP ボタン、▲/▼/◄/► ボタン、ENTER ボタンでも操作することができます。

インテリボリューム（機器間の音量差を減らす）

本機に複数の機器を接続している場合、本機のボリューム位置が同じでも機器によって再生するときの音量に差が出ることがあります。
◄/► ボタンで調整してください。
他の機器と比べて音量が大きい場合は ◄ ボタン、小さい場合は ► ボタンを押して調整します
- − 12dB ～ + 12dB の範囲で 1dB 単位で調整できます。

A/V シンク (映像遅延補正）

DVD プレーヤーをプログレッシブ再生しているとき映像が音声より遅れている場合があります。A/V シンク機能を使って音声を遅延調整することで修正できます。
0 ～ 250ms（ミリ秒）の範囲で 5ms 単位で調整できます。
ENTER ボタンを押して再生画面を表示し、◄/► ボタンで調整してください。



「HDMI リップシンク」設定が有効になっていて（☞ 92 ページ）、お使いのテレビが HDMI リップシンク機能に対応している場合は A/V シンクの設定時間が表示されます。HDMI リップシンクの遅延時間は括弧で表示されます。

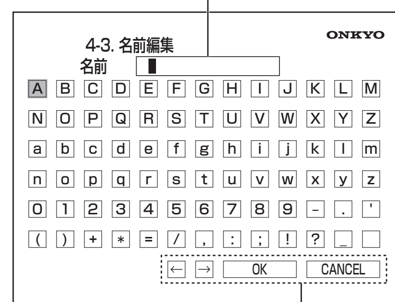
ご注意

- A/V シンク機能は Pure Audio リスニングモードでは無効になります。またアナログ入力ソースを Direct リスニングモードで再生する場合も無効になります。

名前編集（入力に名前をつける）

DVD や VCR/DVR などの各入力に名前をつけて表示させることができます。画面上の文字・記号を入力することで変更します。
▲/▼/◄/► ボタンで文字・記号を選び、ENTER ボタンを押して決定します。この手順を繰り返して変更名を確定した後で、「OK」の文字を選び、ENTER ボタンを押して終了です。

名前入力欄



←（左）/→（右）：
名前入力欄のカーソルを動かすときに選択します。

OK：
入力が確定したときに選択します。

CANCEL：
途中で中止するときに選択します。

この操作で 10 文字まで入力できます。

文字を訂正するときは：

1. ▲/▼/◄/► ボタンを押して「←」（左）または「→」（右）を選び、ENTER ボタンを押す
2. ENTER ボタンを押してカーソルを動かし、訂正したい文字を選ぶ（ENTER ボタンを押すたびに、カーソルが 1 文字ずつ動きます）
3. ▲/▼/◄/► ボタンで正しい文字を選んで、ENTER ボタンを押す

!ヒント

- 本体の SETUP ボタン、▲/▼/◄/► ボタン、ENTER ボタンでも操作することができます。
- 入力につけた名前を初期値の状態に戻したいときは、空スペースを入力して既に入力している名前を消去してください。

画質調整

画質を調整することで、画面をお好みの状態に設定できます。
▲/▼ ボタンで設定項目を選び、◄/► ボタンで設定してください。
画面を表示して調整するときは、ENTER ボタンを押します。

■ 画質モード（Picture Mode）

本機には、3 つの画質モードが付いています。
Mode 1（お買い上げ時の設定）、Mode2 と Mode3

■ 明るさ（Brightness）

この設定で画面の明るさを -20 から +20 までの範囲で調整できます。（お買い上げ時の設定は 0）
-20 は最も暗くなります。+20 は最も明るくなります。

■ コントラスト（Contrast）

この設定で明暗の差を -20 から +20 までの範囲で調整できます。（お買い上げ時の設定は 0）
-20 は最もコントラストが弱くなります。+20 は最もコントラストが強くなります。

■ 色合い（Hue）

この設定で画面の赤と緑のバランスを -20 から +20 までの範囲で調整できます。（お買い上げ時の設定は 0）
-20 は最も緑色が強くなります。+20 は最も赤色が強くなります。

■ 彩度（Saturation）

この設定で濃さを -20 から +20 までの範囲で調整できます。（お買い上げ時の設定は 0）
-20 は最も淡い色になります。+20 は最も鮮やか色になります。

■ エッジエンハンスメント（Edge Enhancement）

この設定で縁の鋭さを 0 から +10 までの範囲で調整できます。（お買い上げ時の設定は 0）
0 は最もソフトになります。+10 は最も鋭くなります。

■ 初期値

► ボタンまたは ENTER ボタンを押すことで、画質調整の設定をお買い上げ時の設定に戻すことができます。
映像を最適な状態で楽しむために、THX は、「画質調整」の設定を初期値にすることを推奨しています。

■ ノイズ除去（Noise Reduction）

この設定で画面に現れるノイズを除去することができます。

オフ ：ノイズ除去機能　無効
低 ：ノイズ除去機能　低（お買い上げ時の設定）
中 ：ノイズ除去機能　中
高 ：ノイズ除去機能　高

ご注意

- HDMI 入力端子から入力される映像信号が 1080p のときは、効果がありません。

!ヒント

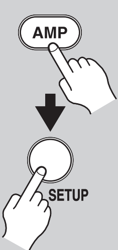
リモコンの DISPLAY ボタンで設定することもできます（「初期値」の設定は除きます）。

1. 表示部に設定項目が表示されるまで DISPLAY ボタンを押し続ける。
2. ▲/▼ ボタンで設定項目を選び、◄/► ボタンで設定を選ぶ。

音量設定 /OSD 設定をする

1

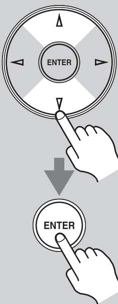
リモコン



AMP ボタンを押してから SETUP ボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

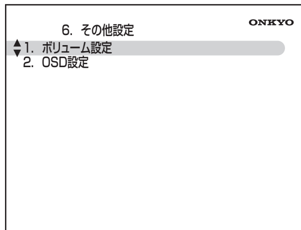
メインメニューが表示されないときは、TV に適切な外部入力接続がされていることを確認してください。

2

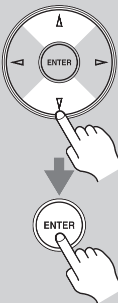


▲/▼ ボタンを押して「6. その他設定」を選び、ENTER ボタンを押す

サブメニュー画面が表示されます。



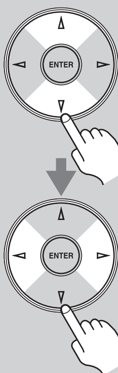
3



▲/▼ ボタンを押して、設定したい設定メニューを選び、ENTER ボタンを押す

設定メニューの内容は次ページをご覧ください。

4



▲/▼ ボタンを押して設定したい項目を選び、◄/► ボタンで設定を選ぶ

1 つ前の画面に戻るときは、RETURN ボタンを押します。

5



SETUP ボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

!ヒント

- 本体の SETUP ボタン、▲/▼/◄/► ボタン、ENTER ボタンでも操作することができます。

ボリューム設定

■ ボリューム表示の設定

ボリュームの表示方法を絶対値と相対値に切り換えることができます。

相対値（お買い上げ時の設定）
−∞ dB・− 81.5dB・− 81.0dB・・・・・・+ 18.0dB の範囲で表示します。絶対値の音量 82 が相対値の 0dB に相当します。

絶対値
Min・0.5・1…99・99.5・Max の範囲で表示します。

■ ミュート減衰量の設定

ミューティング時の音量を聴いている音よりどれだけ下げるか設定しておくことができます。10dB 単位で−∞ dB、− 50dB 〜− 10dB の範囲で設定できます。お買い上げ時の設定は、−∞ dB です。

■ 最大音量の設定

音量が大きくなり過ぎないように、音量の最大値を設定することができます。
絶対値表示の場合は、オフ・50 〜 99 の範囲内で設定できます。
相対値表示の場合は、オフ・− 32dB 〜+ 17dB の範囲内で設定できます。
設定しないときは「オフ」を選びます。

■ パワーオン時音量の設定

本機の電源を入れたときの音量を一定に設定しておくことができます。
相対値表示の場合は、最終値・−∞ dB・− 81dB 〜+ 18dB の範囲内で設定できます。
絶対値表示の場合は、最終値・最小・1…99・最大の範囲内で設定できます。
本機をスタンバイ状態にする前の音量をそのまま残したい場合は「最終値」を選びます。

ご注意
- 「最大音量」で設定した値より高く設定することはできません。

■ ヘッドホンレベルの設定

スピーカーで聴くときとヘッドホンで聴くときの音量に差がある場合、ヘッドホンの音量を微調整しておくことができます。
− 12dB 〜+ 12dB の範囲で調整できます。

OSD 設定

■ イミディエイト表示の設定

本機を操作したときに、操作内容を画面に表示するかどうかを設定します。（ただし、「オン」に設定しても、再生機器を COMPONENT VIDEO IN 端子、D4 VIDEO IN 端子に接続しているときは、操作内容は表示されません。）
映像を最適な状態で楽しむために、THX は、イミディエイト表示機能をオフにすることを推奨しています。

オン　：　表示します。（お買い上げ時の設定）
オフ　：　表示しません。

■ モニタータイプの設定

操作内容の表示がテレビ画面からはみ出たり、伸びて映っている場合は、お持ちのテレビに合わせて設定してください。

4：3　：　ご使用のテレビが 4：3 のとき設定します。
16：9　：　ご使用のテレビが 16：9 のとき設定します。（お買い上げ時の設定）

■ 表示位置の設定

操作内容の表示をテレビ画面のどの位置に表示させるかを設定します。

下　：　画面の下方に表示します。（お買い上げ時の設定）
上　：　画面の上方に表示します。

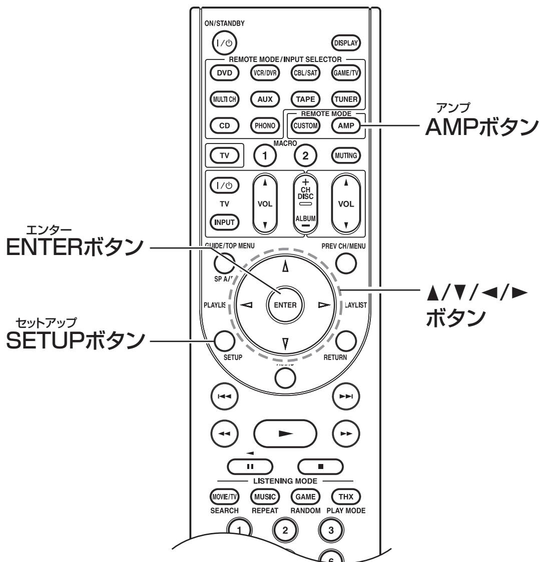
■ 言語（Language）（ランゲージ）の設定

操作内容の表示言語を以下の内から選択して設定できます。

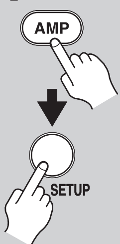
日本語	：（お買い上げ時の設定）
English	：英語
Deutsch	：ドイツ語
Français	：フランス語
Español	：スペイン語
Italiano	：イタリア語
Nederlands	：オランダ語
Svenska	：スウェーデン語

ハードウェアの設定をする

「ハードウェア設定」メニューについて説明します。



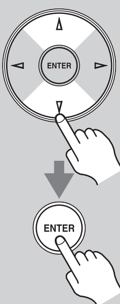
1



AMP（アンプ）ボタンを押してからSETUP（セットアップ）ボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

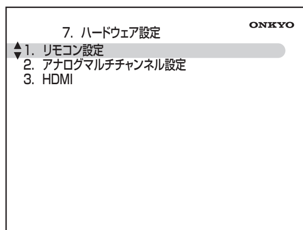
メインメニューが表示されないときは、TVに適切な外部入力接続がされていることを確認してください。

2

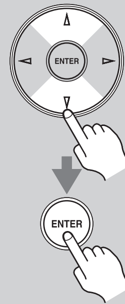


▲/▼ ボタンを押して「7. ハードウェア設定」を選び、ENTER（エンター）ボタンを押す

「ハードウェア設定」サブメニュー画面が表示されます。



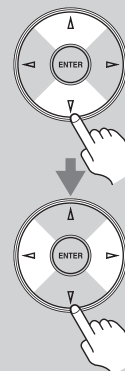
3



▲/▼ ボタンを押して設定メニューを選び、ENTER ボタンを押す

設定メニューの内容は次ページをご覧ください。

4



▲/▼ ボタンを押して設定したい項目を選び、◄/► ボタンで設定を選ぶ

1 つ前の画面に戻るときは、RETURN（リターン）ボタンを押します。

5



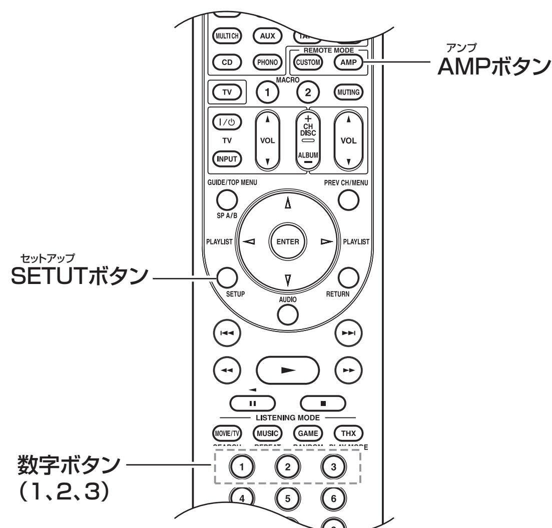
SETUP ボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

!ヒント

- 本体の SETUP（セットアップ）ボタン、▲/▼/◄/► ボタン、ENTER（エンター）ボタンでも操作することができます。

リモコン設定



■ リモコン ID

オンキヨー製品が同じ部屋に複数ある場合、リモコンの操作コードが重複してしまうことがあります。
他のオンキヨー製品と区別をつけるために、リモコン ID を変更することができます。「1」、「2」、「3」から選べます。
お買い上げ時は、本体、リモコンともに「1」に設定されています。設定したら、次にリモコン側の設定をします。

ご注意

- リモコン、本体共に同じリモコン ID に設定する必要があります。

1 AMP ボタンを押しながら、SETUP ボタンを AMP ボタンが点灯するまで（約 3 秒）押す

AMP
SETUP
（3秒間）

2 設定したいリモコン ID の数字ボタンを 1 ～ 3 から選び、押す

AMP ボタンが 2 度点滅します。

アナログマルチチャンネル設定

■ サブウーファー入力感度の設定

DVD プレーヤーによっては、マルチチャンネル出力時に LFE（低域効果音）チャンネルが 15dB 高く出力されるものがあり、サブウーファーの音量が大きくなることがあります。
この設定では、マルチチャンネル入力時のサブウーファーの音量を設定することができます。
0dB（お買い上げ時の設定）、5dB、10dB、15dB から選択できます。
サブウーファーが大きすぎる場合は、10dB や 15dB を選んでください。

HDMI

■ モニター出力設定（Monitor Out）

モニターを設定する(☞ 40 ページ)。

■ 出力解像度の設定

本機がアップコンバージョンするときに出力する映像の解像度を設定します。お手持ちのテレビに合わせて設定してください。
映像を最適な状態で楽しむために、THX は、出力解像度の設定を「スルー」にすることも推奨しています。

スルー：入力された映像の解像度と同じ解像度で出力します。ただし、テレビが対応していない解像度の場合は、自動的にコンバージョンします。（お買い上げ時の設定）

自動：テレビ側が推奨しているいちばん良い解像度で出力します。モニター出力設定（Monitor Out）が「Analog」に設定されていると利用できません。

480p：入力された映像の解像度が 480p のときと 480p にコンバージョンしたいときに選びます。

720p：入力された映像の解像度が 720p のときと 720p にコンバージョンしたいときに選びます。

1080i：入力された映像の解像度が 1080i のときと 1080i にコンバージョンしたいときに選びます。

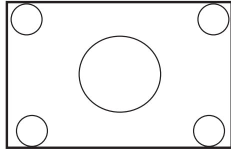
1080p：入力された映像の解像度が 1080p のときと 1080p にコンバージョンしたいときに選びます。モニター出力設定（Monitor Out）が「Analog」に設定されていると利用できません。

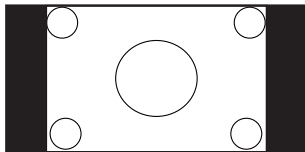
■ ズームモードの設定

アスペクト比（横縦比）を設定します。

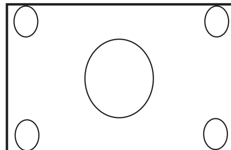
自動（Auto）： 入力信号に合わせて、本機が自動的にズームモードを選択します。（お買い上げ時の設定）

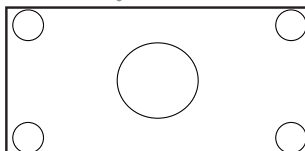
通常（Normal）：



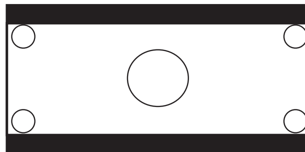


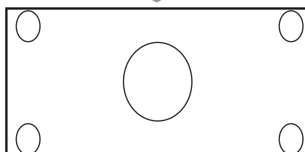
フル（Full）：



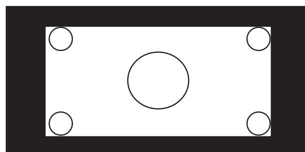


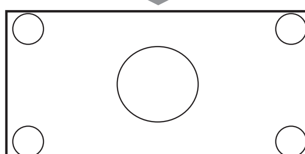
ズーム（Zoom）：





ワイドズーム（Wide Zoom）：





!ヒント

リモコンの DISPLAY ボタンで設定することもできます。

1. 表示部に設定項目が表示されるまで DISPLAY ボタンを押し続ける。
2. ▲/▼ ボタンで「Zoom Mode」を選び、◄/► ボタンで設定を選ぶ。

■ フィルムモードの設定

フィルムモードを「自動」に設定することで、本機は自動的に映像ソースを判別し、映像ソースに合わせて 3:2 プルダウンもしくは、2:2 プルダウンの処理を行い、映像ソースが持つ自然な質感を再現することができます。
また、映像ソースに合わせてフィルムモードを「3:2 pulldown」もしくは、「2:2 pulldown」に設定することで、画質が改善することがあります。

自動（Auto）： 入力されたソースに合わせて、自動的にフィルムモードを選択します。
オフ（Off）： 3:2 プルダウン、2:2 プルダウン処理を行いません（お買い上げ時の設定）。
3:2 pulldown： 入力されたソースが映画フィルムなどのときに選択します。
2:2 pulldown： 入力されたソースが、コンピュータグラフィックスやアニメーションなどのときに選択します。

!ヒント

リモコンの DISPLAY ボタンで設定することもできます。

1. 表示部に設定項目が表示されるまで DISPLAY ボタンを押し続ける。
2. ▲/▼ ボタンで「Film Mode」を選び、◄/► ボタンで設定を選ぶ。

■ TV オーディオ出力

HDMI 端子から音声出力を「する / しない」の設定ができます。本機の HDMI OUT 端子とテレビの HDMI 入力端子を接続していて、テレビのスピーカーから音声を聴きたいときなどに設定します。通常は「オフ」にしておいてください。
入力信号やテレビによっては、「オン」にしても音が出ない場合があります。

オフ ： 出力しません。（お買い上げ時の設定）
オン ： 出力します。

ご注意

- TV オーディオ出力の設定が「オン」で、テレビから音声が出ている場合は、スピーカーから音声が出ません。
- TV 連動の設定が「有効」の場合は、「自動」になります。
- お使いのテレビや入力信号によっては、設定が「オン」でもテレビから音声が出ないことがあります。
- TV オーディオ出力が「オン」に設定されているか、TV 連動の設定が有効になっていて、ご利用のテレビのスピーカーを通してお聴きになっているときに（☞ 24 ページ）、本機のマスターボリュームつまみを操作すると、本機の左右フロント

スピーカーから音声が出力されます。音声を出力させたくないときは、本機またはテレビの設定を変えるか、本機の音量を下げてください。

■ リップシンク

接続したモニターからの情報により、映像と音声のズレを本機で自動的に補正するかどうかを設定します。

無効 ： 自動では補正しません。（お買い上げ時の設定）
有効 ： 自動的に補正します。



- リップシンク機能はHDMIリップシンク対応のテレビに接続している場合にのみ動作します。
- リップシンク機能によって補正される遅延時間を、A/Vシンクメニューで確認することができます(☞ 85 ページ)。

■ x.v.Color

x.v.Color 対応のソースやモニターを HDMI 接続したときに「有効」に設定すると、色の表現力が向上します。

無効 ： x.v.Color を使用しません。
（お買い上げ時の設定）
有効 ： x.v.Color を使用します。



- 「有効」にして色がおかしくなる場合は、「無効」に設定してください。
- 詳しくは接続した機器の取扱説明書をご覧ください。

■ コントロール

本機と HDMI 接続した CEC 規格対応機器や RIHD * 対応機器と連動動作するかどうかを設定します。

無効 ： RIHD Control を使用しません。
（お買い上げ時の設定）
有効 ： RIHD Control を使用します。



- 接続機器が対応していない場合や、対応しているかどうか分からない場合は「無効」に設定してください。
- 「有効」に設定して、おかしな動作をする場合は「無効」にしてください。
- 詳しくは接続した機器の取扱説明書をご覧ください。

＊ RIHD はオンキヨー製品の連動機能の名称です。本機では HDMI 規格で定められている CEC（Consumer Electronics Control）を使用した連動を行うことができます。CEC に対応したいろいろな機器と連動することができますが、RIHD 対応機器以外での動作は保証いたしません。

電源連動

HDMI で接続された RIHD 対応機器と、電源連動させたい場合に「有効」に設定してください。ただし、接続機器が対応していない場合や接続機器の設定の状態によっては連動しない場合があります。

無効 ： Power Control を使用しません。
（お買い上げ時の設定）
有効 ： Power Control を使用します。



- 「有効」に設定しているときは、本機の消費電力が増えます。
- 「有効」に設定しているときは、本機がスタンバイ状態においても、HDMI 入力端子から入力された映像信号は HDMI 出力端子に接続されたテレビや他の機器に出力されます。TV オーディオ出力の設定が「オン」の場合は、HDMI 音声信号も HDMI 出力端子から出力されます。
- 電源連動の設定は、コントロールの設定が「有効」の場合に変更できます。
- 電源連動は、HDMI Power Control 機能に対応した機器に接続している場合にのみ動作します。
- 詳しくは接続した機器の取扱説明書をご覧ください。

TV 連動

HDMI 接続した RIHD 対応テレビから、本機をコントロールしたいときに「有効」にします。

無効 ： TV 連動を使用しません。
（お買い上げ時の設定）
有効 ： TV 連動を使用します。

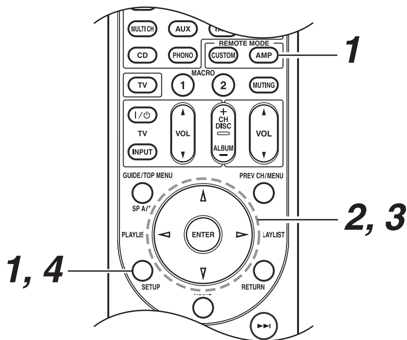


- テレビが対応していない場合や、対応しているかどうか分からないときは、「無効」に設定してください。
- TV 連動の設定は、コントロールと電源連動の両方の設定が「有効」の場合に変更できます。
- 詳しくは接続した機器の取扱説明書をご覧ください。

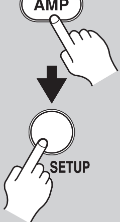


- コントロール、電源連動、TV 連動の設定を変更したあとは、すべての接続機器の電源を一度オフにして、再度入れ直してください。また、接続機器の取扱説明書も必ずお読みください。

ロック設定（設定内容をロックする）



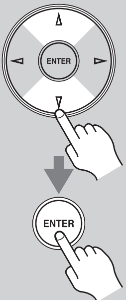
1



AMP（アンプ）ボタンを押してから SETUP（セットアップ）ボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

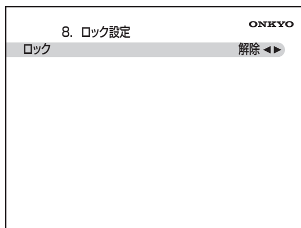
メインメニューが表示されないときは、TV に適切な外部入力接続がされていることを確認してください。

2

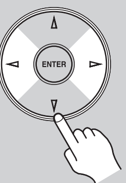


▲/▼ ボタンを押して「8. ロック設定」を選び、ENTER（エンター）ボタンを押す

ロックセットアップメニューが表示されます。



3



◄/► ボタンで選択する

誤って設定を変更してしまわないように、設定したメニューにロックをかけることができます。

ロック：

ロックをかけます。ロックをかけておくと、設定操作はできません。

解除：

設定操作にロックをかけません。
（お買い上げ時の設定）

4



SETUP ボタンを押す

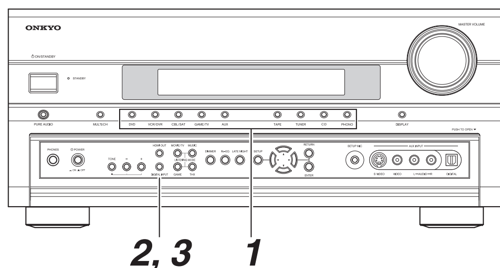
設定が終了し、メニュー画面が消えます。

!ヒント

- 本体の SETUP（セットアップ）ボタン、▲/▼/◄/► ボタン、ENTER（エンター）ボタンでも操作することができます。

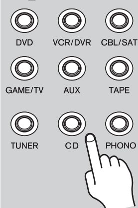
自動音声選択機能を使う

本機は入力されている音声信号の有無を検索し、自動的に入力信号を選びます。ここでは、検索する信号の種類を設定します。



2, 3　1

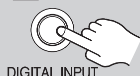
1 設定を変更したい入力を選ぶ



!ヒント

- 入力ごとに異なる設定ができます。

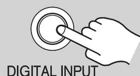
2 DIGITAL（デジタル） INPUT（インプット） ボタンを押す



現在の設定が表示されます。

```
Digital Input
  :HDMI1(Auto)
```

3 DIGITAL INPUT ボタンをくり返し押して、項目を選択する



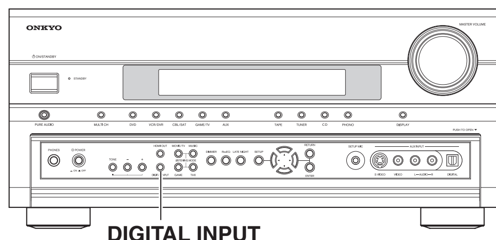
HDMIx（Auto（オート））：
HDMI 入力が割り当てられている入力に働きます（☞ 42 ページ）。このときは、HDMI 信号、デジタル信号、アナログ信号の有無を検索します。複数の種類の信号を検知したときは、HDMI 信号、デジタル信号、アナログ信号の優先順位で信号を選び出力します。

COAXx（コアキシャル）（Auto）/OPTx（オプティカル）（Auto）：
デジタル入力が割り当てられている入力に働きます（☞ 45 ページ）。このときは、デジタル信号、アナログ信号の有無を検索します。複数の種類の信号を検知したときは、デジタル信号、アナログ信号の優先順位で信号を選び出力します。HDMI 入力端子から入力される信号は出力されません。

Analog（アナログ）：
この設定のときはアナログ信号を出力します。HDMI 入力端子、デジタル入力端子から入力される信号は出力されません。

デジタル入力モードを DTS、PCM に固定する

デジタル入力端子が設定されていない入力ソースの場合は設定できません（Analog（アナログ） と表示されます）（☞ 45 ページ）。DTS や PCM 信号の再生中にノイズや曲間の頭切れが気になる場合は、設定することをおすすめします。デジタル入力を DTS または PCM に固定することができます。



DIGITAL INPUT

1 DIGITAL（デジタル） INPUT（インプット） ボタンを 3 秒以上押し続ける

表示部に現在の入力モード「Auto（オート）」が表示されます。

2 「Auto（オート）」表示中に DIGITAL INPUT ボタンを（くり返し）押して、デジタル入力モードを設定する

Auto（オート）：
デジタル信号が入力されていないときは、アナログ信号を再生します。

PCM
Auto で CD などの PCM の曲間で頭切れが気になる場合に選択してください。PCM 以外の音声が入力されても音は出ません。

DTS：
Auto で DTS-CD を再生するとき、DTS 信号を識別して読み取る間や、CD の早送り、早戻しをするときのノイズが気になる場合に選択してください。DTS-HD 以外の DTS 音声を再生できます。DTS 以外の音声が入力されても音は出ません。

ご注意

DTS 対応の CD や LD を再生するときは、必ず「Auto」または「DTS」を選択してください。「PCM」を選択すると、ノイズが出力されます。

本機のリモコンで他の製品を操作する

本機に付属のリモコン（RC-719M）で、他社の製品を操作したり、連続した操作を学習させることができます。操作するには、次の 3 つの方法があります。

- 他機（DVD、テレビ、ビデオなど）のリモコンコードを登録する
- 他機のリモコンから指定した操作を学習させる（☞ 107 ページ）
- マクロ機能を使って連続した操作を学習させる（☞ 108 ページ）

本機に付属のリモコンに登録されているコードについて

REMOTE MODE ボタンには、あらかじめ下記機器のコードが登録されていますので、これらの機器が操作できます。お好みで他の機器のコードを登録することもできます。登録のしかたについて詳しくは本ページおよび 96 ページをご覧ください。

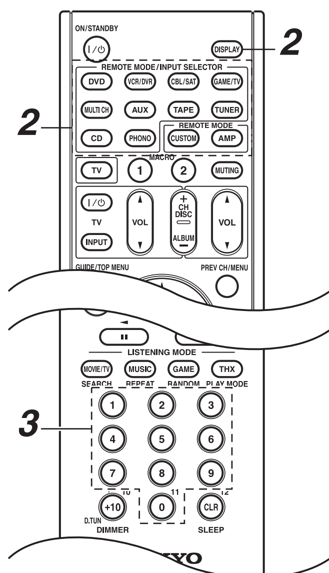
DVD　**DVD ボタン**：オンキヨー製 DVD プレーヤー
（101 ページをご覧ください。）

CD　**CD ボタン**：オンキヨー製 CD プレーヤー
（104 ページをご覧ください。）

TAPE　**TAPE ボタン**：オンキヨー製カセットデッキ
（106 ページをご覧ください。）

CUSTOM　**CUSTOM ボタン**：オンキヨー製 RI ドック
（105 ページをご覧ください。）

リモコンコードを登録する



1　**登録する他機のメーカー別リモコンコード（5 桁）を 97 ～ 99 ページのリモコンコード表で確かめる**

2



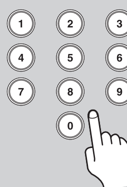
（3秒間）

登録したい REMOTE MODE ボタンを押しながら、DISPLAY ボタンを 3 秒以上押す

REMOTE MODE ボタンが点灯します。

- AMP ボタンには、登録できません。
  TV ボタンには、テレビのコードのみ登録できます。
- REMOTE MODE ボタンは、入力切り換えも兼ねています。REMOTE MODE ボタンにコードを登録するときは、操作したい機器を接続している端子と同じモードにコードを登録してください。
  たとえば、CD プレーヤーを CD 入力端子に接続しているときは、CD ボタンにその CD プレーヤーのコードを登録してください。

3



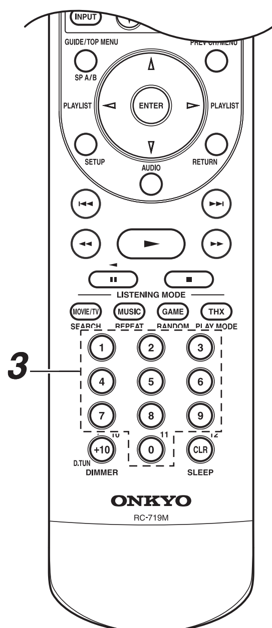
30 秒以内に、数字ボタンで 5 桁のリモコンコードを入力する

REMOTE MODE ボタンが 2 回点滅し、登録が完了します。

- 正しく登録できなかったときは REMOTE MODE ボタンがゆっくりと 1 回点滅します。この場合は、もう一度初めから操作し直してください。

本機のリモコンで他の製品を操作する

オンキヨー製品の RI 専用リモコンコードを登録する



1 本機とオンキヨー製機器が RI ケーブルとオーディオ用ピンコードでアナログ接続されていることを確認する（☞ 37 ページ）

2 登録したい REMOTE MODE ボタンを押しながら、DISPLAY ボタンを 3 秒以上押す

REMOTE MODE ボタンが点灯します。

3 数字ボタンで REMOTE MODE ボタンに RI 専用リモコンコードを登録する



DVD ボタン：
31612：オンキヨー製 DVD プレーヤーの RI 専用リモコンコード

CD ボタン：
71327：オンキヨー製 CD プレーヤーの RI 専用リモコンコード

TAPE ボタン：
42157：オンキヨー製カセットデッキの RI 専用リモコンコード（お買い上げ時）

4 本機のリモコン受光部に向けて各機器を操作する

直接オンキヨー製機器を操作するリモコンコードを登録するときは、下記のコードを登録してください。

DVD ボタン：
30627：オンキヨー製 DVD プレーヤーのリモコンコード（お買い上げ時）

CD ボタン：
71817：オンキヨー製 CD プレーヤーのリモコンコード（お買い上げ時）

ご注意

- オンキヨー製 MD レコーダー、CD レコーダー、RI ドックを TAPE 端子に接続しているとき、または RI ドックを GAME/TV 端子に接続しているときは、接続した機器に合わせて入力表示を切り換える必要があります（☞ 47 ページ）。

REMOTE MODE ボタンを初期設定（お買い上げ時の状態）に戻すには

REMOTE MODE ボタンを初期設定（お買い上げ時の状態）に戻すには以下の操作をしてください。

1. 初期設定に戻したい REMOTE MODE ボタンを押しながら、AUDIO ボタンを 3 秒以上押します。
2. 30 秒以内にもう一度 REMOTE MODE ボタンを押すと、REMOTE MODE ボタンが 2 回点滅して初期設定に戻ります。

リモコンを初期設定（お買い上げ時の状態）に戻すには

リモコンを初期設定（お買い上げ時の状態）に戻すには以下の操作をしてください。

1. AMP ボタンを押しながら、AUDIO ボタンを 3 秒以上押します。
2. 30 秒以内にもう一度 AMP ボタンを押すと、AMP ボタンが 2 回点滅して初期設定に戻ります。

リモコンコード表

複数のコード番号があるときは、1 つずつ登録し、機器に合った方を選んでください。

- 形式、年式によって使用できないものがあります。
- 機種によっては操作できないもの、または限られた機能しか操作できないものがあります。

■ 衛星放送チューナー / ケーブルテレビチューナー

ブランド名	コード番号
DX アンテナ	01500
富士通ゼネラル	01497
日立	00008, 00749, 00819, 01284
LG	00144, 01414
NEC	01496
パナソニック	00000, 00008, 00107, 00144, 01488, 00247, 00701, 00847, 01304
フィリップス	00317, 00817, 01305, 00099, 00173, 00200, 00722, 00749, 00775, 00819, 00847, 00853, 00887, 01076, 01114, 01142, 01442, 01672, 01749
パイオニア	00144, 00533, 00877, 01021, 01500, 01877, 00329, 00853, 01142, 01308, 01442
サムスン	00000, 00144, 01060, 01666, 00853, 01108, 01142, 01206, 01276, 01377, 01442, 01458, 01570
Scientific Atlanta	00000, 00008, 00237, 00277, 00877, 01877
ソニー	01006, 01460, 00639, 00847, 00853, 01558, 01639, 01640
住友電工	01500
東芝	00000, 01509, 00749, 00790, 01284, 01749
フナイ	01377
ヒューマックス	01176, 01427, 01808
ビクター /JVC	00492, 00775, 01775
ケンウッド	00853
マランツ	00200
マスプロ	00173
三菱	00749
ティアック	01251
ユニデン	00722

■ MD レコーダー

ブランド名	コード番号
デノン	70873
ケンウッド	70681, 70826
オンキヨー	70868, 71808
シャープ	70861
ソニー	70185, 70490
ヤマハ	70490, 70888

■ CD プレーヤー

ブランド名	コード番号
アイワ	70157
デノン	70003, 70034, 70626, 70766, 70873
日立	70032
インテグラ	70101, 70102, 70138, 70381, 70868, 71322, 71323, 71327, 71808, 71817
ビクター /JVC	70032, 70072
ケンウッド	70000, 70028, 70029, 70036, 70037, 70157, 70190, 70626, 70681, 70826
マランツ	70029, 70038, 70157, 70180, 70435, 70626
オンキヨー	70101, 70102, 70138, 70381, 70868, 71322, 71323, 71327, 71808, 71817
パナソニック	70029, 70303, 70388, 70752
フィリップス	70157, 70274, 70626
パイオニア	70032, 70101, 71062, 71087
サンスイ	70000, 70157
サンヨー	70000, 70087
シャープ	70034, 70037, 70180, 70861
ソニー	70000, 70100, 70185, 70490, 71364
Tascam	70420
ティアック	70180, 70420, 70435, 70490
テクニクス	70029, 70303
ヤマハ	70032, 70036, 70490, 70868, 70888, 71292

■ CD レコーダー

ブランド名	コード番号
ソニー	70000, 70100, 71364
ティアック	70420
ヤマハ	70888, 71292

■ カセットデッキ

ブランド名	コード番号
アイワ	40029, 40197
デノン	40076
ビクター /JVC	40244
ケンウッド	40070
マランツ	40029
オンキヨー	40100, 40135, 40136, 40150, 40282, 40362, 40456, 40520, 42157
パナソニック	40229
フィリップス	40029, 40229
パイオニア	40027
サンスイ	40029
ソニー	40243
テクニクス	40229
ビクター	40244
ヤマハ	40097

本機のリモコンで他の製品を操作する

■ テレビ

ブランド名	コード番号
BenQ	11756
デノン	10145
富士通ゼネラル	10683, 10853, 10683
フナイ	10000, 10171, 10180, 11271, 11394
日立	10000, 10017, 10037, 10047, 10051, 10054, 10056, 10092, 10145, 10150, 10156, 10178, 11145, 11156, 11256, 11484, 11576, 11643, 11691
イイヤマ	10890
ビクター /JVC	10053, 10054, 10093, 10160, 10463, 10650, 10683, 10731, 11253, 11428, 10250
ケンウッド	10180
LG	10037, 10054, 10056, 10060, 10178, 10856, 11178, 11265, 11663, 11758, 11768
マランツ	10037, 10054, 10704, 11398, 11454
三菱	10037, 10056, 10093, 10150, 10154, 10160, 10178, 10180, 10236, 10250, 10836, 11250
ナショナル	10051, 10226
NEC	10047, 10051, 10053, 10056, 10154, 10156, 10178, 10661, 10704, 11398, 11704
オンキヨー	11807
オリオン	10017, 10037, 10178, 10180, 10236, 10463, 11463
パナソニック	10000, 10037, 10051, 10054, 10156, 10226, 10236, 10250, 10650, 10853, 11271, 11480, 11636, 11650
フィリップス	10000, 10017, 10037, 10051, 10054, 10056, 10092, 10171, 10178, 10605, 10690, 11254, 11454, 11506, 11756
パイオニア	10037, 10166, 10679, 10866, 11260, 11398, 11457
サムスン	10017, 10037, 10047, 10054, 10056, 10060, 10090, 10092, 10093, 10154, 10156, 10178, 10226, 10702, 10766, 10814, 11060, 11235
サンヨー	10000, 10037, 10047, 10054, 10145, 10154, 10156, 10171, 10180, 10463, 10704, 11755
シャープ	10053, 10054, 10093, 10180, 10650, 10818, 11093, 11393, 11602
ティアック	10037, 10154, 10171, 10178, 10706, 11755
テクニクス	10051, 10054, 10226, 10250, 10650
東芝	10060, 10093, 10145, 10150, 10154, 10156, 10166, 10650, 10845, 11145, 11156, 11256, 11265, 11356, 11656, 11704
ヤマハ	10650, 11576

■ ビデオデッキ

ブランド名	コード番号
アイワ	20000, 20032, 20037,20348, 21291
キャノン	20035
デノン	20042, 20081
富士通	20000, 20037, 20045
富士通ゼネラル	20037
フナイ	20000, 20037
日立	20000, 20035, 20037, 20042, 20045, 20081, 20089
ヒューマックス	20739
ビクター /JVC	20045, 20067, 20081, 20184, 21162, 21279, 20067
ケンウッド	20038, 20067
LG	20000, 20037, 20038, 20042, 20045, 20225, 21237
マランツ	20035, 20038, 20081
三菱	20000, 20042, 20043, 20060, 20067, 20081, 20642, 20807, 21343
ナショナル	20226
NEC	20035, 20037, 20038, 20067, 21287
オンキヨー	20222
オリオン	20000, 20121, 20184, 20348, 21479
パナソニック	20000, 20035, 20162, 20225, 20226, 20614, 20616, 21035, 21062, 21162, 21244, 21293, 21562
フィリップス	20000, 20035, 20045, 20081, 20162, 20226, 20616, 20618, 20739
パイオニア	20042, 20067, 20081, 20162
サムスン	20000, 20038, 20045, 20060, 20739, 21014
サンヨー	20000, 20067, 20348, 21330
シャープ	20000, 20032, 20037, 20807
ソニー	20000, 20032, 20033, 20035, 20067, 20226, 20636, 21232, 21296, 21447, 21448, 21972
ティアック	20000, 20037, 20067, 20642
テクニクス	20000, 20035, 20037, 20081, 20162, 20226, 21162
東芝	20000, 20042, 20043, 20045, 20067, 20081, 20828, 20845, 21008, 21145, 21290, 21972, 21996
ヤマハ	20038

■ オンキヨー製 RI ドック

ブランド名	コード番号
オンキヨー	81993, 82990

■ DVD プレーヤー

ブランド名	コード番号
アイワ	30533, 30641
デノン	30490, 30634, 31634
フナイ	30675, 30695, 31268
日立	30573, 30664, 30695, 30713, 31247, 31664
ヒューマックス	30646
インテグラ	30503, 30612, 30627, 31612, 31627, 32901, 32900
ビクター /JVC	30503, 30539, 30558, 30623, 30867, 31164
ケンウッド	30490, 30534
LG	30591, 32902, 30790, 30869
マランツ	30503, 30539, 30675, 31627
三菱	30521, 30713, 31403, 31521
NEC	32902, 30785, 30869
オンキヨー	30503, 30612, 30627, 31612, 31627, 32901, 32900
オリオン	30695, 31233
パナソニック	30490, 30503, 30571, 30703, 31010, 31011, 31362, 31462, 31490, 32903, 31762
フィリップス	30503, 30539, 30585, 30646, 30675, 30854, 31260, 31267, 31340, 31354, 32056, 32904
パイオニア	32906, 30490, 30525, 30571, 30631
サムスン	32905, 30490, 30573, 30744, 30820, 30899, 31044, 31075
サンヨー	30675, 30695, 30713, 31228
シャープ	30630, 30675, 30713, 30752, 31256
ソニー	30533, 30573, 30630, 30864, 31033, 31069, 31070, 31431, 32907, 31533
ティアック	30571, 30675, 30717, 32902, 30759, 30768, 30790, 31227
テクニクス	30490, 30703
東芝	30503, 30539, 30573, 30695, 31045, 31154, 32901
ヤマハ	30490, 30539, 30545, 30646, 31354

■ ブルーレイディスクプレーヤー

ブランド名	コード番号
LG	32902
パナソニック	32903
フィリップス	32904
パイオニア	32906
サムスン	32905
ソニー	32907

■ HD DVD プレーヤー

ブランド名	コード番号
LG	32902
オンキヨー	32901, 32900
東芝	32901

■ DVD レーコーダー

ブランド名	コード番号
デノン	30490
フナイ	30675
日立	31664
ヒューマックス	30646
ビクター /JVC	31164
LG	32902
三菱	31403
パナソニック	30490, 31010, 31011
フィリップス	30646, 31340
パイオニア	30631
サムスン	30490
シャープ	30630, 30675
ソニー	31033, 31069, 31070, 31431
ティアック	31227
ヤマハ	30646

■ テレビ /DVD 一体型、テレビ /VCR 一体型

ブランド名	コード番号
LG	10178, 20037, 21237
三菱	10093, 20043, 20081, 20807
オリオン	10463, 21479, 30695
パナソニック	10051, 10250, 20035, 20162, 21035, 21162, 31490
フィリップス	10037, 20081, 30539, 30854, 31260
シャープ	10093, 20037, 20807
ソニー	10000, 20000, 20032,21232, 21296, 11454
ティアック	10171, 10178, 20000, 20037, 20642
アイワ	20000
フナイ	20000, 31268
日立	20000, 30713, 31247
サムスン	21014, 30899
サンヨー	21330
テクニクス	20081
東芝	20845, 21145, 30695

本機のリモコンで他の製品を操作する

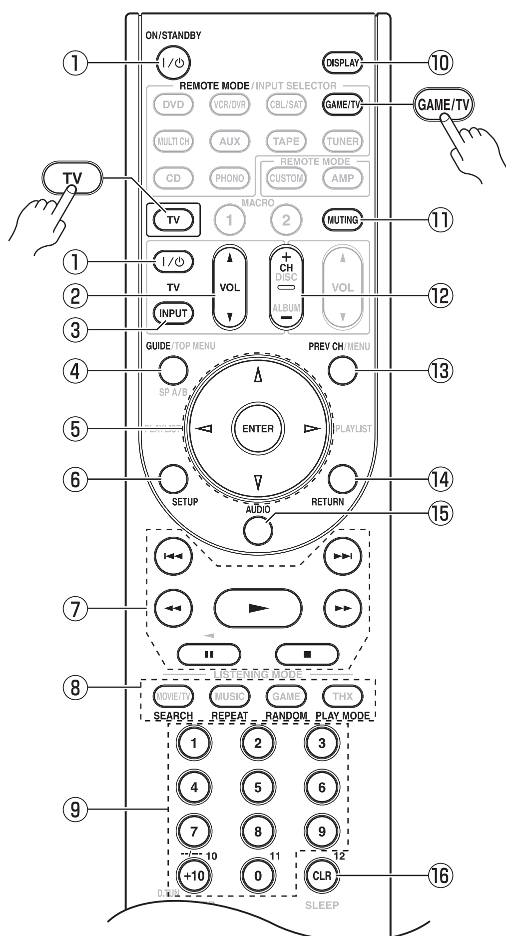
テレビを操作する

お手持ちのテレビ（またはテレビとDVDプレーヤーやビデオデッキの複合機など）のリモコンコードを登録したREMOTE MODEボタンを押してから、各操作ボタンを押してください。

TV、GAME/TVボタンには、あらかじめRIHDに対応したテレビを連動操作するリモコンコードが登録されています。本機とRIHD[*1]対応テレビをHDMI接続しているときに操作できます。うまく操作できないときは、テレビのリモコンコードを登録して直接テレビを操作してください。

- 製品によっては動作しないボタンがあります。また、製品を操作できない場合もあります。

最初にTVボタンを押してください



① ON/STANDBY, TV（I/⏻）ボタン
テレビの電源オン / スタンバイを切り換えます。

② TV VOL ▲/▼ ボタン
テレビの音量を調整します。

③ TV INPUT ボタン
テレビの入力を切り換えます。

④ GUIDE ボタン *
プログラムガイドを表示します。

⑤ ▲/▼/◄/►/ENTER ボタン *
ナビゲーション操作時、▲/▼/◄/►（上下左右）ボタンを押して項目を選択します。中央のENTERボタンを押すと、選択した項目を確定します。

⑥ SETUP ボタン *
設定メニューを表示します。

⑦ 再生操作ボタン *
テレビとビデオデッキの複合機などの ►（再生）■（停止）◄◄/►►（巻戻し / 早送り）❚❚（一時停止）I◄◄/►►I（スキップダウン / スキップアップ）などを行います。

⑧ SEARCH/REPEAT/RAMDOM/PLAY MODE ボタン *
カラーボタンまたはA、B、C、Dボタンの働きをします。

⑨ 数字ボタン
番号を入力します。機器によって「0」ボタンは「11」ボタンの働きを、「+ 10」ボタン * は「– ・ ––」ボタンの働きをします。

⑩ DISPLAY ボタン
情報を表示します。

⑪ MUTING ボタン
テレビのミューティング機能をオン / オフします。

⑫ CH + / –ボタン
チャンネルを選択します。

⑬ PREV CH ボタン
前のチャンネルを選びます。

⑭ RETURN ボタン *
設定メニューを終了します。

⑮ AUDIO ボタン *
音声言語や音声フォーマットを選択します。

⑯ CLR ボタン *
入力した項目を取り消します。
機器によっては、「12」（数字）ボタンの働きをします。

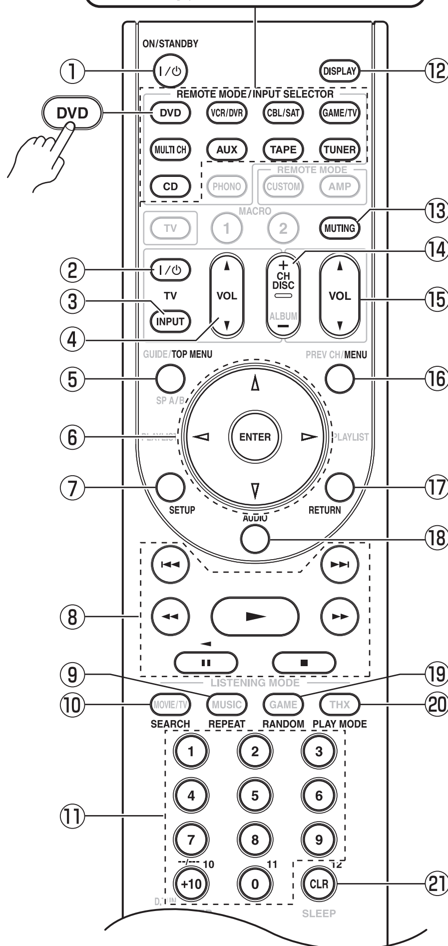
* の付いているボタンは、RIHD機能では使用できません。

*1 本機が提供するRIHD機能は、HDMI規格で定められているCEC（Consumer Electronics Control）システム制御機能を使用して、CECに対応した機器と連動する機能です。RIHD対応機器以外での動作は保証いたしません。

DVD プレーヤー、DVD レコーダーを操作する

お手持ちの DVD プレーヤー（DVD レコーダー、HD DVD、ブルーレイまたは DVD/ テレビなどの複合機）のリモコンコードを登録した REMOTE MODE ボタンを押してから、各操作ボタンを押してください。DVD REMOTE MODE ボタンには、あらかじめオンキヨー製 DVD プレーヤーのコードが登録されています。それ以外の機器のリモコンコードの登録のしかたは、95 ページをご覧ください。

- 製品によって、あるいは再生するディスクによっては動作しないボタンがあります。また、製品を操作できない場合もあります。



① **ON/STANDBY ボタン**
操作する機器の電源オン / スタンバイを切り換えます。

② **TV（I/⏻）ボタン**
テレビの電源オン / スタンバイを切り換えます。

③ **TV INPUT ボタン**
テレビの入力を切り換えます。

④ **TV VOL ▲/▼ ボタン**
テレビの音量を調整します。

⑤ **TOP MENU ボタン**
トップメニュー画面やタイトルを表示します。

⑥ **▲/▼/◄/►/ENTER ボタン**
DVD のメニュー操作時、▲/▼/◄/► 上下左右）ボタンを押して項目を選択します。中央の ENTER ボタンを押すと、選択した項目を確定します。

⑦ **SETUP ボタン**
設定メニューを表示します。

⑧ **再生操作ボタン**
►（再生）■（停止）◄◄/►►（巻戻し / 早送り）❚❚（一時停止）❙◄◄/►►❙（スキップダウン / スキップアップ）などを行います。

⑨ **REPEAT ボタン**
くり返し再生をします。

⑩ **SEARCH ボタン**
タイトル、チャプター、トラック番号や時間をサーチします。

⑪ **数字ボタン**
チャプター、トラック番号などを選択します。機器によって「+ 10」ボタンは、「– ・ ––」ボタンの働きをします。

⑫ **DISPLAY ボタン**
DVD プレーヤーの表示部に表示される情報を切り換えます。

⑬ **MUTING ボタン**
AV センターのミューティング機能をオン / オフします。

⑭ **DISC + / –、CH + / –ボタン**
DVD チェンジャーのディスクを選択します。または、テレビのチャンネルを選択します。

⑮ **VOL ▲/▼ ボタン**
AV センターの音量を調整します。

⑯ **MENU ボタン**
DVD のメニュー画面を表示します。

⑰ **RETURN ボタン**
DVD プレーヤーのメニュー画面の終了、または 1 つ前の画面に戻ります。

⑱ **AUDIO ボタン**
音声言語や音声フォーマットを選択します。

⑲ **RAMDOM ボタン**
ランダム再生をします。

⑳ **PLAY MODE ボタン**
プレイモードのある機器に使用します。

㉑ **CLR ボタン**
入力した項目を取り消します。

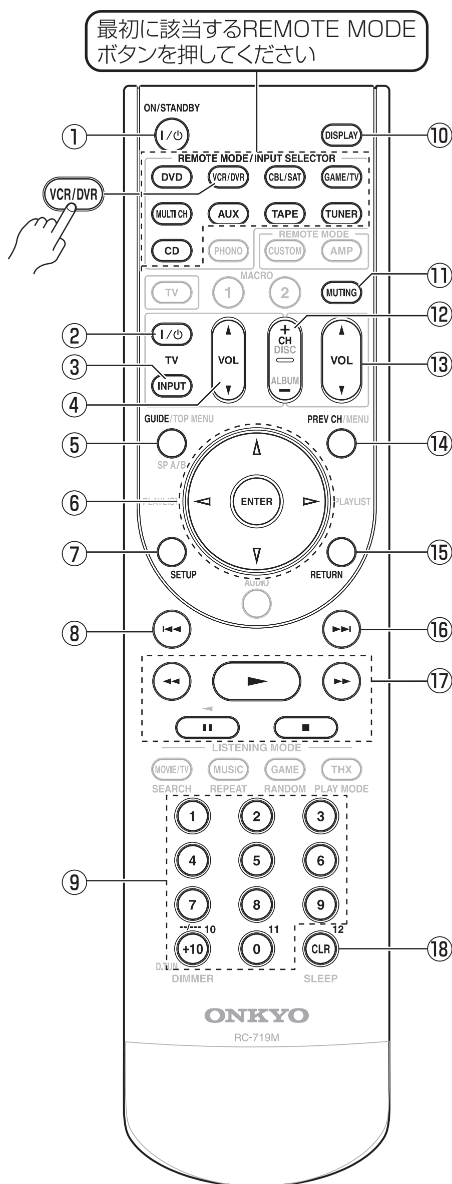
- A、B、C、D ボタンまたはカラーボタンのある HD DVD またはブルーレイプレーヤーのコードを登録したときは、SEARCH、REPEAT、RANDOM、PLAY MODE ボタンは、A、B、C、D ボタンまたはカラーボタンとして働きます。この場合、リピート再生、ランダム再生、プレイモード選択は操作できません。

ビデオデッキを操作する

お手持ちのビデオデッキ（ビデオデッキとテレビの複合機など）のリモコンコードを登録した REMOTE MODE ボタンを押してから、各操作ボタンを押してください。

リモコンコードの登録のしかたは、95 ページをご覧ください。

- 製品によっては動作しないボタンがあります。また、製品を操作できない場合もあります。



① ON/STANDBY ボタン
操作する機器の電源オン / スタンバイを切り換えます。

② TV（I/⏻）ボタン
テレビの電源オン / スタンバイを切り換えます。

③ TV INPUT ボタン
テレビの入力を切り換えます。

④ TV VOL ▲/▼ ボタン
テレビの音量を調整します。

⑤ GUIDE ボタン
プログラムガイドやナビゲーションを表示します。

⑥ ▲/▼/◄/►/ENTER ボタン
▲/▼/◄/►（上下左右）ボタンを押して項目を選択します。中央の ENTER ボタンを押すと、選択した項目を確定します。

⑦ SETUP ボタン
設定メニューを表示します。

⑧ I◄◄ ボタン
スキップダウンをします。

⑨ 数字ボタン
番号を入力します。機器によって「0」ボタンは「11」ボタンの働きを、「+ 10」ボタンは「– · ––」ボタンの働きをします。

⑩ DISPLAY ボタン
情報を表示します。

⑪ MUTING ボタン
本機のミューティング機能をオン / オフします。

⑫ CH + / –ボタン
チャンネルを選択します。

⑬ VOL ▲/▼ ボタン
本機の音量を調整します。

⑭ PREV CH ボタン
前のチャンネルを選びます。

⑮ RETURN ボタン
メニュー画面の終了、または 1 つ前の画面に戻ります。

⑯ ►►I ボタン
スキップアップします。

⑰ 再生操作ボタン
►（再生）■（停止）◄◄/►►（巻戻し / 早送り）❚❚（一時停止）などを行います。

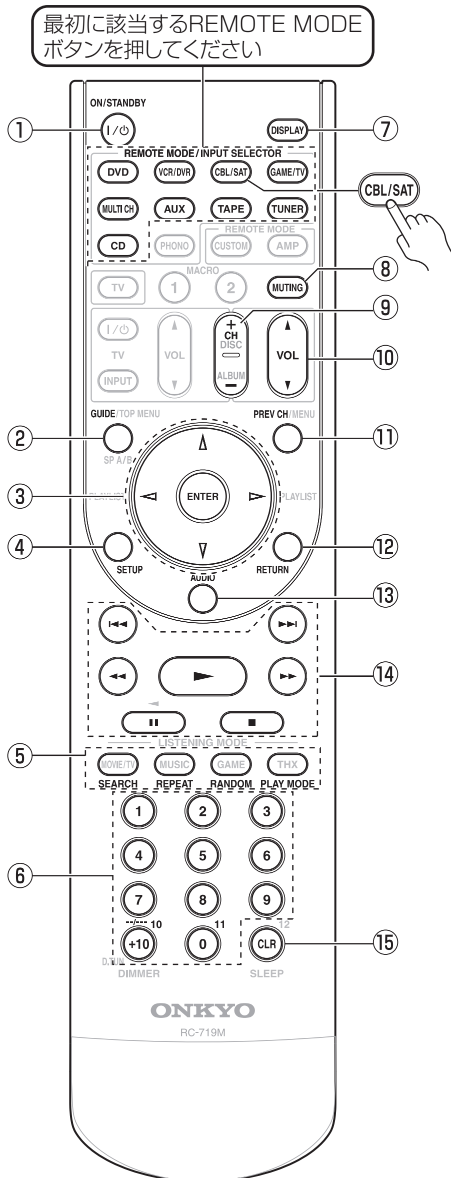
⑱ CLR ボタン
入力した項目を取り消します。
機器によっては、「12」（数字）ボタンの働きをします。

衛星放送チューナーやケーブルテレビチューナーを操作する

お手持ちの衛星放送チューナーやケーブルテレビチューナー（ビデオデッキとテレビの複合機など）のリモコンコードを登録した REMOTE MODE ボタンを押してから、各操作ボタンを押してください。

リモコンコードの登録のしかたは、95 ページをご覧ください。

- 製品によっては動作しないボタンがあります。また、製品を操作できない場合もあります。



① **ON/STANDBY ボタン**
操作する機器の電源オン / スタンバイを切り換えます。

② **GUIDE ボタン**
プログラムガイドを表示します。

③ **▲/▼/◄/►/ENTER ボタン**
ナビゲーション操作時、▲/▼/◄/►（上下左右）ボタンを押して項目を選択します。中央の ENTER ボタンを押すと、選択した項目を確定します。

④ **SETUP ボタン**
設定メニューを表示します。

⑤ **SEARCH/REPEAT/RAMDOM/PLAY MODE ボタン**
カラーボタンまたは A、B、C、D ボタンの働きをします。

⑥ **数字ボタン**
番号を入力します。機器によって「0」ボタンは「11」ボタンの働きを、「+ 10」ボタンは「－・－－」ボタンの働きをします。

⑦ **DISPLAY ボタン**
情報を表示します。

⑧ **MUTING ボタン**
AV センターのミューティング機能をオン / オフします。

⑨ **CH + / －ボタン**
チャンネルを選択します。

⑩ **VOL ▲/▼ ボタン**
AV センターの音量を調整します。

⑪ **PREV CH ボタン**
前のチャンネルを選びます。

⑫ **RETURN ボタン**
メニューを終了します。

⑬ **AUDIO ボタン**
音声言語や音声フォーマットを選択します。

⑭ **再生操作ボタン**
►（再生）■（停止）◄◄/►►（巻戻し / 早送り）❚❚（一時停止）❘◄◄/►►❘（スキップダウン / スキップアップ）などを行います。

⑮ **CLR ボタン**
入力した項目を取り消します。

本機のリモコンで他の製品を操作する

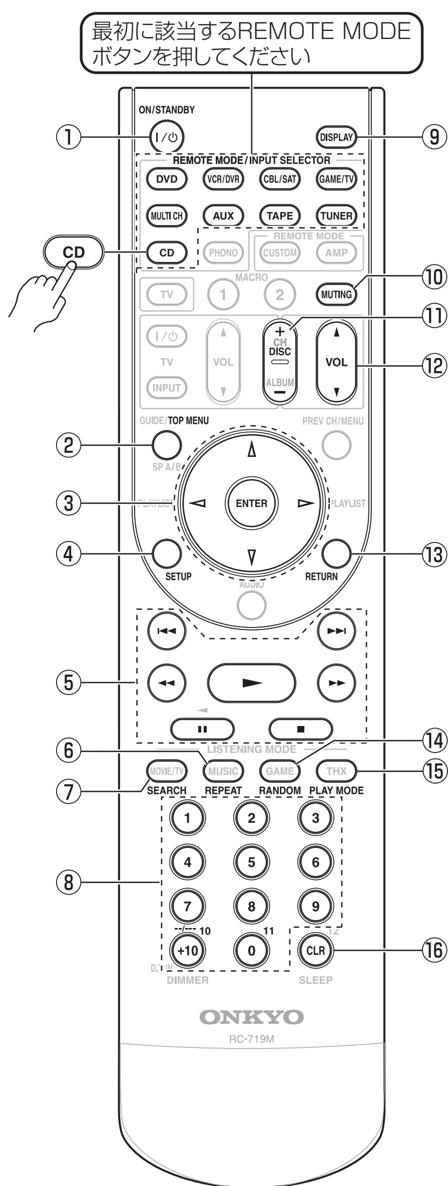
CD プレーヤー、MD レコーダー、CD レコーダーを操作する

お手持ちの CD プレーヤー、MD レコーダー、CD レコーダーのリモコンコードを登録した REMOTE MODE ボタンを押してから、各操作ボタンを押してください。

CD ボタンには、あらかじめオンキヨー製 CD プレーヤーのリモコンコードが登録されています。

リモコンコードの登録のしかたは、95 ページをご覧ください。

- 製品によっては動作しないボタンがあります。また、製品を操作できない場合もあります。



① ON/STANDBY ボタン
操作する機器の電源オン / スタンバイを切り換えます。

② TOP MENU ボタン
メニューを表示します。

③ ▲/▼/◄/►/ENTER ボタン
ナビゲーション操作時、▲/▼/◄/►（上下左右）ボタンを押して項目を選択します。中央の ENTER ボタンを押すと、選択した項目を確定します。

④ SETUP ボタン
オンキヨー製 CD プレーヤーの設定を表示します。

⑤ 再生操作ボタン
►（再生）■（停止）◄◄/►►（巻戻し / 早送り）❚❚（一時停止）❙◄◄/►►❙（スキップダウン / スキップアップ）などを行います。

⑥ REPEAT ボタン
くり返し再生をします。

⑦ SEARCH ボタン
再生したい場所をサーチします。

⑧ 数字ボタン
番号を入力します。機器によって「+ 10」ボタンは、「− ・ −−」ボタンの働きをします。

⑨ DISPLAY ボタン
情報を表示します。

⑩ MUTING ボタン
本機のミューティング機能をオン / オフします。

⑪ DISC + / −ボタン
CD チェンジャーのディスクを選択します。

⑫ VOL ▲/▼ ボタン
本機の音量を調整します。

⑬ RETURN ボタン
メニューを終了します。

⑭ RAMDOM ボタン
ランダム再生をします。

⑮ PLAY MODE ボタン
プレイモードのある機器に使用します。

⑯ CLR ボタン
入力した項目を取り消します。

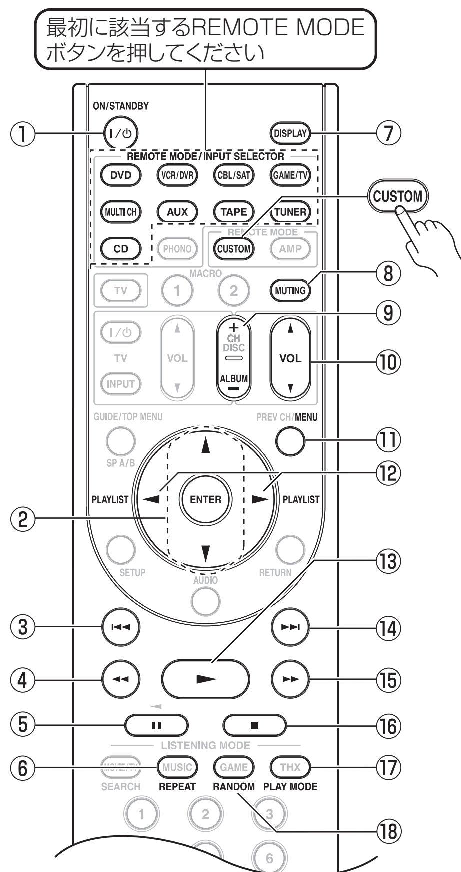
オンキヨー製 RI ドックを操作する

オンキヨー製 RI ドックのリモコンコードを登録した REMOTE MODE ボタンを押してから、各操作ボタンを押してください。CUSTOM ボタンには、あらかじめオンキヨー製 RI ドックのリモコンコードが登録されています。リモコンコードの登録のしかたは、95 ページをご覧ください。

- 製品によっては動作しないボタンがあります。また、製品を操作できない場合もあります。

操作の前にご確認ください

- RI ドックを TAPE IN または GAME/TV IN L/R 端子に接続してください。
- RI ドックの RI MODE 切換スイッチを「HDD」または「HDD/DOCK」に切り換えてください。
- 本機の入力表示を「DOCK」にしてください（☞ 47 ページ）。
- RI ドックの取扱説明書もご覧ください。



① **ON/STANDBY ボタン**
RI ドックにセットした iPod の電源を入れたり、スタンバイ状態にします。
- 1 回押しても働かないときは、もう一度押してください。

② **▲/▼/ENTER ボタン ***
メニューを操作します。中央の ENTER ボタンを押すと、選んだメニューを確定します。

③ **⏮ ボタン**
再生中の曲を頭から再生します。2 回押すと前の曲に戻ります。

④ **◄◄ ボタン**
曲を巻戻します。

⑤ **❚❚ ボタン**
再生を一時停止します。
第 3 世代の iPod では、再生 / 一時停止をします。

⑥ **REPEAT ボタン ***
リピートモードを切り換えます。

⑦ **DISPLAY ボタン ***
iPod のバックライトを 30 秒間点灯させます。

⑧ **MUTING ボタン**
本機のミューティング機能をオン / オフします。

⑨ **ALBUM ＋ / －ボタン ***
アルバムを選択します。

⑩ **VOL ▲/▼ ボタン**
本機の音量を調整します。

⑪ **MENU ボタン ***
メニューを表示します。

⑫ **PLAYLIST◄/► ボタン ***
iPod のプレイリストを選択します。

⑬ **► ボタン**
再生を始めます。
第 3 世代の iPod では、再生 / 一時停止をします。

⑭ **►►I ボタン**
次の曲を選びます。

⑮ **►► ボタン**
曲を早送りします。

⑯ **■ ボタン**
再生を停止します。

⑰ **PLAY MODE ボタン**
プレイモードのある機器に使用します。

⑱ **RAMDOM ボタン ***
シャッフルモードを切り換えます。

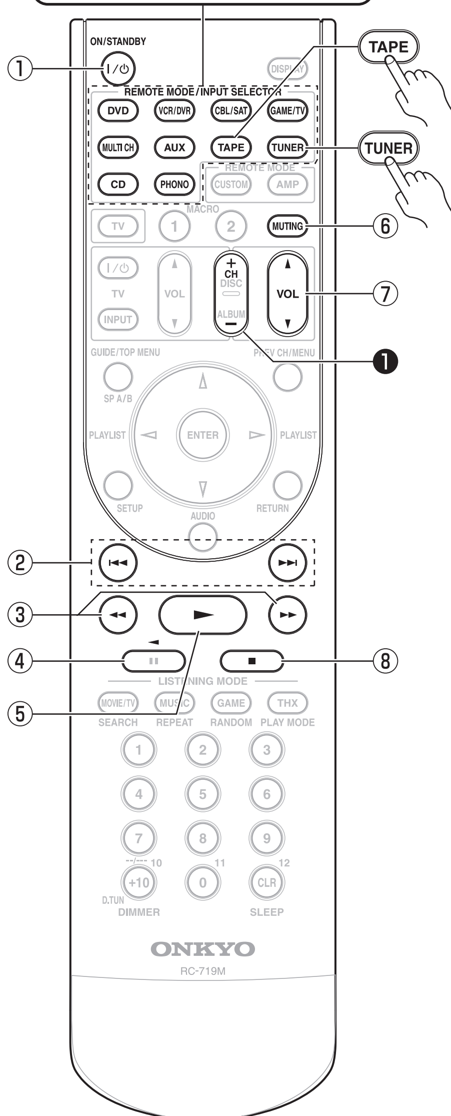
* の付いているボタンは、第 3 世代 iPod では使用できません。
iPod は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。

本機のリモコンで他の製品を操作する

カセットデッキ / オンキョー製チューナーを操作する

TAPE ボタンおよび TUNER ボタンには、あらかじめオンキヨー製カセットデッキ・チューナーの RI 専用リモコンコードが登録されています。
これ以外の機器のリモコンコードの登録のしかたは、95 ページをご覧ください。
お手持ちのカセットデッキのリモコンコードを登録した REMOTE MODE ボタンや TUNER ボタンを押してから、各操作ボタンを押してください。

- 製品によっては動作しないボタンがあります。また、製品を操作できない場合もあります。
- ダブルカセットデッキの場合は、デッキ B のみ操作できます。



■ カセットデッキ操作

① **ON/STANDBY ボタン**
操作する機器の電源オン / スタンバイを切り換えます。

② **⏮/⏭ ボタン**
⏮ ボタンは、前の曲の頭出しをします。再生中は、再生している曲の始めに戻ります。⏭ ボタンは、次の曲の頭出しをします。

③ **◀◀/▶▶ ボタン**
◀◀ ボタンは、巻き戻しをします。▶▶ ボタンは、早送りをします。

④ **◀ ボタン**
テープの B 面（裏面）を再生します。

⑤ **▶ ボタン**
テープの A 面（表面）を再生します。

⑥ **MUTING ボタン**
本機のミューティング機能をオン / オフします。

⑦ **VOL ▲/▼ ボタン**
本機の音量を調整します。

⑧ **■ ボタン**
再生を停止します。

!ヒント

- 本機に RI 接続しているオンキヨー製カセットデッキは、AMP モードでも操作できます。

■ チューナー操作

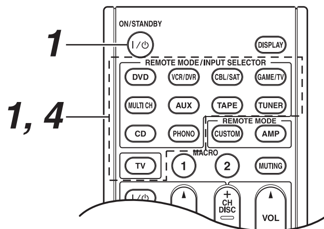
❶ **CH ＋ / －ボタン**
チューナーのプリセット番号を選択します。

!ヒント

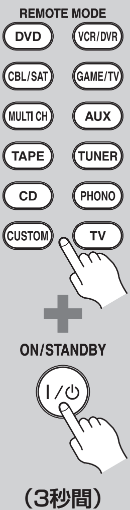
- チューナーを操作したいときは、本機の電源を ON した後に、TUNER ボタンを繰り返し押して、AM/FM のバンドを切り換えてください。

他機のリモコンから指定した操作を学習させる

他機のリモコンの操作を1つずつ転送し、本機のリモコンに学習させることができます。
95 ページでリモコンコードを登録した後で、不足している操作や追加したい操作を 1 つずつ学習させると便利です。
たとえば、他機の CD プレーヤーのリモコンから再生機能を転送し、本機リモコンの CD モードの再生ボタンに学習させることができます。



1



学習させたい REMOTE MODE ボタンを押しながら、ON/STANDBY ボタンを REMOTE MODE ボタンが点灯するまで（約 3 秒）押す

2

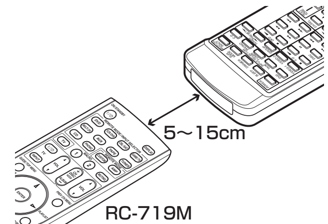
本機のリモコン（RC-719M）の学習させたい操作ボタンを押す

REMOTE MODE ボタン、MACRO 1 ～ 2 ボタン以外のボタンから選んでください。

3

学習させる他機のリモコンボタンを押す

他機のリモコンと本機のリモコン（RC-719M）を 5cm ～ 15cm 離して置き、他機のリモコンボタンを本機のリモコンに向かって押し続けます。



正しく学習できると REMOTE MODE ボタンが 2 回点滅します。

4

別の操作ボタンを学習する場合は、手順 *2*、*3* をくり返す

学習を終了する場合は、REMOTE MODE ボタンを押す。REMOTE MODE ボタンが 2 回点滅します。

ご注意

- REMOTE MODE ボタン、MACRO1 ボタンと MACRO2 ボタンは新しい操作を学習できません。
- 本機のリモコンは、基本的に70～90 個の操作を学習できます。他機のリモコンによっては、ひとつのボタンで多くのメモリーを使用する場合があります。その場合、学習できる操作は 70 ～ 90 個より少なくなります。
- 本機のリモコンは、オンキヨー製CDプレーヤー、チューナー、テープデッキ、DVDプレーヤーのコードをすでに記憶しています。これらのボタンに他のコードを記憶させることもできますが、リセットすると元のコードに戻ります（☞ 96 ページ）。
- コードが登録されているボタンに、新しいコードを上書きして記憶する時も同じ手順で操作します。
- 意図した通りに働かず、まったく学習できないリモコンが在るかもしれません。
- 本機のリモコンはほとんどのリモコンと同様に赤外線を利用しています。しかし、リモコンによっては、転送システムの違いによってコードを転送できないものがあります。
- 電池切れなどの理由でリモコンコードが消えてしまった場合のために、他機のリモコンは大切に保管しておいてください。

学習した操作を消去するには

学習した操作を消去するには以下の操作をしてください。

1. 消去したい操作を学習した REMOTE MODE ボタンを押しながら、TV ボタンが点灯するまで（約 3 秒）押します。
2. モード内の学習した操作をすべて消去したいときは、その REMOTE MODE ボタンを押し、学習したボタンごとに消去するときは、そのボタンを押します。REMOTE MODE ボタンが 2 回点滅して学習した操作が消去されます。

本機のリモコンで他の製品を操作する

マクロ機能を使って連続した操作を学習させる

マクロ機能とは

連続した操作を 1 つのボタンに学習させることができます。たとえば、リモコンを使って本機に接続した CD プレーヤーを再生するには以下のようなボタン操作が必要となります。

1. **AMP ボタンを押す**
   リモコンをアンプモードにします。
2. **ON/STANDBY ボタンを押す**
   本機の電源を入れます。
3. **CD ボタンを押す**
   本機の入力を CD に切り換えます。
4. **► ボタンを押す**
   CD プレーヤーを再生します。

これらの操作を下記の手順でマクロ学習させると、1 つのボタンで操作することができます。

マクロを学習させる

MACRO1 ～ 2 ボタンにそれぞれマクロを学習させることができます。1 つのマクロに対して 32 個までの操作が学習できます。

1

(3秒間)

AMP ボタンを押しながら、AMP ボタンが点灯するまで MACRO 1（または 2）ボタンを（約 3 秒）押す

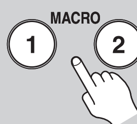
2

記憶させたい操作ボタンを操作順に連続して押す

例 : CD を再生する

ON/STANDBY ボタンを押す
↓
CD ボタンを押す
↓
► ボタンを押す

3



手順 *1* で押した MACRO ボタンを押す

学習が完了します。

- 32 個目の操作を学習するとリ AMP ボタンが点滅し、自動的に学習を完了します。32 個よりも少ない操作を学習させるときは、最後に MACRO ボタンを押します。

ご注意

- マクロを学習させた後、そこに含まれるボタンに他の操作を上書き学習させると、誤動作の原因になります。再度マクロ学習を行ってください。
- 32 個以上の操作を学習させることはできません。

●どの MACRO ボタンに何の操作を学習させたかをメモしておくことをおすすめします。

マクロを実行する

1



操作したい MACRO ボタンを押す

操作を学習させた MACRO ボタンが使用できます。

マクロを消去する

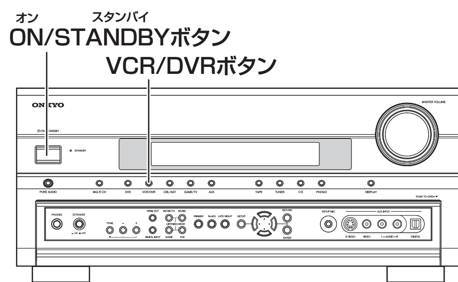
1. **AMP ボタンを押しながら、消去する MACRO ボタンを約 3 秒押す**
   AMP ボタンが点灯します。
2. **もう一度 MACRO ボタンを押して消去する**
   AMP ボタンが 2 回点滅します。

困ったときは

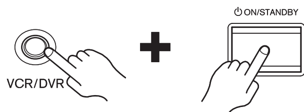
まず下記の内容を点検してみてください。接続した他機に原因がある場合もありますので、他機の取扱説明書も参照しながらあわせてご確認ください。
オンキヨーホームページからも、製品の取り扱い方法や FAQ（よくあるご質問）をお調べいただくことができます。
http://www.jp.onkyo.com/support/
●文章の最後にある数字は参照ページ数です。

!ヒント　修理を依頼される前に

すべての設定をお買い上げ時に戻す

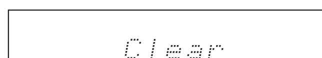


本機が動作しなくなったり、操作ができなくなったときは、本機のマイコンをリセットしてすべての設定をお買い上げ時の状態に戻すことで、トラブルが解消されることがあります。
修理を依頼される前に、下記の手順でマイコンをリセットしてみてください。



電源を入れた状態で VCR/DVR ボタンを押したまま、ON/STANDBY ボタンを押してください。

表示部に「Clear」が表示されて、スタンバイ状態に戻ります。



電源

電源が入らない

- 電源プラグがコンセントから抜けていないか確認してください。
- 一度電源プラグをコンセントから抜き、5 秒以上待ってから再度コンセントに差し込んでください。

電源が切れ、再度電源を入れてもまた切れる

- 保護回路が働いている可能性があります。スピーカーコードがショートしていないかどうかアンプ背面端子、コード、スピーカー背面端子をご確認ください。（17）
  スピーカーコードをアンプ背面から外してもすぐに電源が切れる場合、電源コードをコンセントから抜き、お買い上げ店またはオンキヨー修理窓口にご連絡ください。

音声

音声が出力されない / 小さい

音声信号の設定はされていますか?デジタル音声入力端子の設定を正しく行ってください。（45）
HDMI 端子接続しているときは、HDMI の設定を確認してください。（42）

- 接続コードのプラグは奥まで差し込んでください。
- 接続した機器の入力端子 / 出力端子に間違いがないか確認してください。
- スピーカーコードの ⊕ / ⊖ は正しく接続されているか、スピーカーコードの芯線部分が本機のスピーカー端子の金属部で固定されているか確認してください。（17）
- 入力が正しく選択できているか確認してください。（53）
- ボリューム位置を確認してください。本機は基本的に－∞ dB、－ 81.5dB…＋ 18.0dB まで調整できます。一般のご家庭で － 32.0dB 前後までボリュームを上げていても、正常な範囲です。（53）
- ヘッドホンが接続されているとスピーカーからの音声が出力されません。（54）
- 接続した機器でのデジタル音声出力の設定を確認してください。DVD 対応のゲーム機など、機器によっては初期設定が OFF になっていることがあります。
- フォノイコライザーを内蔵していないレコードプレーヤーは、PHONO IN L/R 端子に接続してください。（33）
- MC カートリッジタイプのレコードプレーヤーをお使いの場合は、昇圧トランスまたはヘッドアンプが必要です。（33）
- デジタル入力モードの設定の確認を行ってください。「DTS」や「PCM」に固定されていると、それ以外の音声を出力しません。（94）

- リスニングモードによっては音声の出力されないスピーカーがあります。
- 簡単スピーカー設定をもう一度行うか、「スピーカーの設定」を手動で行ってください。(48 ～ 50、69 ～ 76)
- HDMI 入力した音声が出力されない場合は、プレーヤー側の出力設定を変更してください。

特定のスピーカーから音が出ない

テスト音は出ますか?

スピーカーの音量レベル調整で、接続したすべてのスピーカーから個別にテスト音が出ているか確認してください。(73)

表示部にスピーカーの表示は出るが、テスト音が出ない

- 音の出ないスピーカーの接続が正しくない可能性があります。
  スピーカーコードの芯線部分が本機のスピーカー端子の金属部で固定されているか確認してください。
  コードが折れ曲がったり損傷していないか確認してください。

テスト音も出ず、表示部にも表示されない

- スピーカーの設定が正しくない可能性があります。もう一度簡単スピーカー設定をするか、「スピーカー環境の設定」を手動で行ってください。(48 ～ 50、69)

テスト音は出るが、音が出ない

- 再生するソースによっては音が出にくいスピーカーがあります。
- サブウーファー音声要素(LFE)の入っていないソフトを再生している場合、サブウーファーから音が出ないことがあります。

表示と違うスピーカーから音が出る

- スピーカーの接続が正しくありません。それぞれのスピーカーが正しい端子に接続されているか確認してください。(16、17)

リスニングモードによっては音が出ないスピーカーがあります

センタースピーカーからしか音が出ない

- テレビや AM 放送などモノラル音源を再生するときに、リスニングモードをドルビープロロジック II またはドルビープロロジック IIx にすると、センタースピーカーに音が集中します。
- リスニングモードが「Mono(モノ)」のときは、設定によってはセンタースピーカーからしか音が出ません。(77、78)

センタースピーカーやサラウンドスピーカーから音が出ない

- リスニングモードが「Stereo(ステレオ)」のときは、センタースピーカーやサラウンドスピーカーから音が出ません。
- リスニングモードが「Mono」のときは、設定によってはセンタースピーカーから音が出ません。(77、78)
- リスニングモードが「Mono」のときは、サラウンドスピーカーから音が出ません。

サラウンドバックスピーカーから音が出ない

- 入力ソースやリスニングモードによっては、サラウンドバックスピーカーの音が出にくい場合があります。

サブウーファーから音が出ない

- 入力ソースにサブウーファー音声要素(LFE)が入っていない場合、サブウーファーから音が出ないことがあります。

希望する信号フォーマットで聴くことができない

次のフォーマットの音声を聴くためには、デジタル接続が必要です。
DSD、Dolby Digital、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD、DTS、DTS-HD High Resolution Audio、DTS-HD Master Audio、AAC

- デジタル入力端子の設定の確認を行ってください。初期設定と違う接続をした場合には、設定し直す必要があります。(45)
- 接続した機器でのデジタル出力の設定を確認してください。DVD 対応のゲーム機など、機器によっては初期設定でデジタル出力が OFF になっていることがあります。

希望するリスニングモードが選べない

- スピーカーの接続状況によっては選択できないリスニングモードがあります。「入力信号の種類と対応するリスニングモード」でご確認ください。(58 ～ 64)

音量調整が +18.0dB 以下で終わる

- 付属の測定用マイクで自動スピーカー設定をした場合や、設定画面を使ってスピーカーの音量レベル調整や、ボリューム設定の調整をした場合は、設定できる音量最大値が変わることがあります。(73、88)
- スピーカーの音場補正で、イコライザー設定を「Audyssey(オデッセイ)」にしていると、音量最大値がさらに下がることがあります。(74)

ノイズが出る

- オーディオ用ピンコードと電源コードなどを束ねると音質が劣化しますので避けてください。
- 接続コードが影響を受けている可能性がありますので、接続コードの位置を動かしてみてください。

レイトナイト機能が働かない

- 再生ソースがドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラス、ドルビー TrueHD のいずれかになっているか確認してください。(80)

マルチチャンネル音声が出力されない

- マルチチャンネル対応の DVD プレーヤーを使用しているか確認してください。
- DVD プレーヤーの接続と設定を確認してください。
- 入力切換の MULTI CH ボタンを押して音声入力を「MULTICH」にしてください。(55)

DTS 信号について

- DTS 信号を再生しているときは、本機の DTS 表示が点灯します。プレーヤー側での一時停止やスキップ操作時に発生するノイズを防ぐため、再生が終了しても DTS 表示が点灯したままになります。このため、DTS 信号から急に PCM 信号に切り換わるタイプのソフトは、PCM がすぐに再生されない場合があります。このときはプレーヤー側で再生を約 3 秒以上中断し、再び再生を行うと正常に再生されます。
- 一部の CD または LD プレーヤーでは、本機とデジタル接続をしても正しく DTS 再生ができない場合があります。出力されている DTS 信号に何らかの処理（出力レベル調整、サンプリング周波数変換、周波数特性変換など）が行われていると、本機が正しい DTS 信号とみなすことができず、ノイズを発生することがあります。
- DTS 対応ディスクを再生しているときにプレーヤー側で一時停止やスキップなどの操作をすると、ごく短時間ノイズが発生する場合がありますが、これは故障ではありません。

HDMI 入力音声が頭切れする

- HDMI 信号は、他のデジタル音声信号に比べてフォーマット認識に時間がかかるため、音の出だしが遅れることがあります。

映像

映像が出ない / 乱れる

- TV など、モニター側での入力画面の切り換えを確認してください。
- 前面パネルの PURE AUDIO インジケーターが点灯している場合は、PURE AUDIO ボタンを押して、他のリスニングモードを選んでください。Pure Audio のリスニングモードになっていると、HDMI 出力以外の映像は出ません。
- 接続コードのプラグは奥まで差し込んでください。
- 映像機器と本機を HDMI 端子接続している場合は、本機とテレビも HDMI 端子接続をしてください。
- 映像機器と本機を D 端子接続している場合は、本機とテレビも D 端子、コンポーネント端子、HDMI 端子のいずれかに接続をしてください。(20)
- 映像機器と本機をコンポーネント端子接続している場合は、本機とテレビもコンポーネント端子、D 端子、HDMI 端子のいずれかに接続をしてください。(20)
- テレビを本機の HDMI OUT 端子に接続しているときは「Monitor Out」設定を「HDMI」に設定してください。再生ソースがビデオ（コンポジット）、S ビデオ、コンポーネントビデオの場合、HDMI OUT 端子から出力してテレビで映すには「HDMI 入力設定」を「- - - - -」にしてください。(40、42)
- テレビを本機の HDMI OUT 端子に接続しているときは、HDMI 出力解像度の設定が、接続したテレビがサポートしている解像度とあっているか確認してください。(90)
- テレビを本機の HDMI OUT 端子以外に接続しているときは「Monitor Out」設定を「Analog」に設定してください。再生ソースがビデオ（コンポジット）、S ビデオの場合、COMPONENT VIDEO OUT 端子から出力してテレビで映すには「コンポーネントビデオ端子の設定」を「- - - - -」にしてください。(40、43)
- 再生機器を本機のいずれかの COMPONENT VIDEO IN 端子に接続したときは、テレビは必ず本機の COMPONENT VIDEO OUT か HDMI OUT 端子に接続してください。(24、25)
- 再生機器を本機の HDMI IN 1 ～ 5 のいずれかの端子に接続したときは、テレビは必ず本機の HDMI OUT に接続してください。(24)
- コンポーネントビデオ端子の設定により、VIDEO 端子や S VIDEO 端子に接続した機器の映像を D 端子やコンポーネント端子で接続した TV などのモニターに変換することができますが、ビデオデッキなど映像機器の信号に乱れが多い場合は、テレビで映像が乱れたり映像を表示しなくなる場合があります。この場合は D 端子やコンポーネント端子で接続した TV などのモニターに変換せず、VIDEO または S VIDEO 端子で接続してください。(25)

HDMI IN 1 ～ 5 に接続した映像が映らない

- 「Monitor Out」設定が「Analog」の場合は HDMI OUT 端子からは映像は出力されません。(40)

設定画面表示が出ない / 操作内容が画面に表示されない

- ご使用のテレビなどのモニター側の設定を確認してください。
- COMPONENT VIDEO MONITOR OUT 端子や D4 VIDEO OUT 端子とテレビを接続しているときは、「コンポーネントビデオ端子の設定」で「- - - - -」に設定してください。(43)
- 「音量設定 /OSD 設定をする」の「OSD 設定」で「イミディエイト表示」を「オン」にしてください。(88)

困ったときは

リモコン

リモコン操作ができない

- 電池の極性(⊕ / ⊖)が正しく入っているか確認してください。(14)
- 電池を 2 本とも新しいものと交換してみてください。リモコン電池が消耗していると、一部のボタンが働かない場合があります。(14)
- リモコンと本体の間が離れすぎていないか、リモコンと本体のリモコン受光部の間に障害物がないかを確認してください。
- 本体のリモコン受光部に強い光(インバーター蛍光灯や直射日光)が当たっているとリモコン操作ができない場合があります。
- オーディオラックのドアに色付きガラスが使用されていると正常に機能しない場合があります。
- リモコンのモード切り換えが正しく選択されているか確認してください。(13、100 ~ 106)

RI 専用リモコンコードを使った他のオンキヨー製機器の操作ができない

- 他のオンキヨー製機器と RI ケーブルが正しく接続されているか確認してください。RI ケーブルを接続している場合、オーディオ用ピンコードも接続してください。(RI ケーブルだけでは正しく連動しません)
- もう一度、RI 専用リモコンコードを入力し直してください。(96)
- RI 専用リモコンコードを入力したときは、リモコンを本機のリモコン受光部に向けてください。
- リモコンのモード切り換えが正しく選択されているか確認してください。(13、100 ~ 106)
- 入力表示が正しく設定されているか確認してください。(例 : TAPE 端子に MD レコーダーや CD レコーダー、RI ドックを接続した場合や、GAME/TV 端子に RI ドックを接続した場合)(47)

オンキヨー製機器(RI なし)や他メーカーの機器の操作ができない

- 他機器との接続が正しいか確認してください。
- もう一度リモコンコードを入力し直してください。複数のコードがある場合は、他のコードも試してください。
- リモコンのモード切り換えが正しく選択されているか確認してください。(13、100 ~ 106)
- リモコンをそれぞれの機器の受光部に向けて操作してください。
- 製品によっては動作しない場合もあります。

リモコンの学習操作ができない

- リモコン送信部が正しく向き合っていることを確認してください。
- 学習できないリモコンを学習させようとしていませんか?コードを転送できないもの、1 つのボタンで複数の指示を出すリモコンは学習できないことがあります。

録音 / 録画

録音ができない

- 録音機器側で、デジタルやアナログなどの録音入力切り換えが正しくできているか確認してください。
- 信号がループして本機が損傷することを回避するため、入力信号は同じ端子の IN 端子から OUT 端子に通りません。

録画ができない

- 「Pure Audio」リスニングモードを選択している場合は、映像回路がオフになるため、録画できません。他のリスニングモードを選択してください。

その他

自動スピーカー設定中に「騒音が大きすぎます。」というメッセージが出る

- お使いのスピーカーに異常があることも考えられます。スピーカーの出力などを点検してみてください。

多重音声の言語を切り換えたい

- 「多重音声入力チャンネル」で主音声 / 副音声を選択します。(77)

ヘッドホンを接続すると音が変わる / 表示が消える

- 「Direct」、「Pure Audio」、「Mono」以外のリスニングモードを選択している場合は、ヘッドホンを接続すると自動的に Stereo 出力になります。(54)

本体表示が出ない

- リスニングモードが「Pure Audio」になっていると表示が消えます。

本体表示部が暗い /MASTER(マスター) VOLUME(ボリューム) つまみのまわりのライトが消える

- Dimmer(ディマー) 機能が働いていませんか? DIMMER(ディマー) ボタンを押して、表示部の明るさを変えてください。(54)

本機はマイクロコンピューターにより高度な機能を実現していますが、ごくまれに外部からの雑音や妨害ノイズ、また静電気の影響によって誤動作する場合があります。そのようなときは、電源プラグを抜いて、約 5 秒後にあらためて電源プラグを差し込んでください。

製品の故障により正常に録音・録画できなかったことによって生じた損害（CD レンタル料等）については保証対象になりません。大事な録音をするときは、あらかじめ正しく録音・録画できることを確認の上、録音・録画を行ってください。

本機の電源コードをコンセントから抜くときは、本機の主電源を OFF にしてから抜いてください。

S ビデオ / ビデオ入力に関する初期設定を変更する

画質が悪い

ゲーム機などを本機の映像入力端子に接続してテレビやプロジェクターに出力しているとき、映像が鮮明でない場合は以下の設定を変更することで画質が改善されることがあります。

Video（ビデオ） Attenuation（アッテネーション）

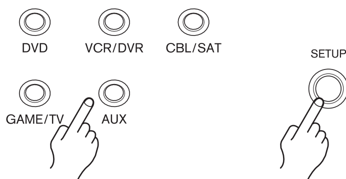
規定を超える強いレベルの S ビデオ（セパレート・ビデオ）信号、またはビデオ（コンポジット・ビデオ）信号が入力してきたとき、ゲイン（利得）を減衰（Attenuation）させて適切な感度を保つことができます。

- Video ATT : OFF（お買い上げ時の設定）
- Video ATT : ON

ゲインを 2dB 減衰します。

設定のしかた（本体ボタンで操作します）

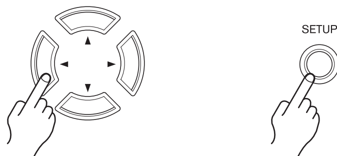
1



設定する入力切換ボタンを押しながら、SETUP ボタンを押す

設定できる入力切換ボタンは「DVD」、「VCR/DVR」、「CBL/SAT」、「GAME/TV」、「AUX」です。

2



◄/► ボタンで設定したい項目を選び、SETUP ボタンを押す

設定が終了します。

* お買い上げ時の設定です。



用語集

音声フォーマット

サラウンド（Surround）
ドルビーデジタルや DSP の音声モードなどを用いた臨場感のある音の総称。

ドルビーデジタル（Dolby Digital）
ドルビー社によって開発されたデジタルマルチチャンネル音声規格。モノラルから 5.1 チャンネルまでに対応しています。プログラム間でセリフの平均レベルを一定に保つダイアログノーマライゼーション、視聴環境の制約に対応してダイナミックレンジを調整するダイナミックレンジ圧縮、スピーカーの数に合わせて出力チャンネル数を最適化するダウンミックスなど数々の機能が採り入れられています。DVD-Video の標準音声、米国 DTV の標準音声として採用されています。

ドルビーデジタル EX（Dolby Digital EX）
映画館の壁面に配置されるサラウンドチャンネルスピーカー、左右側面と背面の 3 つのセクション（左サラウンド、右サラウンド、バックサラウンド）に分割します。これによりサラウンドの空間表現力、定位感が高められ、360 度の回転や頭上を通過するような移動音効果をよりリアルに体感できます。バックサラウンドチャンネルは左サラウンド、右サラウンドに振り分けることもできるため、通常の 5.1 チャンネルとして、既存のドルビーデジタル環境で再生することが可能です。

ドルビープロロジック II（Dolby Pro Logic II）
ドルビー社によって開発されたマトリックスタイプのサラウンドデコード技術。ステレオ音源を 5.1 チャンネルであるかのような立体音場で楽しむことができます。映画の再生に適した「Movie」モード、音楽再生に適した「Music」モード、ゲーム機などに適した「Game」モードがあります。

ドルビープロロジック IIx（Dolby Pro Logic IIx）
ドルビープロロジック II をさらに改良したマトリックスデコード技術。ステレオ音源を 7.1 チャンネル再生するため、かってないほど自然でなめらかなサラウンド体験が得られます。映画の再生に適した「Movie」モード、音楽再生に適した「Music」モード、ゲーム機などに適した「Game」モードがあります。

ドルビーデジタルプラス（Dolby Digital Plus）
ドルビー社が開発した、次世代高精細光ディスク（ブルーレイ、HD DVD）に収録可能な非可逆圧縮の高音質音声フォーマットです。48kHz のサンプリング周波数で、最大 7.1 チャンネルをサポートします。

ドルビー TrueHD（Dolby TrueHD）
ドルビー社が開発した、次世代高精細光ディスク（ブルーレイ、HD DVD）に収録可能な可逆圧縮の高音質音声フォーマットです。48/96kHz のサンプリング周波数で、最大 7.1 チャンネル、192kHz のサンプリング周波数で最大 2 チャンネルをサポートします。

DSD（Direct Stream Digital）
スーパーオーディオ CD に採用された方式です。100kHz をカバーする再生周波数範囲と可聴帯域内 120dB 以上のダイナミックレンジが確保できるので、原音に近い音声で録音・再生ができます。

DTS デジタルサラウンド（DTS Digital Surround）
米国の DTS 社が開発したデジタルサラウンドフォーマット。コヒレントアコースティックス符号化と呼ばれる算法を使用し、圧縮率は通常 4:1 程度と比較的低くなっています。映画館ではフィルムにプリントされたタイムコードに同期して CD-ROM に記録された音声が再生されます。

DTS-ES エクステンディッドサラウンド（DTS-ES Extended Surround）
従来の DTS5.1ch システムにセンターバックサラウンド（CS）チャンネルを加えたもので、かつてない音像・定位感を再現します。DTS-ES には「DTS-ES ディスクリート 6.1ch」と「DTS-ES マトリックス 6.1ch」の 2 種類があり、どちらも下位互換性を有しているため従来の DTS5.1ch 対応機器での再生も可能です。

DTS-ES　ディスクリート（DTS-ES Discrete）
5.1 チャンネル音声データに拡張データとしてセンターサラウンドチャンネル音声データを付加し、この方式に対応した DTS デジタルサラウンドデコーダーによって完全に独立した 6.1 チャンネル音声を再生する DTS システム。

DTS-ES　マトリックス（DTS-ES Matrix）
映画館における DTS-ES と同様に、あらかじめ左右サラウンドチャンネルにマトリックスエンコードされたセンターバックサラウンドチャンネルを、マトリックスデコーダーを使って復元して 6.1 チャンネルとする方式の DTS システム。マトリックスデコーダーとして Neo:6 に対応した機器を使用します。

DTS Express
DTS 社が開発した最大 5.1ch、48kHz のロービットレート音声です。HD DVD のサブオーディオ、ブルーレイディスクのセカンダリーオーディオなどに収録される他、放送コンテンツやメディアサーバーなどの応用が想定されています。

DTS96/24
DTS96/24 フォーマットソースに記録された拡張用データを使用して、5.1 チャンネル再生する DTS システム。サンプリング周波数 96kHz、量子化ビット数 24 ビットの高音質で、きめ細やかな音声を再現します。

DTS-HD ハイレゾリューションオーディオ（DTS-HD High Resolution Audio）
DTS 社が開発した、次世代高精細光ディスク（ブルーレイ、HD DVD）に収録可能な非可逆圧縮の高音質音声フォーマットです。96kHz のサンプリング周波数で、最大 7.1 チャンネルをサポートします。

DTS-HD マスターオーディオ（DTS-HD Master Audio）
DTS 社が開発した、次世代高精細光ディスク（ブルーレイ、HD DVD）に収録可能な可逆圧縮の高音質音声フォーマットです。48/96kHz のサンプリング周波数で、最大 7.1 チャンネル、192kHz のサンプリング周波数で最大 5.1 チャンネルをサポートします。

Neo:6
DTS 社によって開発された、デジタル・アナログを含む全ての 2 チャンネルソースを 6 チャンネルサラウンドにするマトリックスデコード技術。映画に適した「Cinema」モードと音楽に適した「Music」モードが用意されています。また、DTS-ES マトリックスのセンターサラウンドチャンネル信号の抽出にも使用されます。

MPEG-2 AAC
AAC（Advanced Audio Coding）は、AT&T 社、ドルビー社、フラウンホーファー・インスティテュート・フォー・インテグレーティド・サーキット（Fraunhofer IIS）、そしてソニー株式会社の 4 社の高品質マルチチャンネル音声符号化のための最先端技術を組み合わせたもので、ISO と IEC の共同管轄の下に、MPEG-2 規格の一部として規格化された音声圧縮符号化方式です。
従来の MPEG 音声との後方互換性がないので、従来の MPEG 音声デコーダーでは再生できません。わが国のデジタルテレビ音声方式として採用されています。

THX
ルーカスフィルム (Lucasfilm) 社が提唱する劇場用音響の品質規格。映画制作者のニュアンスを劇場で忠実に伝えきるために、レベルやノイズ / 残響音 / 音響機材 / スピーカーの設置位置など厳格な品質基準が設けられています。全世界で 5,000 を超える劇場が認可され、音響品質の高い映画館の代名詞とさえ言われます。

THX ウルトラ 2/ セレクト 2（THX Ultra2/Select2）
THX ウルトラ 2/ セレクト 2 は、従来の 5.1ch 音声の映画や音楽に対し、より大きなサラウンド感覚で再生できるよう考えられた 7.1ch 再生システムです。サラウンドチャンネルはリスナーの両横方向に設置された 2 つのダイポールスピーカー（左右サラウンド）とリスナー後方で近接して設置された 2 つのモノポールスピーカー（左右後方サラウンド）の 4 個のスピーカーでの再生が基本となっています。従来の 5.1ch ソースに対して、より拡がり感のあるサラウンド音場を提供するために、LS/RS の 2 チャンネルサラウンド信号に位相処理等を施して 4 チャンネルサラウンド信号を創り出す ASA（Advanced Speaker Array）と、低域ルームゲインの影響を補正するための B G C（Boundary Gain Compensation）の 2 つの処理が追加されました。また、再生モードも映画再生に適した THX Ultra2 Cinema モードと、マルチチャンネル音楽の再生に適した THX Music モード、ゲームソフトに適した THX Games モードの 3 つが用意されています。

THX サラウンド EX（THX Surround EX）
ルーカスフィルム社が、ドルビーデジタルサラウンド EX をホームシアター用再生システムとしてライセンスを行っている方式。映画館と同様にデコードされた左右サラウンドチャンネル信号からマトリックスデコーダーによってサラウンドバックチャンネル信号を取り出します。それぞれの処理にはホーム THX で定められた厳しい性能規格が適用されます。

用語集

音声

アナログ
一般的な再生機器に装備されている L/R（白 / 赤）音声出力端子からの音声を、アナログ音声と呼びます。

デジタル
デジタル端子は一般的に、CD プレーヤー、DVD プレーヤーなどに装備されています。
ドルビーデジタルや DTS などのデジタル音声を聴くときやデジタル録音するときは、デジタル端子と接続しておく必要があります。

光（OPTICAL）デジタル
DVD や CD などのデジタル信号を入出力するための信号で光ケーブルを使用して接続します。
アナログよりも再生や録音がさらに高品位になります。接続する機器に OPTICAL 端子がある場合に使用できます。
音質は同軸デジタルと同等です。

同軸（COAXIAL）デジタル
DVD や CD などのデジタル信号を入出力するための信号でRCAタイプのピンコードを用いて接続します。
アナログよりも再生や録音がさらに高品位になります。接続する機器に COAXIAL 端子がある場合に使用できます。音質は光デジタルと同等です。

サンプリング周波数
アナログ信号をデジタル信号に変換する時の精度。44.1 k Hz は 1 秒間に 44100 回、96 k Hz は 1 秒間に 96000 回アナログ信号を読みとってデジタルに変換します。

ダイナミックレンジ
信号を正しく変換する最大のレベルと、雑音等機器の性質で制限させる最小レベルの差。

LFE（Low Frequency Effect）
ドルビーデジタルや DTS の低周波数効果音のこと。
一般にディスクなどの信号に入っているとサブウーファーが効果的に働きます。

5.1ch サラウンド
視聴位置前方に設置するセンタースピーカー 1 つ、フロントスピーカー 2 つ、横または後方に設置するサラウンドスピーカー 2 つで 5ch（チャンネル）、サブウーファーは他のスピーカーよりも再生できる音域が 10 分の 1 のため、この 6 本のスピーカーを使って再生することを 5.1ch サラウンドと言います。

7.1ch サラウンド
視聴位置前方に設置するセンタースピーカー 1 つ、フロントスピーカー 2 つ、横または後方に設置するサラウンドスピーカー 2 つ、真後ろに設置するサラウンドバックスピーカー 2 つで 7ch（7 チャンネル）、サブウーファーは他のスピーカーよりも再生できる音域が 10 分の 1 のため、この 8 本のスピーカーを使って再生することを 7.1ch サラウンドと言います。

映像

コンポジット
映像の入出力を行う標準的な信号。テレビやビデオデッキには赤・白・黄の丸い端子が装備されていますが、その黄色端子が映像を意味します。コンポジット信号を入出力するには黄色のピンコードを使用します。

Sビデオ
輝度信号（Y 信号）と色信号（C 信号）、同期信号などを複合した形で扱う信号。コンポジット信号より良い映像を楽しめます。接続にはSビデオコードを使用します。テレビにS端子がある場合使えます。

コンポーネント
輝度信号（Y 信号）と色信号（C 信号）を 2 つに分けた色差信号をそれぞれ独立して扱う信号。
S信号よりも良い映像を楽しめます。接続には専用のコンポーネントケーブルを使用します。テレビにコンポーネント端子がある場合使えます。画質は S ビデオより良く、D 端子と同レベルです。

D端子
ケーブル 1 本で簡単にコンポーネント接続でき、より高品位な映像が楽しめます。テレビに D 端子がある場合使えます。
D1 ～ D5 までの解像度のランクがあり、D5 がもっとも高画質です。画質は S ビデオより良く、コンポーネントと同レベルです。
映像機器のアスペクト比など、制御信号を送ることができます。

HDMI
23 ページ参照。

主な仕様

アンプ部

定格出力(JEITA)
7ch×145W, 6Ω, 20Hz～20kHz, 0.08%, 1ch 駆動時

実用最大出力(JEITA)
7ch×200W, 6Ω, 1kHz, 1ch 駆動時

全高調波歪率
0.08%(20Hz～20kHz 定格出力時)

ダンピングファクター
60(フロント, 1kHz, 8Ω)

入力感度 / インピーダンス
200mV/47kΩ(LINE)
2.5mV/47kΩ(PHONO MM)

出力電圧 / インピーダンス
200mV/470Ω(REC OUT)

PHONO 最大許容入力
70mV(MM, 1kHz, 0.5%)

周波数特性
5Hz～100kHz/+1dB－3dB(LINE)

トーンコントロール最大変化量
+10dB, －10dB, 50Hz(BASS)
+10dB, －10dB, 20Hz(TREBLE)

SN 比
110dB(LINE, IHF-A)
80dB(PHONO, IHF-A)

スピーカー適応インピーダンス
4Ω～16Ω

映像部

入力感度・出力電圧 / インピーダンス
1Vp-p/75Ω(コンポーネント, S ビデオ Y)
0.7Vp-p/75Ω(コンポーネント P_B/C_B、P_R/C_R)
0.28Vp-p/75Ω(S ビデオ C)
1Vp-p/75Ω(コンポジット)

コンポーネント映像周波数特性
5Hz～50MHz, －3dB

総合

電源・電圧
AC100 V, 50/60Hz

消費電力
600W

待機時電力
0.1W

最大外形寸法
幅 435×高さ 194×奥行き 431mm

質量
17.7kg

映像入力

HDMI	IN1, IN2, IN 3, IN4, IN 5
D4	IN1 (DVD), IN2 (CBL/SAT)
コンポーネント	IN1 (DVD), IN2 (CBL/SAT)
S ビデオ	DVD, VCR/DVR, CBL/SAT, GAME/TV, AUX
コンポジット	DVD, VCR/DVR, CBL/SAT, GAME/TV, AUX

映像出力

HDMI	OUT
D4	OUT
コンポーネント	MONITOR OUT
S ビデオ	MONITOR OUT, VCR/DVR (REC OUT)
コンポジット	MONITOR OUT, VCR/DVR (REC OUT)

音声入力

デジタル	OPTICAL 2 (後面)/1 (前面) COAXIAL 3 (後面)
アナログ	DVD (マルチチャンネル), VCR/DVR, CBL/SAT, GAME/TV, AUX, TAPE, CD, PHONO, TUNER
マルチチャンネル	7.1ch

音声出力

デジタル	OPTICAL 1 (後面)
アナログ	TAPE, VCR/DVR, PRE OUT (SURR BACK R, FRONT R, SURR R, CENTER, SURR L, FRONT L, SURR BACK L)
マルチチャンネルプリ	7
サブウーファープリ	1
スピーカー	SURR BACK R, FRONT R, SURR R, CENTER, SURR L, FRONT L, SURR BACK L
ヘッドホン	1

その他

セットアップマイク	有
RS232 端子	1

※仕様および外観は予告なく変更することがあります。

高調波抑制規格 JIS C61000-3-2 適合品

映像機器をお楽しみいただく際のご注意

本機では、ビデオ端子（コンポジット）や S ビデオ端子に接続した機器の映像を HDMI 端子で接続したテレビなどのモニターに変換することができます。

ただし、ビデオデッキなどの映像機器の信号に乱れが多い場合は、テレビで映像が乱れたり、映像を表示しなくなったりする場合があります。

そのようなときは、HDMI 設定「出力解像度」の設定を「480p」または「720p」に変更してみてください。（☞ 90 ページ）

それでも改善されないときは次の方法をお試しください。

1. 本機と映像機器を VIDEO 端子で接続したときは、本機とテレビも VIDEO 端子で接続し、本機と映像機器を S ビデオ端子で接続したときは、本機とテレビも S ビデオ端子で接続する

2. 設定画面の「1. 入力設定」→「HDMI 入力設定」を選び、映像機器を接続している入力の設定を「－－－－－」にする

3. 設定画面の「1. 入力設定」→「コンポーネント映像入力設定」を選び、映像機器を接続している入力の設定を「－－－－－」にする

映像解像度表

入力信号の種類や解像度に対して、本機が出力する映像信号の種類や解像度を調べるときは、下記映像解像度表をご覧ください。

●：出力します

入力 ＼ 出力		HDMI*1					コンポーネント				S ビデオ	ビデオ（コンポジット）
		1080p	1080i	720p	480p	480i	1080i	720p	480p	480i	480i	480i
HDMI	1080p	●										
	1080i	●	●	●								
	720p	●	●	●								
	480p	●	●	●	●							
	480i	●	●	●	●	●						
コンポーネント	1080i	●	●	●			●					
	720p	●	●	●				●				
	480p	●	●	●	●				●			
	480i	●	●	●	●	●				●		
S ビデオ	480i	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
ビデオ（コンポジット）	480i	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

*1　「Monitor（モニター） Out（アウト）」設定（☞40ページ）が「HDMI」のときのみ映像信号が出力されます。

「Monitor Out」設定が「Analog（アナログ）」のときのみ映像信号が出力されます。

「Monitor Out」設定が「Analog」で、出力解像度の設定（☞90ページ）が「**スルー**」のときのみ映像信号が出力されます。

修理について

■ 保証書

この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。
保証期間は、お買い上げ日より 1 年間です。

■ 調子が悪いときは

意外な操作ミスが故障と思われています。
この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、電源プラグを抜いて修理を依頼してください。

修理を依頼されるときは、下の事項をお買い上げの販売店、または付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」記載のお近くのオンキヨー修理窓口までお知らせください。

▶ お 名 前

▶ お 電 話 番 号

▶ ご 住 所

▶ 製 品 名 TX-SA706X

▶ で き る だ け 詳 し い 故 障 状 況

■ オンキヨー修理窓口について

詳細は付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

■ 保証期間中の修理は

万一、故障や異常が生じたときは、商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。
詳細は保証書をご覧ください。

■ 保証期間経過後の修理は

お買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

■ 補修用性能部品の保有期間について

本機の補修用性能部品は、製造打ち切り後 8 年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。

ご購入されたときにご記入ください。
修理を依頼されるときなどに、お役に立ちます。

ご購入年月日：　　　年　　月　　日
ご購入店名：
Tel.　　　（　　）
メモ：

ONKYO®

オンキヨー株式会社

本社　大阪府寝屋川市日新町2-1　〒572-8540

製品のご使用方法についてのお問い合わせ先：コールセンター
☎050-3161-9555（受付時間　10：00〜18：00）
（土･日･祝日･弊社の定める休業日を除きます）
サービスとサポートのご案内：http://www.jp.onkyo.com/support/



http://www.jp.onkyo.com/

Y0806-1

SN 29344739

